

平成 25 年度

自己点検・評価報告書

埼玉純真短期大学

平成 25 年度
自己点検・評価報告書

学校法人純真学園
埼玉純真短期大学

「平成 25 年度 自己点検・評価 報告書」の刊行に寄せて

平成 25 年度は埼玉純真短期大学にとりまして、創立 30 周年の節目の年でした。本学園創設者の福田昌子女史の建学の精神である学園訓「気品・知性・奉仕」の下、初代本学学長福田敏南前理事長が羽生の地に女子高等教育機関を、との思いで本学を創立して以来 30 年が過ぎ、一世代を乗り越えたのです。

本学のこれまで歩んできた道は時代の流れの中で、平坦な時期ばかりではありませんでした。18 歳人口の増減や時代や社会の要請に伴う変化の中での困難な状況下にあっても、「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物」の養成を通して、社会に貢献できることを目指して歩んでいます。

この時代と社会のニーズに対応して、平成 23 年度からは女性幼児教育者養成に特化した「こども学科」単科の「女子短期大学」として、また地域に根ざしたコミュニティカレッジを志向しての活動を開始しました。

その中で、本学の特色の一つとして、平成 19 年度から文部科学省からの委託事業を継承した「特別支援教育」の研究と教育活動を行っています。その活動の一つに地域の関係者を対象として毎年開催している「特別支援教育研究セミナー」があります。残念ながら今年度は例年にない大雪のためこのセミナーを開催できず、来年度へ持ち越しとなりました。

本学が現在のこのような状況にございますのも、羽生市長はじめ地域のみなさまの深いご理解とご支援の賜物と感謝いたしております。さらには羽生市教育長、近隣の高等学校長、市内の教育・保育・福祉・企業関係者および保護者代表と同窓会会長で組織される「埼玉純真短期大学外部評価委員会」による点検と評価をいただいていることもその中の大きな要因であると感謝しております。さらに教職員全員が頂戴したご指摘を真摯に受け止め、改善・改革に努めてきた結果でもあり、これにも感謝しております。このように教職員が一所懸命に学生、そして地域社会への教育に携わっていただけることを感謝するとともに誇りにも感じております。

これからも「卒業生や在学生、そして地域のみなさんが誇りに思える埼玉純真短期大学」を目指して、大学としてのプライドを保ち、本来あるべき姿で、教育と研究を堅実に実行し地域社会に貢献をするという、地道な方法で取り組んで参りたいと思っております。このことが、創設者福田昌子女史の建学の精神「気品・知性・奉仕」であり、学校法人純真学園本来の姿勢を教職員自らが具体化していくことだと考えております。

この報告書は、教職員が自らの立ち位置を再確認し、将来の方向を明確にするため、全教職員がそれぞれに役割を分担し作成しました。本報告書作成に協力していただいた本学全教職員に心より感謝いたします。

最後に、本学が創立 30 周年を記念して、募集定員を 120 名から 150 名へと増員したことを付け加えさせてさせていただきます。

平成 26 年 11 月

埼玉純真短期大学学長 藤田利久

平成 25 年度自己点検・評価報告書 目次

「平成 25 年度 自己点検・評価報告書」の刊行に寄せて

I 本学の概要

- 1 沿革と建学の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
 (1) 沿革
 ① 学園の設立と沿革 ② 本学の創立と沿革
 (2) 建学の理念
 (3) 成果と課題（点検・評価）
- 2 教育方針と特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
 (1) 教育方針
 (2) こども学科
 (3) 成果と課題（点検・評価）
- 3 組織と構成
 (1) 運営組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
 ① 運営組織 ② 成果と課題（点検・評価）
 (2) 校務分掌
 ① 役職 ② 全学的な委員会の長 ③ 全学的な委員会の委員 ④ クラス担任 ⑤ 事務職員
 ⑥ 図書館職員 ⑦ 用務員 ⑧ 成果と課題（点検・評価）
 (3) 入学定員及び学生数
- 4 平成 25 年度学事日程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
 (1) 学事日程
 (2) 成果と課題（点検・評価）

II 入試と広報

- 1 入試・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
 (1) 組織と運営
 ① 入試に関する組織 ② 入試業務
 (2) 平成 25 年度入試の特徴
 ① 入試の改善点 ② 入試の特徴
 (3) 平成 25 年度入試結果
 (4) 募集要項
 ① 募集要項の形式 ② 選抜方法 ③ 入試日程
 (5) 成果と課題（点検・評価）
- 2 広報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
 (1) 組織と運営

- (2) オープンキャンパス
 - ① 日程と内容 ② 参加状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
- (3) その他の広報活動
 - ① 高等学校への訪問 ② ホームページ ③ Web・Site への掲載
 - ④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会 ⑤ 広報誌作成 ⑥ プレカレッジ
- (4) 成果と課題 (点検・評価)

Ⅲ 教育活動

- 1 教育課程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - (1) 教育課程の編成
 - (2) 成果と課題 (点検・評価)
- 2 時間割編成と履修指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
 - (1) 時間割編成
 - ① 時間割編成 ② 成果と課題 (点検・評価)
 - (2) 履修指導
 - ① 履修指導 ② 成果と課題 (点検・評価)
- 3 授業実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
 - (1) 授業科目の履修者
 - ① 前期 ② 後期 ③ 成果と課題 (点検・評価)
 - (2) 授業の開講・休講及び補講の状況
 - ① 授業時数 ② 休講の状況 ③ 補講の状況 ④ 成果と課題 (点検・評価)
 - (3) 授業履修者の問題状況
 - ① 授業欠席調査該当者数 ② 受験無資格者調査該当者数 ③ 再試験該当者数 ④ 追試験該当者数
 - ⑤ 成果と課題 (点検・評価)
 - (4) 免許状・資格取得状況
 - ① 免許状・資格課程履修者数 ② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数
 - ③ 成果と課題 (点検・評価)
 - (5) 教育実習・保育実習・介護等体験
 - ① 実習等の位置づけと目標 ② 実習等の実施状況 ③ 成果と課題 (点検・評価)
 - (6) 授業内容と教育方法の工夫・研究
 - ① 授業内容と教育方法の工夫・研究 ② 成果と課題 (点検・評価)
 - (7) 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果
 - ① 実施経緯 ② 集計結果 ③ 成果と課題 (点検・評価)

Ⅳ 学生生活

- 1 学生の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
 - (1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

	① 平成 24 年度入学生 ② 平成 25 年度入学生	
	(2) 学生の動向	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	クラス担任制	49
	(1) クラス担任制の現状	
	(2) 成果と課題 (点検・評価)	
3	学外における研修	50
	(1) 実施概要	
	(2) 成果と課題 (点検・評価)	
4	課外活動	52
	(1) 学生会	
	(2) 学生会主催行事	
	① 学生会オリエンテーション ② スポーツ大会 ③ 純真祭	
	(3) クラブ活動	
	(4) ボランティア活動	
	(5) 研修活動	
	① リーダー研修	
	(6) 成果と課題 (点検・評価)	
5	学生生活への配慮・支援	57
	(1) 奨学金	
	(2) 健康管理	
	(3) 保険制度	
	(4) 学生専用アパート	
	(5) 通学の状況	
	(6) 学生相談室	
	(7) 成果と課題 (点検・評価)	

V 就職と進学

1	進路支援	61
	(1) 就職指導	
	① 進路支援委員会の基本方針 ② 平成 25 年度年間就職指導計画 ③ 就職指導内容	
	④ 就職関連諸会合への参加	
	(2) 平成 25 年度就職状況	
	① 就職内定状況 ② 就職内定先等内訳及び内定先一覧	
	(3) 成果と課題 (点検・評価)	
2	進学	64
	(1) 編入学	

- (2) その他の進学
- (3) 成果と課題 (点検・評価)
- 3 卒業生への支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

VI 教員の研究活動及び社会的活動

- 1 研究活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
 - (1) 研究活動の概要
 - (2) 専任教員の研究業績
 - (3) 専任教員の所属学会
- 2 社会的活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67
 - (1) 講師・助言者等の実施状況
 - (2) 専任教員の諸団体への所属状況
 - (3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況
- 3 成果と課題 (点検・評価)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73

VII 地域貢献活動

- 1 活動の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 74
- 2 成果と課題 (点検・評価)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75

VIII 図書館

- 1 図書館の基本方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
- 2 組織と運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
- 3 施設・設備及び情報サービス・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
 - (1) 施設・設備
 - (2) 情報サービス
 - ① レファレンス・サービス ② 館外貸出とコピーサービス ③ 視聴覚資料 ④ 情報検索システムの利用
- 4 所蔵点数と年間受入状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
 - (1) 所蔵点数
 - ① 蔵書数 ② 学術雑誌所蔵数 ③ 視聴覚資料所蔵点数 ④ 除籍数
 - (2) 年間受入状況
- 5 利用状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
 - (1) 入館者数
 - (2) 館外貸出
 - (3) その他の業務
 - ① 参考業務 ② 文献複写 ③ 相互利用
- 6 研究紀要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
 - (1) 埼玉純真短期大学研究論文集

7 成果と課題（点検・評価）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 81

IX 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
 (1) 概要
 (2) 成果と課題（点検・評価）

2 施設及び設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
 (1) 概要
 (2) 保守・管理体制
 (3) 成果と課題（点検・評価）

3 学内見取図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85

X 教授会・委員会等

1 教授会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
 (1) 教授会
 ① 開催日程及び主な審議事項等 ② 成果と課題（点検・評価）

 (2) 人事
 ① 採用 ② 退職 ③ 昇任・昇格 ④ 成果と課題（点検・評価）

 (3) 成果と課題（点検・評価）

2 委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
 (1) 教務委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (2) 学生委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (3) 図書委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (4) 実習指導委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (5) 進路支援委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (6) 入試広報委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (7) **FD・SD**推進委員会
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

 (8) 特別支援教育委員会（子ども支援センター）
 ① 構成 ② 概要 ③ 成果と課題（点検・評価）

X I 事務組織

- 1 業務分掌・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 108
 - (1) 事務組織の業務分掌
 - (2) 事務分掌
- 2 成果と課題（点検・評価）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 110

X II 財政

- 1 財政の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 111
 - (1) 消費収支決算の状況
 - ① 消費収入 ② 消費支出
 - (2) 貸借対照表の現状
 - (3) 財務比率
 - (4) 成果と課題（点検・評価）

X III 同窓会（秋桜会）

- 1 活動状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 122
 - (1) 役員組織
 - (2) 活動状況
- 2 成果と課題（点検・評価）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 123

I 本学の概要

1 沿革と建学の理念

(1) 沿革

① 純真学園の設立と沿革

学校法人純真学園は（以下、「本学園」という。）、日本の戦後初期に民主的諸改革が進行する社会状況の中、医学博士にして社会活動家であった福田昌子女史によって、昭和31年（1956年）2月に学校法人純真女子学園として福岡市に設立された。

学園創設者福田昌子女史は、26歳という史上最年少の若さで医学博士の学位を取得し、医療に従事していた昭和22年、日本国憲法下で行われた初の衆議院議員選挙で初当選し、議員立法優生保護法を自ら執筆するなどをはじめ、女性の社会的地位向上のために国政の場で精力的に活動していた。

ちょうどこの時期、戦後の混乱の中、教育基本法・学校教育法が制定され、6・3・3・4制の男女共学がスタートするなど、民主主義国家の建設とそれに対応した教育制度の改革が進み、日本の社会は大きな変革の時期を迎えていた。

福田昌子女史は、戦後復興が進み大きく変化しつつある日本社会の中で、立ち遅れていた女子高等教育の必要性和重要性を強く感じ、「真の女子教育の実現、『気品・知性・奉仕』の精神を備えた女子の育成こそが、新しい日本の基盤に成り得るという信念」の下、昭和31年4月に「“純真な女性の姿”という意味の『純真』を校名に付し」純真女子高等学校を開校し、女性の社会的地位の向上のため教育に未来を託して、教養人として職業を持ち、経済的にも一人の人間として自立できる女性の育成を目指して、本学園における本格的な女子教育が開始された。

その後、昭和32年4月に純真女子短期大学（国文科を設置）、昭和42年4月に東和大学（工業化学科・電気工学科、平成23年10月閉学）、昭和58年4月には埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）を開学し、さらに平成23年4月純真学園大学（看護学科・放射線技術科学科・検査科学科・医療工学科）開学し、現在に至っている。

(表1)

学校法人純真学園の沿革	
年 月	沿 革
昭和31年2月	福田昌子、学園用地その他私財を寄付し、学校法人純真女子学園を設立

I 本学の概要

昭和31年4月	純真女子高等学校を開校
昭和32年3月	学校法人名を福田学園に改称
昭和32年4月	純真女子短期大学（国文科を設置）開学，福田昌子，初代学長就任
昭和41年4月	純真女子短期大学附属じゅんしん幼稚園開園
昭和42年4月	東和大学（工業化学科・電気工学科）開学，福田昌子，初代学長就任
昭和43年4月	純真女子高等学校を東和大学付属東和高等学校と改称
昭和51年1月	福田敏南，学校法人福田学園理事長に就任
昭和54年4月	東和大学付属昌平高等学校開校
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部）開学 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田庸之助，学校法人福田学園理事長に就任
平成19年4月	学校法人名を純真学園と改称
平成19年4月	純真女子短期大学が男女共学化，純真短期大学と改称
平成19年4月	埼玉純真女子短期大学を埼玉純真短期大学と改称
平成19年4月	東和大学付属東和高等学校を純真高等学校と改称
平成19年4月	東和大学付属昌平高等学校を学校法人昌平学園へ移管
平成22年3月	純真短期大学，第三者評価適格認定
平成22年3月	埼玉純真短期大学，第三者評価適格認定
平成23年4月	純真学園大学開学
平成23年10月	東和大学閉学
平成24年3月	埼玉純真短期大学，第三者評価適格認定

② 埼玉純真短期大学の創立と沿革

本学は、昭和58年4月、羽生市の要請を受け、英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部の3学科をもって現在の地に開学した。

福田昌子女史が昭和31年に創立した純真女子学園の「学園訓」（建学の精神）の理念に基づく女子短期大学が埼玉県に設立されたものであるという意味を込めて、本学は「埼玉純真女子短期大学」と命名された。

開設時の学科・専攻は、英語学科（入学定員100名）・児童教育学科（初等教育学専攻：同50名・幼児教育学専攻：同50名）・幼児教育学科第二部（同50名）の3学科（うち1学科は第二部3年課程）2専攻であった。第1期入学生は、英語学科62名・児童教育学科初等教育学専攻45名・同幼児教育学専攻58名・幼児教育学科第二部42名の計207名であった。

その後、社会情勢の変化による学生数の減少傾向が起これ、これをくい止めるために学科名称やコース名称の変更、募集定員の見直しなどを行ったものの、平成18年の英語コミュニケーション学科、平成19年の乳幼児保育学科第二部と相次いで募集停止し、「こ

I 本学の概要

ども学科」単科による学校運営を余儀なくされた。

しかし、このことが幸いし「保育・幼児教育に特化した女子短期大学」を志向し、文部科学省の委託事業や教員免許状更新講習など、幼児教育の特色を活かした取り組みが功を奏して、「こども学科」の入学者も年々増加傾向を示し、平成23年度入学者は定員を確保できるまでに回復した。平成25年度の入学予定者は定員を上回る160名となり、平成25年3月には平成26年度からの入学定員を150名とする定員増の申請を行わざるを得なくなった。これまでの本学の学生増に結びついた教育活動への取り組みは、平成21年度及び平成24年度に実施された2度の短期大学基準協会による「認証評価」の現地調査においても高く評価された。

本学は、昭和58年4月の開学以来、地域社会に根ざした女性のための高等教育機関として、専門知識と技術を兼ね備えた職業人を養成するとともに、社会奉仕と地域貢献に大きな使命感を抱いて努力してきた。この一例として、教育研究活動などにおいては、「羽生市学びあい夢プロジェクト」、「特別支援研究セミナー」や「市民公開講座」をはじめとして、羽生市や羽生市教育委員会との連携、そして埼玉県東部地区の教育関係者との交流により、地域の大学として広く認識されるまでに至っている。

(表2)

埼玉純真短期大学の沿革	
年 月	沿 革
昭和58年4月	埼玉純真女子短期大学開学（英語学科・児童教育学科・幼児教育学科第二部） 福田敏南，初代学長就任
平成12年2月	福田順忠，第2代学長就任
平成12年12月	中澤 鐵，第3代学長就任
平成16年4月	学科及び専攻課程の名称を変更 ・英語学科→英語コミュニケーション学科・児童教育学科→こども学科 ・幼児教育学科第二部→乳幼児保育学科第二部 ・初等教育学専攻→こども学専攻，・幼児教育学専攻→乳幼児保育専攻
平成17年4月	入学定員を変更し，こども学科の専攻（こども学専攻，乳幼児保育専攻）を廃止 ・英語コミュニケーション学科:100人→50人・こども学科:100人→150人
平成18年4月	英語コミュニケーション学科募集停止
平成19年4月	埼玉純真短期大学に校名変更し，乳幼児保育学科第二部募集停止 藤田利久，第4代学長就任
平成19年8月	平成19年度文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」採択
平成20年3月	英語コミュニケーション学科廃止
平成20年8月	「教員免許更新制に伴う予備講習」実施

I 本学の概要

平成22年3月	第三者評価適格認定（財団法人短期大学基準協会）
平成22年3月	乳幼児保育学科第二部廃止
平成23年4月	「こども学科」入学定員を150名から120名へ変更
平成24年3月	第三者評価適格認定（財団法人短期大学基準協会）
平成24年3月	木のこ（多目的教室）完成
平成24年3月	初代学長 福田敏南 第2代理事長の顕彰碑除幕
平成24年5月	創立30周年を祝う会開催
平成25年3月	理科実習室を教養実践室へ改装、学生食堂周辺整備、学生食堂調理室改装 渡り廊下バリアフリーへ改装、ICT環境整備（各教室プロジェクター取り付け）

（2） 建学の理念

本学の「学則」には、本学設立の目的を次のように規定している。

○ 埼玉純真短期大学学則より抜粋

第1章 総則

（目的及び使命）

第1条 この短期大学は教育基本法に則り、学校教育法に定める短期大学として、学術の理論及び応用を研究教授すると共に、純真学園建学の精神に基づき、健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成することを目的とする。

学則第1条の「目的及び使命」の「学術の理論及び応用を研究教授する」は「学校教育法」第83条に、そして「健康にして良識ある人格高き社会の指導的人物を養成する」は、同第108条の「大学は、第83条第1項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業又は實際生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる。」に対応しており、本学が職業人養成大学として教育を担うことを明らかにしている。

さらに、「純真学園建学の精神に基づき（以下略）」では、本学が、学園訓「気品」・「知性」・「奉仕」を中核とする人間教育を継承し、良識ある社会人の育成を通して社会貢献を目指していることを含意している。

このように、本学設立の目的は、専門的知識や技術を持って社会に貢献できる「良き職業人」・「良き社会人」の基礎となる、「純真」なる心で人々に接する「良き人間」の育成であり、羽生市を中心として広く地域社会に貢献できる女子高等教育機関としての使命を果たそうとするものである。

（3） 成果と課題（点検・評価）

時代の追い風の中で順調に学生確保と教育が進み、短期大学運営には教職員も状況変化に特段の危機意識を持つことのないままに運営がなされてきた。つまり、時代の要請の中で、本学の知的財産をどのように活かし、発展させていくべきか、養成する学生像とはど

I 本学の概要

のようなものかなどについて、綿密な点検と評価、そして実践が必ずしも徹底していたとは言えなかった。これを反省し、平成 19 年度から点検・評価を基に本学の運営の見直しと教職員の意識改革を行った。

平成 24 年度も時代の変化に迅速かつ適切に対応するため、建学の精神に則って幼児教育者養成を使命とし、教育内容・教育方法など含む大学としての在り方やマナー・授業方法・研究活動などを含む教職員のあるべき姿を常に熟慮しながら、より実践的な教育が出来るように心掛けた。

さらに昨年度は全教職員が復活を導く強い意識と自信、意欲の高まりをもって取り組んだ年といえる。その結果、入学者数が平成 23 年度は 127 名、24 年度入学者は 120 名と募集定員を満たし、今年度の入学者は 160 名を越す結果となった。また平成 26 年度入学予定者は 173 名を数え、入学選考も第 1 期推薦入試以降の AO 入試と推薦入試を取り止めせざるを得なくなった。

これは短大基準協会による本学にとって 2 回目となる「第三者評価」の応募申請に向けて、教職員が意識を高めて一致協力しながら準備を行ったことや、平成 23 年度から開催している本学の特色ともいえる継続事業「特別支援教育研究セミナー」、「こども大学はにゅう」、「市民公開講座」など地域社会への教育貢献事業を開催していることも、成果となり自信となっている。今後も現状に甘んじることなく、「保育・教育者養成機関」として、教職員が一丸となって教育と研究の更なる高みを求め、学園訓・教育目標をより具体化させた学生教育や地域貢献活動を一層充実させていくことが必要であると考えている。

課題としては、学園訓を具現化できる学生の育成のために、大学改革および教育改革に取り組んでいるものの、全ての教職員の意識に浸透しているとは言い難く、おのずと個々の理解や取組の姿勢には違いが見られる。これは旧来からの「大学観」や「教師像」から依然として脱却できないことが原因とも考えられるが、今後はこのような意識の改革や行動変容を促していけるような運営を進めなければならない。

学外に対しては、市民公開講座の実施や地域教育機関への協力などを積極的に行っているが、さらに「学びの機会と場」を質的・量的両面において提供できる地域密着型の大学としての役目を果たすことが今後も引き続き大きな課題であろう。

2 教育方針と教育の特徴

(1) 本学の教育方針

本学の「教育方針」は 「学園訓」と共に「学生便覧」の冒頭に掲げられている。

○ 本学の教育方針

(1) 相互に相協同しつつ軽佻浮薄な態度を慎み、優雅で落ち着きのある言動を心掛けねばならない。気品を支えるも

I 本学の概要

のは洗練された情操と知性である。

- (2) 現実に即応し、正しい判断を下すことの出来るのは広い視野と高い知性にほかならない。従って知識を豊かにし、真理の追求に努力しなければならない。
- (3) 常に研鑽途上にある事を自覚し、謙虚に自己を見つめ自己満足に陥ることなく小我を捨て、大我に徹する精神を養うことを心掛けなければならない。奉仕の精神は小我を捨てる事によって始まる。

これは、「学園訓」の「気品」・「知性」・「奉仕」のそれぞれの意味を具体化したものであり、本学園の教育の基本方針を明示したものである。

「気品」の基盤は「洗練された情操と知性」にあり、「知性」は豊かな「知識」と「真理の追求」によって磨かれること、「奉仕の精神」は「小我を捨て、大我に徹する精神を養うこと」によってもたらされることを述べて、本学における学問と知識の探求、人間形成とが表裏一体の関係にあることを説いている。

つまり、「気品」・「知性」・「奉仕」の中心に位置する「純真で豊かな」人間性を核として、人間性を高める深い教養、現実に即応した専門的領域の知識・技能を修得し、職業や實際生活に活かしていくことのできる能力を身に付けることが、本学の教育目標と言える。

これを具現化するために、次の3点を養成目標として、教育活動に取り組んでいる。

1. 「気品」：人間としての豊かな感性や社会的文化的常識（マナーやエチケットなど）を備えた人間性豊かな「良き人間」の養成
2. 「知性」：知識の習得とそれらを総合しての考える力（課題発見と分析・解決能力など）と積極的な行動力をもった「良き職業人」の養成
3. 「奉仕」：「気品」と「知性」をもって、利害を気にすることなく、他者のために積極的に行動できる「良き社会人（市民）」の養成

本学では、この「学園訓」と「教育方針」を全教職員が理解し教育活動に臨むように、学内に「学園訓」を掲示すると共に、学長以下教職員それぞれが入学式や卒業式、入学・進級オリエンテーション、そして教職員会議など、折に触れてその真意を理解し、行動できるように心掛けている。

また入学予定者にはプレカレッジ（入学前教育）でも「学長講話」などで学園訓を詳しく伝え、在学生には「日本語表現」の授業の中で個々人の建学の精神の解釈を求めている。入学希望者とその保護者を含む外部に対しては、本学の大学案内パンフレット、ホームページなどで「学園訓」と本学の「教育方針」を提示し、理解されるよう努力している。

(2) こども学科

こども学科では、小学校教諭と幼稚園教諭を目指す「こども学コース」と、幼稚園教諭と保育士を目指す「乳幼児保育コース」を設け、学生それぞれの目標にあわせて専門性を

I 本学の概要

追求できるようにしている。しかし、その教育方針は「理論と実践を総合的にバランス良く修得し、常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ことである。

前者の「理論と実践を総合的にバランスよく修得」するためには、小学校と幼稚園の連携や初等教育の一貫性を考慮して、小学校と幼稚園における教育・保育を総合的に理解した教員として現場に立てるよう、教育理論と実践をバランス良く習得可能なカリキュラム編成などを工夫している。

後者の「常に考えながら行動できる保育・教育の専門職を養成する」ためには、子どもの発達理解と発達段階を踏まえた保育や援助方法などの理論と実践を身につけた幼児教育・保育の専門職の養成を目指した科目設置をしている。

この目的の実現のため、教室での授業はもとより、現場を理解し、教科理解がより進むように保育・教育現場での経験を重視している。このため実習指導にも重点を置き、2年間を通して実習の事前・事後指導を行い、実習をより実り多いものできるように配慮している。このように実習の事前・事後指導などにおいても、理論と実践を統合できるようにきめ細かく丁寧に行っているところも本学科の特色のひとつである。

さらに、ボランティア参加など自主的な活動の場を積極的に提供することで、将来、保育や教育の専門職者となる学生が自ら課題を発見し、実践の中でそれを明確にしながらか解決し、その成果をもとにその後さらに発展させていくような態度を育てる指導を心掛けている。

また、継続的な学習習慣を身に付け、絵本や幼児向け図書の積極的活用や保育・教育の場に活かす資料検索などの基礎知識と技術を学べるよう、司書教諭資格が取得できる科目を設けている。

保育・教育の現場ではたとえ新人であっても保育者・教師としての即戦力を求められている。そのため「こども学コース」では、少人数クラスで模擬授業・授業研究・学校見学など実践的な授業方法と内容を取り入れるとともに、「乳幼児保育コース」でも現場の実践知を学び、理解を深められるように、外部から現場の保育者や教育者を招くなどによって授業を展開している。

さらに深く学んでみたいと希望する学生には4年制大学への編入指導も行っている。

(3) 成果と課題（点検・評価）

本学は「こども学科」単科とすることで、目的を同じくする学生を、全教職員が学園訓と教育方針に基づいた共通した考えや方針で、教育することができてきたと考えている。

授業実施においても養成すべき学生像について、教員間で共通理解が出来ており、教員間の授業協力や質の均一性が保たれている。学生の希望職種がほぼ共通するため、実習での指導も行いやすく特別な問題が発生していないこと、また学生の希望にかなった就職が出来ていることなどから、全体的には順調に教育活動が行えていると言えよう。

I 本学の概要

一方、今後早急に対処と改善を必要とする問題もある。それは学生の基礎学力向上を図りながら同時に社会人・職業人としての基礎知識や意識を育てるような保育・教育の専門教育を行わなければならないことである。

この基礎学力不足は、近年どの大学でも問題となっていることであるが、この基礎学力の不足によって「こども学科」における専門的な授業展開が年々遅れがちになる傾向がみられる。また、核家族化や学力中心教育の影響からか、社会人・職業人としての基礎知識や意識に欠ける学生が増えていることも問題である。特に、幼児教育者としての職業的責任からも社会人・職業人としての態度、適切な言葉遣いや対人関係を良好に保つためのスキルを身につけることも重要な課題として捉えなければならない。これは近年多くの大学でも大きな問題として顕在化しているように、友人関係や集団になじめないことなどが原因で授業に積極的に臨めない学生がいることとも関連している。

前者の基礎学力向上のためには、リメディアル教育の充実などで解決していくが、後者の態度や言葉遣い、対人関係のスキルを身に着けることは、大学と家庭とが協力して解決していかなければならない課題である。このため、本学では新入生対象の「入門ゼミ」に加え、日本語の知識と運用能力向上を目的とした「日本語検定試験」の実施により、これらの問題解決の一步を目指している。

いずれにせよ、本学の建学の精神、教育目的達成のためには、このどちらも解決しなければならない。これらの課題が未解決の場合、その後の実習や資格取得、さらには就職活動や就職後の問題として発生し、学生自身が所期の目的を達成することが困難な状況を招く原因となる。このことを大学と学生の将来の問題として重大に受け止め、教職員全体の問題として解決していきたいと考えている。詳しくは学生指導の項目に述べるが、今後、全教職員が家庭との連絡を密にしながら、より真剣に取り組んでいかなければならない問題であろう。

3 組織と構成

(1) 運営組織

① 運営組織

平成 25 年度の専任教員はつぎの表のとおりである。

○ 各学科の教員配置

こども学科	
藤田 利久・伊藤 道雄・牛込 彰彦・小澤 和恵・入江 良英(特)・安倍 大輔・稲垣 馨	
・高橋 努・持田 京子・細田 香織・安村 由希子・阿部 峰雄(特)・齋藤 史夫(特)	
・浅井 広	以上 14 名(専任教員) 内 4 名特任教員(特)

I 本学の概要

教授会は、学則第 42 条に基づき、上記の中の専任教員をメンバーとして組織し、これに事務局長・各セクションの責任者（事務職員）も同席して、意見を述べるができるようにしている。これにより情報共有を図ることができ、教員と事務局職員の意思疎通と業務がスムーズに遂行できていると考える。

教授会にはそれぞれの案件を検討・処理する委員会を下記の表のとおり設けている。これらの委員会の委員配置については、すべての教員ができるかぎり均等に担当することを基本とした。これらの委員会には、原則として、学長と事務局長も出席するとしている。

この教授会の議事をスムーズに進行させるため、議題は事前にメールで教職員に配信し、事前に議題の理解と意見の準備が可能となるようにしている。

○ 委員会一覧

教務委員会、学生委員会、図書館情報委員会、進路支援委員会、入試広報委員会、実習指導委員会、FD&SD 推進委員会（自己点検・評価委員会を含む）、特別支援教育委員会（子ども支援センター）
--

② 成果と課題（点検・評価）

教員組織について「教員の職位と年齢のバランスを考えなければならない。同時に、教員数についても、科目に対する適正配置ができるように増員を考えていかなければならない」との考え方にに基づき教員の新規採用を行った。このことにより、職位と年齢、そして科目担当のバランスもより適正に近づくものとなった。

教授会については、学長が議長となり、原則的に毎月 1 回（夏季休暇中 8 月は開催なし）開催された。さらに緊急に必要な場合には、臨時教授会を開催した。

教授会は各委員会より教授会に提出された議案について審議と報告を行ったが、事前に各委員会で検討されたものであり、ほぼ異議なく了承された。質問や意見を求められる場合もあったが、それらは確認するといった意味と内容であった。感情的な対立はなく、常識ある大学人としての学生教育と研究に深く関わる議論も出始め、教授会も活性化してきたと思われる。

委員会は、昨年度同様、学生対応など突発的事項で日常的に繁忙を極める委員会と、比較的ルーティンワーク中心の委員会とに分かれたものの、すべての教員が 3 委員会程度の委員を兼務するため、個々の教員の業務は忙しいものとなった。

本学の専任教員に限られるため、各委員会委員長は兼務の形を取らざるを得ない状況であったが、委員会では委員長を各委員がそれをサポートする形で、それらの業務を分担し、的確に対処していった。これは、多くの委員会が、定例委員会のほか、インフォーマルの情報交換を行い、臨時会議などを開催するなど、情報や意見交換を密に行った結果、円滑に運営され十分に機能したと言える。

しかし、あまりに日常の処理業務が集中し、マニュアル作成や新規事業などの発展的な業務が予定どおりに進まない委員会や、日常的業務処理に留まり、あまり積極的活動の

I 本学の概要

見えない委員会があったことは、大学サービスの向上と大学発展を見据えた場合、次年度に向けての反省事項であろう。

(2) 学務分掌

① 専任教員とその職位

こども学科
学 長：藤田 利久
教 授：伊藤 道雄・牛込 彰彦・小澤 和恵・入江 良英（特任）
講 師：安倍 大輔・稲垣 馨・高橋 努・持田 京子・安村 由希子・細田 香織・阿部 峰雄（特任） 齋藤 史夫（特任）
助 教：浅井 広

② 委員会の委員長

委員会名	委員長名
教務委員会	小澤 和恵
学生委員会	高橋 努
図書館情報委員会	牛込 彰彦
実習指導委員会	牛込 彰彦
進路支援委員会	安倍 大輔
入試広報委員会	小澤 和恵
FD&SD 委員会	安倍 大輔
特別支援教育委員会（子ども支援センター）	伊藤 道雄

③ 委員会の委員（◎は委員長）

委員会名	教員名
教務委員会	◎小澤 和恵・牛込 彰彦・高橋 努・安村 由希子・齋藤 史夫
学生委員会	◎高橋 努・伊藤 道雄・入江 良英・安倍 大輔・稲垣 馨・持田 京子・浅井 広
図書館情報委員会	◎牛込 彰彦・細田 香織・安村 由希子・浅井 広・阿部峰雄
進路支援委員会	◎安倍 大輔・伊藤 道雄・持田 京子・入江 良英
入試広報委員会	◎小澤 和恵・高橋 努・細田 香織・齋藤 史夫・浅井 広
実習指導委員会	◎牛込 彰彦・伊藤 道雄・稲垣 馨・持田 京子・高橋 努・細田 香織
FD&SD 委員会	◎安倍 大輔・稲垣 馨・齋藤 史夫
特別支援教育委員会 （子ども支援センター）	◎伊藤 道雄・稲垣 馨・安村 由希子

I 本学の概要

④ クラス担任 () 内は副担任

クラス		1年	2年
乳幼児保育コース	A組	高橋 努	伊藤 道雄
	B組	安倍 大輔	稲垣 馨
こども学コース	C組	小澤 和恵	細田 香織 (持田 京子)
	D組	安村 由希子	牛込 彰彦

⑤ 事務職員

本学の事務職員は、事務局長以下、専任職員 11 名で、庶務・教務・学生・進路支援・入試広報・実習指導をそれぞれに担当した。

係名	氏名
事務局長	大山 富一
シニアアドバイザー(入試・進路・地域連携)	佐藤 猛
庶務・経理担当	大澤 尚子
入試広報係	中村 周・西山 理恵
教務係	矢内 美優 片山 美冴
学生係	田中 淳一・相馬 萌
進路支援係	奥貫 慶一郎
実習係	松原 みゆき・林 真麻

⑥ 図書館職員

本学の図書館職員は、平成 23 年度に非常勤司書を採用し 2 名体制での運営を継続。

図書館司書(係長)	阿部峰雄
図書館司書(非常勤)	大木 美晴

⑦ 成果と課題 (点検・評価)

平成 25 年度はここ 3、4 年の間で最も教職員の入れ替えが少ない年であった。少ない教職員がそれぞれの職務の責任者として担当している関係上、多少の戸惑いは見られたが、学生の教育や研究活動を日常的に支援・推進する委員会やクラス担任、事務組織は順調に運営されたと思われる。

委員会は前年度の教務委員会・学生委員会・図書館情報委員会・進路支援委員会・実習指導委員会・入試広報委員会に加えて、第三者評価の準備のため、FD&SD 委員会 (自己点検・評価委員会を含む) の設置、子ども支援センター開設に伴う特別支援委員会の設置と、委員会の充実を図った。事務局では、各セクションに 2 名ずつ職員を配置し、十二分とは

I 本学の概要

言えないまでも、学生サービスにおいては、特別大きな支障をきたすことにはならなかった。事務職員以外では、年度初めからカフェテリアとして学食を直営化し、学食業務関係者を学食職員として引き継ぎ、充実を図った。

教員は出勤日が週4日（他研究日1日）であるため、担当授業コマ数を8コマ程度としたため、委員会や教育活動、学生指導にあたる傍ら、個人の研究活動にもある程度の時間を確保できた。

各委員会の担当教職員は組織の一員として、責任感を持って自己の職務を遂行する積極的な姿勢が見られ、さらに、公開講座や近隣の学校をはじめ、教育・保育諸機関の養成に応じた地域活動や援助を積極的に行うなど、新規事業への取り組みがあったことは評価できる。

しかし、個々の教職員の慣例的な業務スタイルや考え方の違いが取り組み姿勢や業務量に影響を及ぼしており、今後改善の必要があろう。そのためには変化を恐れず、広い視野に立って考え、個々の経験を集約しながら新しい時代や社会的な環境に適した学生指導及び各種活動に取り組むことが出来るような運営組織と行動スタイルの確立が目指されるべきである。そのための取り組みの一つとして、事務局はセクションによって仕事量や繁忙期に差が見られるため、今後は事務局を一室にまとめるなどによって、協力体制が取りやすいような工夫が必要であろう。また委員会同様に、学校運営や事務仕事はルーティーンになりがちであり、進歩や改革には消極的である。事務職員の人数が限られることもあり、今後は「考える事務作業」を遂行できるような個々の努力も必要であろう。

(3) 入学定員及び学生数

○ 入学定員・学生数一覧

(平成25年5月1日現在・単位：人)

学科・専攻		定員	1年	2年
こども学科	乳幼児保育コース	120	157	110
	こども学コース		4	5
合計		120	161	115

4 平成25年度学事日程

(1) 学事日程

○ 学事日程一覧

前期		後期	
日付	行事	日付	行事

I 本学の概要

平成 25 年		9 月 30 日	後期授業開始
4 月 1 日	平成 25 年度入学式	10 月 5 日	保護者会
4 月 2 日・3 日	学外研修（1 年生）、補講日（2 年生）	10 月 12 日	AO 入試面談、公開講座
4 月 4 日	身体測定、内科検診	10 月 18 日	純真祭準備日
4 月 5 日	前期授業開始	10 月 19 日・20 日	純真祭、進学相談会
4 月 13 日	補講日	10 月 21 日～24 日	秋研修日
4 月 20 日	補講日	10 月 26 日	補講日
4 月 26 日	スポーツ大会	11 月 2 日	推薦入試 I 期
4 月 27 日	第 1 回オープンキャンパス	11 月 9 日	補講日
5 月 11 日	補講日、保護者会	11 月 16 日	補講日
5 月 12 日	創立 30 周年記念行事	11 月 23 日	AO 入試面談、進学相談会
5 月 18 日	補講日	11 月 30 日	補講日
5 月 20 日～6 月 8 日	幼稚園教育実習（乳幼児保育コース 2 年）	12 月 7 日	推薦入試 II 期
5 月 20 日	小学校教育実習（こども学コース 2 年）	12 月 14 日	AO 入試面談、進学相談会、プレカレッジ
～6 月 15 日		12 月 27 日	冬季休業
5 月 25 日・26 日	第 2 回オープンキャンパス	～平成 26 年 1 月 3 日	
6 月 8 日	公開講座	1 月 6 日	後期授業再開
6 月 15 日・16 日	第 3 回オープンキャンパス	1 月 11 日	進学相談会、プレカレッジ
6 月 22 日	補講日	1 月 18 日	AO 入試面談、一般入試 I 期
6 月 29 日	補講日、公開講座	1 月 24 日	表現発表会リハーサル
7 月 1 日～16 日	保育所実習（乳幼児保育コース 2 年）	1 月 25 日	表現発表会
7 月 6 日・7 日	第 4 回オープンキャンパス	1 月 28 日～2 月 3 日	後期試験期間
7 月 12 日	ディズニー研修（1 年生）	2 月 1 日	進学相談会、プレカレッジ
7 月 13 日	公開講座	2 月 7 日	追再試験発表日
7 月 20 日・21 日	第 5 回オープンキャンパス	2 月 10 日～22 日	施設実習（乳幼児保育コース 1 年）
7 月 22 日～26 日	前期補講期間	2 月 12 日～14 日	追再試験期間（2 年生）
7 月 27 日	補講日、公開講座	2 月 17 日	春季休業
7 月 29 日～8 月 2 日	前期試験期間	～3 月 27 日	
8 月 3 日・4 日	第 6 回オープンキャンパス	2 月 22 日	AO 入試面談、一般入試 II 期
8 月 5 日	AO 入試面談	2 月 26 日～28 日	追再試験期間（1 年生）
8 月 5 日～9 月 18 日	夏季休業	3 月 6 日	プレカレッジ
8 月 5 日～8 日	私立短期大学体育大会	3 月 7 日	卒業式予行日
8 月 23 日	保育所実習補講日	3 月 8 日	学位授与式
8 月 24 日	第 7 回オープンキャンパス	3 月 20 日	AO 入試面談、プレカレッジ
8 月 25 日	Home Coming Day、第 7 回オープンキャンパス	2 月 26 日～28 日	春の学校見学会
		3 月 28 日	2 年生オリエンテーション

I 本学の概要

8月26日	AO入試面談	3月31日	補講日
8月26日 ～9月9日	保育所実習（乳幼児保育コース2年）		
9月2日～4日	キャリアデザイン集中講義（1年）		
9月2日～24日	幼稚園教育実習（こども学コース2年）		
9月6日	幼稚園実習補講日		
9月9日～14日	幼稚園教育実習（1年）		
9月14日	公開講座		
9月19日	追再試験発表日		
9月21日	AO入試面談		
9月26日・27日	追再試験期間		
9月28日・29日	第8回オープンキャンパス		

（2） 成果と課題（点検と評価）

授業コマ数 15 コマ以上を確保した上で、保育所・幼稚園・小学校での実習を組み込んでいくため、補講日の設定などで学事日程はかなり窮屈なものとなったが、これも免許状と資格の取得を目指す短期大学の宿命ともいえよう。

入学生に対して、入学前のプレカレッジ（入学前教育）と入学前オリエンテーションを行い、加えて入学式後には学外（合宿）研修と学内オリエンテーションを実施することができ、スムーズに大学生活に入ることができた。また、7月のディズニー研修は、3年目となったが、大変有意義な研修となっているので、今後も継続していきたい。

純真祭（学園祭）は、昨年度同様に今年度も、あまり寒さを感じないという季節的な要因と2年生の就職活動にも大きな影響が出ない時期などの点から10月の2日間で行った。そして今年度は、学園祭後、4日間の秋研修期間を設けた。2年生は本格的就職準備のため、1年生も落ち着いた時期であり、学びの振り返りや様々な見聞を高める機会となったように思う。

学生に対する保護者の思いを大切に、大学と保護者の関係を密接にすることで学生生活を意義あるものしたいという考えから、毎年保護者会を開催している。昨年度より春と秋に行うこととしたが、保護者から本学の教育環境と指導体制に対するより一層のご理解をいただく機会となり、さらに大学－学生－保護者の関係づくりが深まることで密な学生指導につながっていると考える。同時に実施している個別面談、昼食懇談会も好評である。

今年度は14回目の授業後に試験期間を置き、試験期間後に15回目の授業を実施するスケジュールにした。それにより、半期授業内容と試験のフィードバックが可能となり、学習内容の定着につながったと考える。

Ⅱ 入試と広報

1 入試

(1) 組織と運営

① 入試に関する組織

(a) 入試広報委員会

入試に関する事項は、入試広報委員会によって審議した。

(b) 入試問題作成

本学では、一般入試において学力検査（国語）を実施している。また、社会人入試において作文を課している。問題作成については、国語科を担当する教員を中心として問題を作成している。

(c) 高等学校等への入試広報

高等学校等への広報活動として、在学生の出身校をはじめ、近隣の高等学校へ大学案内・学生募集要項等を持参し、進路指導部や高等学校3年生の担任と面会した。この活動には、入試広報事務担当者だけでなく、専任教員や職員も積極的に取り組んだ。

② 入試業務

入試広報委員会と入試広報課の協力によって、以下の業務を行っている。各事項について教授会の承認を得る必要のあるものは、定例の教授会に原案をあげ、審議を経たのち決定されている。

○ 入試広報業務一覧

●入試の企画・運営

入試の種類の設定・入試日程（案）作成・指定推薦校（案）作成・入試選考基準（案）作成・学生募集要項作成
大学案内作成・広報誌等作成・入試問題作成・入学願書受付・入試の実施・合否判定資料の作成・合格通知発送

●広報活動

進学相談会・学校見学会（オープンキャンパスを含む）・募集資料の配布・ホームページ作成・高等学校における
模擬授業・公開講座などの企画・運営

(2) 平成 25 年度入試の特徴

① 入試の改善点

入試区分については、平成 24 年度の改善点を活かし、平成 25 年度の入試区分について

は特に変更は行っていない。

指定校への推薦基準となる評定平均値については、学校の偏差値や入学者の現況にあわせて一部見直しを行った。

② 入試の特徴

(a) 入試の動向

指定校推薦入試、公募制推薦入試、専門高校・総合学科等推薦入試、同窓生推薦入試と多様化する進学者のニーズを捉えて推薦入試の区分を4区分設定している。

指定校推薦入試は、本学より指定された高等学校（中等教育学校を含む）を平成26年3月卒業見込みで、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に実施するもので、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価し、推薦基準となる評定平均値については別に定めている。

公募制推薦入試は、1回実施している。高等学校（中等教育学校を含む）を平成26年3月卒業見込み、及び平成25年3月高等学校（中等教育学校を含む）を卒業した者で、学業成績の条件を満たし、出身学校長から推薦される者を対象に、目的意識と学習意欲の高い人材を求めた入試である。書類審査と面接にて総合的に評価する。

専門高校・総合学科等推薦入試は、1回実施している。専門高校とは、商業科・工業科・農業科などを指し、総合学科の高等学校と同じ扱いにした。推薦基準となる卒業年度等は、公募制推薦入試に準じている。

同窓生推薦入試は、1回実施している。同窓生推薦入試とは、埼玉純真短期大学の卒業生が、母校である本学へ入学を希望する受験生を、責任を持って推薦する制度であり、指定校推薦と同様の扱いとする。また、受験に際して対象者は同窓生名で推薦し、入学金免除規程第2条に該当する場合は入学金を免除する。高等学校(中等教育学校を含む)を平成26年3月卒業見込みの者で、書類審査と面接にて総合的に評価する。

一般入試は、2回実施している。各コースとも学科試験「国語（古文・漢文を除く）」と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価する。

社会人入試は、社会的経験を有する者で、将来、保育・教育・福祉に従事する事を目指しているか、同分野の学習に興味のある社会人を対象に、作文(800字以上)と面接を課し、書類審査を含め総合的に評価している。平成25年度の入試においては、希望者がいなかった。

AO入試は、9回設定（実施は5回）している。まず、入学希望者が本学のアドミッションポリシーを理解した上で、担当者が約30～40分程度の面接を行う。面接内容は、入学希望者から本学の教育方針・授業内容・学校生活・就職状況等の質問を受け、本学から入学希望者の志望動機・学習意欲・将来の進路、優れた能力・活動についての質問を行う。本試験を行う前に進路相談会やAO入試ガイダンスを行い、入学希望者と本学の相互理解を促し、出願・試験に至る入試である。

それぞれの入試における合否判定は、入試終了後、入試委員会、合否判定教授会を開催し公平かつ厳正に行われる。合否は、受験生及び出身学校長に通知し、電話・メール・FAX

II 入試と広報

等による問い合わせには応じていない。

(b) 応募者の動向

○ 本学志願者の推移

(単位:人)

年 度	応募者数
	こども学科
平成 20 年度	86
平成 21 年度	97
平成 22 年度	131
平成 23 年度	127
平成 24 年度	191
平成 25 年度	193

(3) 平成 25 年度入試結果

○ 入試結果一覧

(平成 26 年 3 月 31 日現在・単位:人)

入試区分	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
指定校推薦入試	86	86	86	86
公募制推薦入試	13	13	12	12
専門高校・総合学科等推薦入試	0	0	0	0
同窓生推薦入試	2	2	1	1
一般入試	6	6	4	2
社会人入試	0	0	0	0
AO 入試	89	75	75	72
計	193	182	178	173

(4) 募集要項

① 募集要項の形式

A4 冊子形式とし、記述内容の充実を図った。

② 選考方法

○ 選考方法一覧 ※平成 25 年度は募集定員の設定なし

入試区分		推薦書	調査書	個人面接	学力検査等
推薦入試	指定校	○	○	○	—
	公募制	○	○	○	—

Ⅱ 入試と広報

	専門高校・総合学科等	○	○	○	—
	同窓生	○	○	○	—
	一般入試	—	○	○	「国語」(古文・漢文を除く)
	社会人入試	—	○	○	作文(800字以内)※
	AO入試	—	※○	○	—

※エントリーでは不要だが、出願では必要

③ 入試日程

○ 入試日程一覧

入試区分		出願期間	試験日	合格発表日	入学手続 締切日
指定校推薦入試		平成25年10月7日(月) ～10月28日(月)	11月2日(土)	11月6日(水)	11月29日(金)
公募制推薦入試	I期	平成25年10月7日(月) ～10月28日(月)	11月2日(土)	11月6日(水)	11月29日(金)
	II期	平成25年11月18日(月) ～12月2日(月)	12月7日(土)	12月11日(水)	12月27日(金)
専門高校・総合学科等 推薦入試	I期	平成25年10月7日(月) ～10月28日(月)	11月2日(土)	11月6日(水)	11月29日(金)
	II期	平成25年11月18日(月) ～12月2日(月)	12月7日(土)	12月11日(水)	12月27日(金)
同窓生推薦入試	I期	平成25年10月7日(月) ～10月28日(月)	11月2日(土)	11月6日(水)	11月29日(金)
	II期	平成25年11月18日(月) ～12月2日(月)	12月7日(土)	12月11日(水)	12月27日(金)
一般入試	I期	平成25年12月16日(月) ～1月14日(火)	1月18日(土)	1月22日(水)	2月14日(金)
	II期	平成26年2月3日(月) ～2月17日(月)	2月22日(土)	2月26日(水)	3月14日(金)
社会人入試	I期	平成25年11月18日(月) ～12月2日(月)	12月7日(土)	12月11日(水)	12月27日(金)
	II期	平成26年2月3日(月) ～2月17日(月)	2月22日(土)	2月26日(水)	3月14日(金)

II 入試と広報

○ AO入試日程一覧

入試区分	エントリー期間	面接	出願許可 通知	出願期間	合格 発表日	入学手続 締切日
AO入試	平成25年7月15日(月) ～7月26日(金)	8月5日 (月)	8月9日 (金)	9月2日(月) ～ 9月13日(金)	9月18日 (水)	10月18日 (金)
	平成25年7月29日(月) ～8月16日(金)	8月26日 (月)	8月30日 (金)			
	平成25年8月26日(月) ～9月13日(金)	9月21日 (土)	9月27日 (金)	9月30日(月) ～ 10月11日(金)	10月16日 (水)	11月15日 (金)
	平成25年9月17日(火) ～10月4日(金)	10月12日 (土)	10月18日 (金)	10月21日(月) ～ 11月1日(金)	11月6日 (水)	12月13日 (金)
	平成25年10月28日(月) ～11月15日(金)	11月23日 (土)	11月29日 (金)	12月2日(月) ～ 12月13日(金)	12月18日 (水)	1月17日 (金)
	平成25年11月18日(月) ～12月6日(金)	12月14日 (土)	12月20日 (水)	12月24日(火) ～ 1月10日(金)	1月15日 (水)	2月14日 (金)
	平成25年12月16日(月) ～1月10日(金)	1月18日 (土)	1月24日 (金)	1月27日(月) ～ 2月7日(金)	2月19日 (水)	3月7日 (金)
	平成26年1月20日(月) ～2月14日(金)	2月22日 (土)	2月28日 (金)	3月3日(月) ～ 3月7日(金)	3月12日 (水)	3月19日 (水)
	平成26年2月17日(月) ～3月17日(月)	3月20日 (木)	3月20日 (木)	3月24日(月) ～ 3月25日(火)	3月26日 (水)	3月28日 (金)

(5) 成果と課題(点検・評価)

大学入試の基本方針は文部科学省で示されている。その中で、各大学独自の特徴をもった入試が多く展開されている。入試形態が複雑化し、受験生に理解されにくい点が見受けられるため、今後さらにわかりやすいものにしていきたい。

遠隔地からの受験生に対し、受験前日の市内宿泊と入学金の免除という支援は、今年度も同様に実施して、遠隔地からの受験負担軽減につなげている。

Ⅱ 入試と広報

また、AO入試受験者の基礎学力が問題にされているが、今年度は面談前の時間を使って、思い描く保育士、教育者像についての記述問題を課した。それによって入学への意欲や関心、文章力を見ることができ、面談時の参考となった。次年度はこのことを募集要項などで明確に示し、AO受験者が準備しやすいようにしていきたい。

2 広報

(1) 組織と運営

学生の受け入れに関する広報活動は、以下の内容で入試広報課を中心に全教職員で行った。

○ 広報活動一覧

- ・大学案内・入試ガイドブック・学生募集要項・ホームページ・電飾看板の作成
- ・受験生や高等学校への窓口業務（大学案内・募集要項・入試問題集などの配布・入試に関する問い合わせへの応答等）と学校見学の案内など・受験雑誌への広告掲載・進学相談会・模擬授業への教職員派遣・資料請求対応・取材対応

(2) オープンキャンパス

① 日程と内容

平成25年度は、以下の日程で計15回のオープンキャンパスを実施した。内容は、学科の説明・体験授業・個別進学相談・キャンパス見学・学食体験などである。

○ オープンキャンパス実施日程一覧

- ①：平成25年4月27日（土） ②：5月25日（土）、26日（日） ③：6月15日（土）、16日（日） ④：7月6日（土）、7日（日） ⑤：7月20日（土）、21日（日） ⑥：8月3日（土）、4日（日） ⑦：8月24日（土）、25日（日） ⑧：9月28日（土）、9月29日（日）

II 入試と広報

○ オープンキャンパス実施内容詳細

	日 時	プログラム
第 1 回	平成 25 年 4 月 27 日(土) 9:30～受付開始 10:00～14:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1 時間目：11:00～11:40 2 時間目：11:50～12:30) A：「読み聞かせを体験しよう」 B：「イメージと遊ぼう コラージュの世界」 C：「高校生の主張・これが私の幸せだ」 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散
第 2 回	5 月 25 日(土) 26 日(日) 9:30～受付開始 10:00～15:00	1 開会：学科・入試説明等 2 体験授業 (1 時間目：11:00～11:40 2 時間目：11:50～12:30) A：「子どもが楽しめるレクリエーションを体験しよう」 B：「発達障害について知ろう」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 ピアノ個人レッスン（1 人：20 分） 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散
第 3 回	6 月 15 日(土) 16 日(日) 9:30～受付開始 10:00～15:00	1 ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等／複数回参加者対象 体験授業 3 体験授業 (1 時間目：11:00～11:40 2 時間目：11:50～12:30) A：「紙芝居の演じ方」 B：「子どもと遊べるおもちゃを作ってみよう」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 ピアノ個人レッスン（1 人：20 分） 4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散
第 4 回	7 月 6 日(土) 7 日(日) 9:30～受付開始 10:00～15:00	1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者対象 体験授業 2 体験授業 (1 時間目：11:00～11:40 2 時間目：11:50～12:30) A：「話し上手・聞き上手」 B：「児童文化 “七夕を楽しもう”」 C：「園だよりをつくろう」 保護者対象教員との懇談会 11:00～11:40 3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学（希望者のみ） * 食事終了後、自由解散

Ⅱ 入試と広報

<p>第 5 回</p>	<p>7月20日(土) 21日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者対象 体験授業 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「息を合わせてワン・ツー・スリー！！」 B：「沐浴体験実習」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>保護者対象教員との懇談会 11:00~11:40 ピアノ個人レッスン(1人：20分)</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 食事終了後、自由解散</p>
<p>第 6 回</p>	<p>8月3日(土) 4日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>特別応援「やさしさと愛で人は育つ」 ～ハーブの調べにのせて～</p> <p>A：「脳ってふしぎ！」 B：「子どもと遊べるおもちゃをつくろう！」 C：「歌で自己紹介をしてみましょう！」 D：「あつと驚く紙芝居」 E：「ピヨピヨ講座」(1, 2年生対象)</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 食事終了後、自由解散</p>
<p>第 7 回</p>	<p>8月24日(土) 25日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>1 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 2 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「見えない世界だからこそ信じたい」 B：「お楽しみシアターがいっぱい」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」 D：「レクリエーションで友達を作ろう」 E：「ピヨピヨ保育講座」(1, 2年生対象)</p> <p>保護者対象教員との懇談会 11:00~11:40</p> <p>3 学食体験 4 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 食事終了後、自由解散</p>
<p>第 8 回</p>	<p>9月28日(土) 29日(日)</p> <p>9:30~受付開始</p> <p>10:00~15:00</p>	<p>1. ウェルカムコンサート 2 開会：学科・入試説明等／複数回参加者 体験授業 3 体験授業 (1時間目：11:00~11:40 2時間目：11:50~12:30)</p> <p>A：「手作りおもちゃを作ってあそぼう」 B：「こんな時どうする？」 C：「ドキドキ・ワクワクピアノ講座」</p> <p>ピアノ個人レッスン(1人：20分)</p> <p>4 学食体験 5 個別進学相談・キャンパス見学・アパート見学(希望者のみ)</p> <p>* 食事終了後、自由解散</p>

Ⅱ 入試と広報

② 参加状況

○ オープンキャンパス参加状況一覧（単位：人）

平成 25 年実施結果（出願率 60%目標）

実施回数	実施日	こども学科					複数回									
		延べ人数 (高校生・保護者)		1.2 年生	個別 相談 者数	初回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回	8 回	9 回	10 回	
春の 見学会	平成 25.27(水)	10	3	0	3	10	※4月からの新学年でカウント									
	平成 25.3.28 (木)	28	9	0	3	28										
	平成 25.3.29 (金)	17	2	0	2	17										
	計	55	14	0	8	55	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1	平成 25.4.27 (土)	38	5	0	22	37	2									
2	平成 25.5.25. (土)	30	13	0	18	19	8	3								
3	平成 25.5.26 (日)	32	13	5	25	22	7	3								
4	平成 25.6.15 (土)	60	29	0	39	39	14	6	1							
5	平成 25.6.16 (日)	35	18	0	16	17	10	8								
6	平成 25.7.6(土)	38	15	0	31	11	10	12	5							
7	平成 25.7.7(日)	37	30	3	20	12	13	10	2							
8	平成 25.7.20 (土)	69	27	13	25	32	18	8	8	3						
9	平成 25.7.21 (日)	49	31	5	18	23	12	7	7							
10	平成 25.8.3(土)	47	16	8	24	17	12	4	5	7	2					
11	平成 25.8.4(日)	76	29	28	15	47	11	9	7	2						
12	平成 25.8.24 (土)	92	33	43	17	57	11	8	8	5	2	1				
13	平成 25.8.25 (日)	63	33	29	22	41	8	7	1	2	3	1				
14	平成 25.9.28	48	18	11	13	19	7	11	3	3	4	1	1			

	(土)														
15	平成 25.9.29 (日)	38	15	15	14	19	4	5	4	2	1	2	1		
合計			807	339	160	327	467	147	101	51	24	12	5	2	0

③ 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパスは、本学を理解していただける絶好の機会と考えている。平成 25 年度のオープンキャンパスの開催日については、昨年度の実績を基に検討して決定した。

学科説明、入試説明、体験授業、模擬授業、学食体験、キャンパス見学、個別相談などを実施し、本学教職員と学生スタッフで対応している。一人ひとりを大切にするという、単学科で小規模ならではの本学の良さを、来学された高校生や保護者にも感じていただけるように、教職員はもちろん学生スタッフも親切、丁寧な対応を心がけている。

オープンキャンパスも回を重ねるごとに、複数回の参加者（リピーター）が増えてくるため、別プログラムを置き、毎回の学科説明や入試説明などの重複を避けるという対応をしている。また卒業生を招いての講演や保護者対象懇談会、在学生との懇談会などの様々な企画を行い、本学の特色を幅広く理解していただくよう工夫している。

個別相談では、受験生一人ひとりに対応し、本学により興味を持ってもらえる貴重な機会としている。よりスムーズな相談を目指し、可能な限り高校訪問先の生徒と面談できるよう相談担当者を置くという配慮を行った。

どの回においても、オープンキャンパス当日の朝、教職員、学生スタッフでの打ち合わせを行い、終了時に同じく全員で振り返りの反省会を行っている。そこで出た様々な意見を次回に活かすよう心がけているため、回を追うごとに充実してきているように思う。

実績として、昨年度より参加者が多くなり、入学志願者にもつながっているのは、これらの工夫や努力が功を奏していると考えられる。

（3） その他の広報活動

① 高等学校への訪問

本学では開学以来、県内はもとより隣接県の高等学校を中心に高校訪問を行っている。訪問の目的は、本学の教育理念や取組・入学試験での選考方法、卒業後の進路などについて、高等学校に理解して頂くことである。平成 25 年度も、全教職員を各地区に分担し、春期、夏期、秋期、冬期と高校訪問を行った。春期の訪問では、指定推薦校を中心に訪問を行った。夏期は、高等学校の三者面談が終了した時期に訪問し、秋期は、推薦入学試験の願書受付が始まる前に、オープンキャンパスや学校見学などに来ていただいた高校生の出身校を中心に訪問を行った。冬期は、推薦入学試験や AO 入学試験合格者の高校に対して、お礼の挨拶とプレカレッジの案内及びその時期以降の入試（一般入試、AO 入試）についての案内を行った。

② ホームページ

大学案内パンフレットとならんで、ホームページもまた本学に関する情報を受験生や一般の方へ提供する媒体として重要な役割を担っている。特にホームページは、最新の情報を提供できるということにおいて、パンフレットとは異なる利点がある。ホームページは「埼玉純真短期大学の今」を発信できるものとして位置付けている。具体的には、授業紹介、ピアノレッスン動画、教職員や学生ブログのアップなど、役に立つ情報の提供とともに、大学や学生が行っている活動や、それを通して何を感じているのかをリアルタイムに知ることが出来るホームページとなっている。

③ Web サイトへの掲載

本学のホームページ以外に、教育関係者を介してインターネット上に本学の状況等を公開している。平成 25 年度は 7 社と契約を行い、資料請求やオープンキャンパスへの申し込み等を可能にしている。Web サイトへの掲載による効果は、他大学を検索中に本学の取組みや取得可能な資格・免許状等について、より多くの対象に目に留めてもらう機会として利用可能な点である。この取組により資料請求者の居住地域が広範囲になった。

④ ガイダンス・模擬授業・キャンパス見学会

毎年、埼玉県を中心に茨城県・群馬県・栃木県等のホテルや高等学校を会場とした進学相談会やガイダンス、模擬授業に積極的に参加している。進学相談会やガイダンスに参加することで、本学を志望する生徒に対して、直接個々のニーズや様子をその場で捉えながら柔軟に説明ができています。また、模擬授業は、本学教員の教育への取組みや姿勢、入学後に学ぶ内容について触れ、理解してもらえるよい機会であろう。

随時キャンパス見学も受け入れており、オープンキャンパス以外に本学へ直接来校する受験生や保護者に対して、個別にキャンパス見学や相談を実施し、希望があれば授業への参加や学食体験にも対応している。

⑤ 広報誌作成

本学の学校行事や授業、学生の活動等に関する広報誌として「Junshin News Letter」を発行している。平成 25 年度は 3 回発行した。この広報誌は、在学生と保護者をはじめ、オープンキャンパスや進学ガイダンス参加者、高校や地域の各機関などに配布している。

⑥ プレカレッジ

推薦入試や AO 入試での合格者は入学までの時間が長いため、入学までの意識や意欲、モチベーションが下がらないように、入学前教育としてプレカレッジを実施している。合格者に対して入学前の事前教育を行うことによって、入学に対する意識づけのみならず、学力低下を防ぐ対策にもなっている。

実施概要と内容は、以下のとおりである。

II 入試と広報

○ プレカレッジ概要

<p>・日程</p> <p>必修科目 平成26年1月11日(土)・2月1日(土)</p> <p>選択科目 平成25年12月14日(土)・平成26年1月11日(土)・2月1日(土)・3月6日(木)・3月20日(木)</p> <p>特別講演 平成26年1月25日(日) 表現発表会開催(羽生市産業文化ホールにて)</p> <p>・履修方法 必修科目について、1月11日(土)、2月1日(土)のどちらか都合の良い日に出席する。</p> <p>選択科目について、12月14日(土)1月11日(土)、2月1日(土)、3月6日(金)、3月20日(金)は、それぞれ受講を希望する日に出席する。</p>

○ プレカレッジ日程及び内容一覧

実施日	<p>1時限目 10:30～11:30</p> <p>2時限目 11:40～12:40</p> <p>3時限目 13:30～14:30</p>		
平成25年 12月 14日 (土)	<p>選択「保育原理入門から 保育記事」 (入江教授)</p>	<p>選択「特別支援教室」 (伊藤教授)</p>	<p>選択「こどもと文化 ～行事を楽しむ (クリスマス)」～ (持田講師)</p>
平成26年 1月 11日 (土)	<p>必修「建学の精神を理解する」 (藤田学長)</p> <p>必修「保育・教育実習入門」 (牛込教授)</p>	<p>選択「弾き歌いとピアノレッスン」 (小澤教授, ほか)</p> <p>選択「子どもにとって遊びって何？」 (安倍講師)</p>	
1月 25日 (土)	<p>特別講座 表現発表会 (13:00～16:20) 開催場所：羽生市産業文化ホール・大ホール</p>		
2月 1日 (土)	<p>必修「建学の精神を理解する」 (藤田学長)</p> <p>必修「保育・教育実習入門」 (牛込教授)</p>	<p>選択「弾き歌いとピアノレッスン」 (小澤教授, ほか)</p> <p>選択「子どもと文化―(節分)」 (持田講師)</p>	
3月 6日 (木)	<p>選択「幼稚園・ 保育所の基礎知識」 (浅井教授)</p>	<p>選択「保育内容 ～魔法の言葉を添えて～」 (加藤講師)</p>	<p>選択「フラクタルで飛び出 す！春のカード」 (齋藤講師)</p>
3月 20日 (木)	<p>選択「相談援助」 (高橋講師)</p>	<p>選択「こころの不思議」 (稲垣講師)</p>	<p>選択「特別支援保育 ～こんな時どうする？」 (安村講師)</p>

(4) 成果と課題（点検・評価）

オープンキャンパス以外の広報活動として行っている高等学校への訪問や模擬授業、進学ガイダンスは、本学教職員ができる限り担当高校を決めて訪問することで、高校側との信頼関係を築くことを重視した。

本学を広く理解してもらうためには、ホームページや広報紙「Junshin News Letter」は大変重要である。ホームページについては、常に新しく魅力ある情報を発信できるような体制を整え、多くの教職員、学生がブログを掲載した。ホームページへのアクセス数も増え反響も大きい。広報誌「Junshin News Letter」についても、高校や高校生、在學生、保護者に配布して、本学への理解を深めていただいている。入学前教育（プレカレッジ）は7年目を迎え、合格内定者からはもちろん、高等学校からも理解と評価を得られている。学生の状況を把握しながら、さらに内容の充実を図っていきたい。

Ⅲ 教育活動

1 教育課程

(1) 教育課程の編成

本学において授与する学位は短期大学士であり、取得可能な免許状・資格は次のとおりである。

○ 学科別授与称号及び免許状・資格証の名称一覧

学科名	教育課程	称号・免許状・資格証
こども学科	卒業課程	短期大学士（こども学）
	教員養成課程 教員養成課程 保育士養成課程 司書教諭課程 社会福祉主事任用資格 レクリエーション・インストラクター資格 ピアヘルパー受験資格	小学校教諭二種免許状 幼稚園教諭二種免許状 指定保育士養成施設卒業証明書 司書教諭課程修了証書

こども学科では、子どもに関する専門分野の知識を授け、向上心に溢れる優れた人格と協調性豊かな人材の育成を目的としている。本学科における教育課程は教養教育科目及び専門科目をもって編成する。教育における質を保持しながら、保育・教育の専門職を養成する本学の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、専門科目に偏ることのないようにバランスよく、体系的なカリキュラム編成をしている。

(2) 成果と課題（点検・評価）

「変化する時代の要請と求められる大学像、専門職像に対応した人材育成」を目指したカリキュラムになるよう作成している。ほとんどの科目を半期で完結させる Semester 制にしたことによって、履修計画の見直しが行いやすくなったことや、万一不合格科目があった時も、卒業後、半期の科目等履修が可能となるなど、リカバリーが早期にできるようになっている。

レクリエーション・インストラクター資格やピアヘルパー受験資格は、本学学生にとってそれほど負担もなく付加価値をつける資格・免許となっている。

2 時間割編成と履修指導

(1) 時間割編成

① 時間割編成

学生にとって効果的な授業を目指して、授業における学生数を講義科目では 50 名以下、演習・実習科目では 40 名以下となるよう配慮した時間割編成を行っている。

乳幼児保育コースにおいては、幼稚園教諭二種免許状・保育士資格及び司書資格の取得が可能になるように、またこども学コースにおいては、小学校教諭二種免許状・幼稚園教諭二種免許状及び司書教諭資格が取得可能となるように編成には配慮をした。また、小学校課程の科目については、模擬授業などが効果的、効率的に行えるように、1, 2 年生合同で受講できるような編成とし、その科目については隔年開講としている。

② 成果と課題 (点検・評価)

講義科目の履修者は 50 名以下、演習・実習科目では 40 名以下となるように配慮して時間割を作成している。また、必要に応じて一斉指導も行えるように編成をしている。

(2) 履修指導

① 履修指導

4 月のオリエンテーションにおいて、教務委員と教務事務担当者によって学年別に履修説明が行われ、さらに、授業の選択方法と免許状及び資格の取得方法などについてクラス担任からも指導を行った。

最終的な履修指導と履修登録の指導に関しては、1 年生についてはクラス指導が可能な「入門ゼミ I」において、2 年生についてはゼミにあたる「保育実践演習」の時間においてそれぞれの担任が実施した。

昨年度作成した「卒業要件単位チェックリスト」を、卒業要件単位の取得状況把握に活用している。また、履修登録と同時に「免許状・資格の取得希望調査」を提出とし、クラス担任・教務委員と教務事務担当者が全学生の取得希望の免許状・資格と履修状況を確認して必要な指導を行っている。さらに教務事務担当者は随時、学生に対し個別の履修指導を行った。

② 成果と課題 (点検・評価)

新入生に対しては、入学前オリエンテーションから始まり、学外研修と学内オリエンテーションでの機会を利用して、履修説明と指導の時間を充分に取ることが出来た。さらに最終的な履修指導と履修登録をゼミの時間で行うことで、履修の確認と履修登録期間の遵

Ⅲ 教育活動

守が徹底された。

クラス担任・教務委員・教務事務担当者との連絡体制が整っており、年度を超える時点での申し送りの徹底が図られているので、再履修等の指導もスムーズに行うことができた。

卒業要件単位の取得状況が確実に把握できるように作成した「卒業要件単位チェックリスト」の活用もうまく機能し、学生自身はもちろん、担任や教務係も、卒業要件単位の取得状況がわかり、履修指導に役立てることができた。

3 授業実施状況

(1) 授業科目の履修者

① 前期

(単位：人)

授業科目の履修人数 (名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	0	1	0	0	1
1-9	0	12	3	0	15
10-19	1	8	0	0	9
20-29	1	36	0	0	37
30-39	1	25	0	0	26
40-49	33	30	0	0	63
50-59	2	0	0	0	2
60-69	0	0	0	0	0
70-79	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0
130 以上	0	0	0	0	0
計	38	112	3	0	153

Ⅲ 教育活動

② 後期

(単位：人)

授業科目の履修人数(名)	(教養教育科目) 教養科目	専門教育科目	司書教諭資格に関する専門科目	その他の科目	計
0	0	6	0	0	6
1-9	0	12	2	0	14
10-19	0	12	0	0	12
20-29	4	14	0	0	18
30-39	9	33	0	0	42
40-49	7	25	0	0	32
50-59	0	1	0	0	1
60-69	0	0	0	0	0
70-79	0	0	0	0	0
80-89	0	0	0	0	0
90-99	0	0	0	0	0
100-109	0	0	0	0	0
110-119	0	0	0	0	0
120-129	0	0	0	0	0
130以上	0	0	0	0	0
計	20	103	2	0	125

③ 成果と課題(点検・評価)

講義科目の履修者は50名以下、演習・実習科目では40名以下の授業実施を心がけており、卒業、資格・免許に関わる教養教育科や専門科目においては実現できている。選択の教養教育科目では、履修登録まで人数が読めないところがあるため、2科目においての50名を数名超える授業ができてしまった。

(2) 授業の開講・休講及び補講の状況

① 授業時数

平成 25 年度の授業は、厚生労働省の通達に基づき、前期・後期ともに 15 回開講された。

② 休講の状況

(a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	6
専門科目	0	0	0	0	0	0	0	2	1	6	9
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	4	1	10	15

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分	休講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6
専門科目	0	0	0	0	0	1	2	6	6	15	30
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	1	2	6	8	20	37

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校教育実習のために休講となった授業はこの表には含まない。

③ 補講の状況

(a) 前期

(単位：科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	2	0	4	6
専門科目	0	0	0	0	0	0	0	2	1	7	10

Ⅲ 教育活動

司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	4	1	11	16

(b) 後期

(単位：科目)

教育課程の区分	補講回数別授業科目数										
	10回以上	9回	8回	7回	6回	5回	4回	3回	2回	1回	計
教養科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5	6
専門科目	0	0	0	0	0	1	2	6	7	14	30
司書教諭に関する専門科目	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
その他の科目	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	1	2	6	9	19	37

前期・後期ともに保育所実習及び幼稚園・小学校教育実習のために補講となった授業はこの表には含まない。

④ 成果と課題（点検・評価）

休講となった授業は必ず補講を行い、前期・後期ともに、すべての授業において15回以上の授業が実施されている。

(3) 授業履修者の問題状況

① 授業欠席調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻	学年	欠席要注意授業科目数別該当者数											
			10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	2	1	7	3	2	2	4	3	11	21	55
		こども学コース	2年	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	5
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	1	1	1	0	2	2	5	11	24
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計				4	2	8	4	4	2	6	6	17	32	85

(b) 後期

(単位：人)

Ⅲ 教育活動

	学科・専攻		学年	欠席要注意授業科目数別該当者数										
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	1	3	3	2	6	9	9	8	7	16	64
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	2	0	1	0	1	4
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	2	1	3	1	2	4	7	13	23	22	78
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
計				3	4	6	3	8	15	16	22	31	39	147

② 受験無資格者調査該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	受験無資格科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	1	3
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	4

③ 再試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2	10	15
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	1	0	4	7	22	34	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	
計				0	0	0	0	0	1	1	6	9	35	52	

(b) 後期

(単位：人)

Ⅲ 教育活動

	学科・専攻		学年	再試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	9	16
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	1	2	0	3	12	21	39	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	
計				0	0	0	0	1	2	1	5	17	31	57	

④ 追試験該当者数

(a) 前期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数											
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計	
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3	6	
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計				0	0	0	0	0	0	1	0	2	4	7	

(b) 後期

(単位：人)

	学科・専攻		学年	追試験科目数別該当者数										
				10以上	9	8	7	6	5	4	3	2	1	計
卒業 学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	0	0	0	0	0	0	2	0	4	0	6
		こども学コース	2年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学年 非卒業	こども学科	乳幼児保育コース	1年	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3
		こども学コース	1年	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計				1	0	1	0	0	0	2	0	4	1	9

⑤ 成果と課題（点検・評価）

学則に「各授業科目について出席すべき時間数の3分の2に達しない者は、その授業修了の認定を受けることができない」との定めがある。授業の出席回数不足による定期試験受験無資格者をなくすために、毎日授業担当教員から教務課に欠席状況を報告し、それを教務課が集計して、全学生の全科目の欠席状況を全教員へ配信している。これによって、学生の出席状況を日々把握し、授業担当者及びクラス担任から、出席状況に問題のある学生に対する指導を行うことができ、出席回数不足による受験無資格者を昨年よりかなり減少させている。

学生数が増加したこともあるが、再試験該当者が昨年度より増加している。評価方法についての教員に対して共通方針が示されているが、学生にも学習到達を明確していく方法にさらに工夫し、学習成果につなげていきたい。

Ⅲ 教育活動

(4) 免許状・資格取得状況

① 免許状・資格課程履修者数

(単位：人)

卒業学年・非卒業学年	学科・専攻		学年	司書教諭資格	小学校教諭二種免許状	幼稚園教諭二種免許状	保育士資格	免許・資格を取得しない者	人数(実数)
卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	2年	-	-	105	105	2	108
		こども学コース	2年	2	4	4	-	0	4
	小計			2	4	109	105	2	112
非卒業学年	こども学科	乳幼児保育コース	1年	-	-	155	155	0	155
		こども学コース	1年	4	4	4	-	0	4
	小計			4	4	159	155	0	159
合計				6	8	268	260	2	271

② 免許状・資格課程の履修組み合わせ別履修者数

(単位：人)

免許・資格の 組み合わせ	卒業学年			非卒業学年			合計	
	こども学科		小計	こども学科		小計		
	乳幼児 保育 コース	こども 学 コース		乳幼児 保育 コース	こども 学 コース			
小学校教諭二種	-	0	0	-	0	0	0	2
幼稚園教諭二種	1	0	1	0	0	0	1	
保育士	1	-	1	0	-	0	1	
小学・司教	-	0	0	-	0	0	0	261
幼稚・小学	-	2	2	-	0	0	2	
幼稚・保育	104	-	104	155	-	155	259	
小学・幼稚・司教	-	2	2	-	4	4	6	6
無免許・無資格	2	0	2	0	0	0	2	2
計	108	4	112	155	4	159	271	

注) 表中の表記は以下のように省略する。

小学：小学校教諭二種免許状

幼稚：幼稚園教諭二種免許状

保育：保育士資格

司教：司書教諭資格

③ 成果と課題（点検・評価）

卒業時に 98%以上の学生が、教員免許状や保育士資格の両方あるいはいずれかを取得しており、約 96%（昨年度 94%）の学生が、2 つ以上の資格・免許を取得している。このことから、免許状や資格取得に対して学生が意欲的であることがうかがえ、入学時の所期の目的を果たして卒業していると言えよう。

（５）教育実習・保育実習・介護等体験

① 実習等の位置づけと目標

こども学科は、その教育課程に幼稚園教諭養成課程・保育士養成課程がおかれ、関係科目を履修し単位を取得することにより、こども学コースでは、小学校教諭二種免許状及び幼稚園教諭二種免許状が取得できる。一方、乳幼児保育コースでは、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格が取得できる。

これらの免許状・資格を取得するためには、以下のような実習が必修となる。

○ 実習内容一覧

免許状・資格	実習内容
小学校教諭二種免許状	小学校における教育実習および介護等体験
幼稚園教諭二種免許状	幼稚園における実習
保育士資格	保育所及び施設における実習

本学では、1 年次に施設実習および幼稚園前期（基本）実習、2 年次に幼稚園後期（応用）実習、保育所実習、小学校教育実習、介護等体験などが組まれるが、いずれもこれらの実習は次のような位置づけがなされる。

まず、大学で学んだ理論を教育や福祉の現場で自ら体験し検証することである。これは、理論と実践とを関係づけ、学習の成果を現場において試すことによって新たな課題を見つけ出すことである。次に、現場に触れることで現状を把握し、造詣を深めながら、自らの将来像を見つめることである。

② 実習等の実施状況

各実習に関する指導は事前および事後の授業を中心に行われた。

まず、事前指導において、小学校・幼稚園・保育所・施設等の実際的な理解を図る一方、実習指導案・実習日誌・記録・実習ノートなどの作成指導を中心として、教育・保育現場等で必要とされる実践的な技術を習得させた。そして、実習中は各実習先へ専任教員が巡視を行い、実習先への挨拶とともに、学生の様子を把握し、対面による指導・助言等を行った。実習後は、学生一人ひとりと面談を行い、評価表などを参考にしながら、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

(a) 小学校教育実習

平成 24 年度の「初等教育学演習」（小学校実習の事前指導を目的とした授業）と平成 25 年度の「実践研究（小学校）」（事前指導）を通して、小学校実習における心構えや諸注意、またサービスの理解等を教授した。更に、授業計画の立て方等については、実際に模擬授業を行い互いに検証し、より良くするための方策を考える等、実践的な教授技術の養成を行った。

平成 25 年度は、2 年生が 4 名だった。個々によって能力や意識の差はあったものの、教育実習においてはそれぞれ頑張ることが出来た。1 名は、S 評価と高評価であった。実習中は、担当教官が研究授業を参観し、反省会に出席した。実習後には、学生一人ひとりと面談を行い、個人の実態に応じた指導・助言を行った。

○ 小学校教育実習概要

実習期間	実習生数（単位：人）	実習園数（単位：校）	実施学科・学年
平成 25 年 5 月 20 日～6 月 15 日	4	4	こども学コース 2 年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(b) 幼稚園教育実習

実習への参加に当たっては、1 年次に「幼児教育者論」「教育原理」「幼児教育課程論」の履修、そして単位取得が必要となっている。特に、「幼児教育者論」では実習園の選定や交渉に際しての事前指導を行い、初めての実習である「前期（基本）実習」に向けて、幼稚園教育実習の意義や具体的内容、心構え、サービスの諸注意、日誌の書き方、提出物の提出方法等の指導を行った。実習終了後は、「後期（応用）実習」での課題に繋がる評価の伝達をし、「実践研究（幼稚園）」において引き続き実習指導を行った。25 年度後半には、2 年生と実習の実際について情報交換を行い、実習期間の具体的な活動の様子や日誌のまとめ方、準備物や心構え等について学習している。

2 年次の実習では事前指導の段階において、1 年次での実習の振り返りを基に「後期（応用）実習」での各自の自己課題を設定させた。また、責任実習についての事前指導として、児童文化財の作成と実践、指導計画の立案、具体的場面での保育方法の理解等を個々の状況に応じて行わせた。さらに、保育現場での人間関係における不安を軽減するために、教職員との関わり方などを説明した。そして、幼稚園実習への参加許可は、1 年次の「前期（基本）実習」と「施設実習」の取組みやその他の授業評価によることを知らせ、実習の事前事後指導への取組みの態度、園との関係、地域における私生活上の留意事項など繰り返し指導した。

終了後は担当教員が個別に面談を行い、実習園の評価表を基に実習を振り返り、反省点から自己課題を明らかにすることで、次の保育所保育実習の課題設定へとつながるよう指導した。

○ 幼稚園教育実習概要

Ⅲ 教育活動

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前期 (基本)	平成25年9月9日～9月14日	160	126	乳幼児保育コース1年 こども学コース1年
後期 (応用)	平成25年5月20日～6月8日	104	92	乳幼児保育コース2年
	平成25年9月2日～9月24日	4	4	こども学コース2年
	平成26年2月10日～3月3日	1	1	乳幼児保育コース2年

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(c) 保育所保育実習

実習への事前事後指導は、前期 15 回、後期 15 回を確保することが出来た。特に後期の 15 回の中で、実習先からの実習評価踏まえた上での面接指導ができじっくりと実施することが出来たことは、本人の将来への課題や展望を把握する上で大きな効果があったと考えられる。しかしながら、後半実習の終了時期が 9 月であることを考えると、実習終了後に 15 回の授業を設定しており、もう少し、実習前に授業回数がほしいところである。このことは教務係とも相談して工夫したいと考える。事前指導においては保育所保育指針を参考に、保育所の位置づけや活動内容といった理論的な内容の理解を図る一方、指導案の作成や実習ノートの記録の仕方といった具体的な内容についても指導を行った。また、特に乳幼児の発達についての理解を深めるべく、ビデオ教材を活用した。その他、絵本の読み聞かせや製作の紹介等、実践的な内容も取り扱った。

実習中は、電話での個別相談や巡回指導を通じて状況を把握し、指導を行った。本年度は事後指導の時間を十分に確保出来たことから、時間的な余裕を持って実習を振り返ることが出来た。また、保育所からの実習評価をもとに個人面接を行い、実習での反省点や今後の課題を明確にすることが出来た。

○ 保育所保育実習概要

	実習期間	実習生数(単位:人)	実習園数(単位:園)	実施学科・学年
前半	平成 25 年 7 月 1 日～7 月 16 日	106	99	乳幼児保育コース 2 年
	平成 26 年 1 月 14 日～1 月 29 日	1	1	
	合計	107	100	
後半	平成 25 年 8 月 26 日～9 月 9 日	104	97	乳幼児保育コース 2 年
	平成 25 年 12 月 2 日～12 月 16 日	1	1	
	平成 26 年 1 月 30 日～2 月 10 日	1	1	
	合計	106	99	

注) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

(d) 施設実習

本学において「施設実習」は、1年次の観察実習を中心とする「幼稚園実習（前期）（基本）」の次に行われる初めての長期の実習である。施設実習は、「幼稚園実習」・「保育所実習」の二つとは異なり、原則として大学が実習先として決定した施設に学生を紹介し、宿泊で実習を行っている。ただし、遠方より来学している学生や、学生本人が強く希望した場合は、自己開拓した施設で実習することも例外的に認めている。実習巡視においては、専任教員12名が、県内及び、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、新潟県、千葉県、東京都の施設を訪問した。

また、保育実習Ⅲ（施設）については、履修学生がいなかったため実施していない。

○ 施設実習概要

保育実習Ⅰ（施設実習）

実習期間	実習生数（単位：人）	実施施設数 （単位：施設）	実施学科・学年
平成26年2月10日～2月22日	155	65	乳幼児保育コース1年、2年

注1) 日程に関しては、受け入れ施設の実情により、若干の変動がある。

注2) 実習辞退 3名（進路変更1名、休学1名、退学1名）は、実習生数に含まない。

(e) 介護等体験

こども学コースにおいて、小学校教諭二種免許の取得を希望する学生に対する介護等体験事前指導は、前年度の平成24年度後期に集中授業で実施した。講義においては社会福祉施設、養護学校の概要、役割、機能等についての理解を深めるとともに、実際にブラインドウォークの体験や、車いす等の操作や介助の方法を学ぶことにより、具体的な介護・支援の基本的部分についての取り組みにも努めた。

介護等体験の体験実習については、平成25年5月上旬から平成25年12月上旬に社会福祉施設にて、平成25年6月27日・28日に埼玉県立行田特別支援学校において3名が体験実習、および平成25年11月26日・27日に埼玉県立羽生ふじ高等学園において1名が体験実習を行った。

特別支援学校および社会福祉施設の実習先は、東京都社会福祉協議会ならびに埼玉県社会福祉協議会の配属に基づき特別支援学校2日間、社会福祉施設5日間を実施した。これらの実習は、短期間の体験ではあったが、それぞれの学生が明確な目的を持って体験に取り組んでいた。

この介護等体験で、学生たちは支援が必要な生徒や施設利用者の方と接することにより、コミュニケーションの取り方など新たな課題を持つことができた。今後は、実際の介護や支援方法について等、実技授業・社会福祉援助技術演習授業の充実を図っていかねばならない。

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 25 年度は、小学校教育実習の時期が従来の 9 月から 5 月に変更となった。5 月の実習は、乳幼児保育コース 2 年生の幼稚園後期/応用実習と 3 週間重ねて実施したため、大きな混乱はなかった。また、教員採用試験の際も効果が期待された面接への対応も、実習後に実施したため、実体験を交えた応答をすることが出来たと学生からの報告を受けた。今後の小学校教育実習も本年度と同様、5 月に実施する予定である。

施設実習においては、1 年生の学生数が昨年より 40 名近く増加したため、実習先の確保に苦労した。来年度の入学予定者も現在の 1 年生と同数程度が見込まれるため、例年より早く実習先の確保に取り掛かる必要があると考えられる。

幼稚園実習においては、1 年生の基本実習と 2 年生の応用実習の流れが効果的であり、実績をあげているが、1 年生の 9 月に実施される基本実習への取り組みに対しては、更なる事前指導の強化が望まれ、現在その方法を検討している。

保育所実習においては、事後指導が 2 年生後期にあり、実習評価を交えた面談などじっくりと取り組める時間が出来たというメリットがある反面、保育所後期実習への事前指導の時間をもう少し確保したいという思いもあり、事前事後指導の時間配置において効果的な方法を検討しているところである。

（6） 授業内容と教育方法の工夫・研究

① 授業内容と教育方法の工夫・研究

各教員は、学生に教育者・保育者として必要な知識のみならず、実践において必要な諸能力を身につけさせるために、教育内容や教育方法および教材の工夫を行っている。

そのため授業方法としては、従来型の板書に頼るのではなく、板書に代わってパワーポイントで作成した文字と写真やイラストを組み込んだ資料をプロジェクターで投影するなどして、時間の有効活用とともに学生が理解しやすい授業を行っている。

また、一方的に知識を伝達するといった教員の講義中心の授業ではなく、学生が事前に学習した内容や新聞記事なども活用し、これらをもとに学生同士が話し合い、学生自らが学び、理解していく授業を行っている。さらに学生の積極的な授業参加を促すために、事前学習を課したり、グループワークや学生が発表する場を積極的に設けたりしている。

卒業後、幼児教育という責任の重い仕事にあたる本学の学生の場合、仕事に直結し現場にスムーズになじめる心構えと知識や技術を学ぶことが必要である。

このため授業内容を学生に理解させ、定着させるために、保育・教育現場等で活躍している外部講師を招き、現場をより身近にリアリティを持って感じられる授業を行っている。また学生自身が体験し授業で学んだことに対してさらに考察を深められるよう、キャンパスを離れ実際の幼児教育現場などでの学外授業も実施している。

② 成果と課題（点検・評価）

今年度も、各教員がそれぞれの専門性を活かし、日頃の研究成果を授業にフィードバックすることで、授業をより魅力的なものとする努力がなされている。また、教授方法においても、学生が学習内容を理解しやすいように、視覚に訴え、体験させることなど授業方法に工夫を加えることなどで、常に現場における実践とのつながりを意識した授業が行われた。

入学してくる学生の特性やニーズはわずかではあるが毎年のように変化している。このことを理解し、今後とも各教員は学生に最適な授業ができるように、自身の研究と教材研究・授業研究を続ける必要がある。

このためにも、幼児教育現場での研究活動はもちろん、他大学での授業内容や実施方法にも興味と関心を持ち、学内では教員同士での授業参観や授業実践検討会の開催などで、常に授業展開の進歩と発展目指し、今後も大学全体の教育力の向上を図っていかねばならない。

（7） 「学生による授業評価アンケート」の実施とその集計結果

① 実施経緯

「学生による授業評価アンケート」は、本学の学生が授業に対して求めていることを把握し、授業内容・運営方法等の様々な改善を図ることによって、学生の学習意欲や学習効果の向上を目指すものである。授業内容・授業方法・授業に対する満足度等に関して学生の声を聞き、今後の教育活動を改善し、教員と学生の相互理解と協力関係を豊かにする一助として、今年度も以下の要領で実施した。アンケート用紙は、授業形態によって、用紙 A（講義・演習）と用紙 B（実験・実習・実技）を選択するようにしている。

Ⅲ 教育活動

○ 「学生による授業評価アンケート」実施要領

1	アンケート調査の所轄は教務係とする。
2	対象科目について <ul style="list-style-type: none"> (1) 調査対象科目及び時期 <ul style="list-style-type: none"> (a) 対象科目：全科目（半期科目及び通年科目） (b) 科目種類：講義・演習・実習・実技 (c) 実施時期：前期及び後期の定期試験直前あるいは最終授業 (2) 調査実施手順について <ul style="list-style-type: none"> (a) 教務係において実施要領及びアンケート用紙を準備 (b) 調査実施予定日までに、担当教員へアンケート用紙を配布する。 (c) 担当教員は、実施要領（別紙）を見ながら方法を説明し、実施する。 (d) 回収後、アンケート用紙は教務係において保管 (3) 調査結果の集計について <p>教務係において保管するアンケート用紙は、担当教員別にファイルして担当教員の閲覧に供するようにすると共に、同係において集計処理する。</p> (4) 調査結果の公表について <p>集計処理した調査結果は対象科目の担当教員に通知し、その結果に対しての感想や改善策を提出してもらう。</p> (5) アンケート内容について <p>授業評価にとって重要なアンケートの質問事項は、数回にわたり審議を行って決定した。その結果、講義・演習用及び実験・実習・実技用の次のような二通りのアンケート用紙が用意されることになった。</p>

② 集計結果

(a) 学生の授業への取組について

○ 集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	57.5%	24.0%	11.0%	3.6%	2.0%	1.9%	0.0%
2	54.1%	37.8%	6.2%	0.5%	0.2%	1.3%	0.0%
3	33.2%	33.5%	21.3%	6.2%	4.8%	1.0%	0.0%

○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
1	46.5%	25.0%	18.4%	6.1%	2.4%	1.5%	0.1%
2	56.3%	36.7%	5.2%	0.5%	0.2%	1.2%	0.0%
3	43.9%	31.4%	16.2%	4.8%	2.5%	1.1%	0.0%

Ⅲ 教育活動

注)

・項目1「1：0回・2：1回・3：2回・4：3回・5：4回以上」

・項目2「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

・項目3「1：はい・2：まあまあ・3：どちらともいえない・4：あまり取り組まなかった・5：いいえ」

(b) 授業内容について

○ 集計結果（前期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	57.2%	32.6%	7.7%	1.1%	0.5%	1.0%	0.0%
5	62.8%	28.1%	7.1%	1.0%	0.2%	0.8%	0.0%
6	65.1%	25.6%	7.3%	0.8%	0.3%	0.9%	0.0%
7	65.2%	26.1%	6.4%	1.0%	0.4%	0.8%	0.0%
8	60.3%	29.2%	7.9%	1.3%	0.4%	0.9%	0.0%
9	59.3%	30.1%	8.1%	1.0%	0.4%	1.0%	0.0%
10	62.1%	26.2%	6.7%	1.0%	0.4%	3.6%	0.0%

○ 集計結果（後期）

評価 質問	1	2	3	4	5	未記入	無効
4	62.2%	28.3%	5.9%	1.6%	0.8%	1.2%	0.0%
5	63.4%	28.0%	5.8%	1.3%	0.5%	1.0%	0.0%
6	65.4%	26.8%	5.4%	0.9%	0.4%	1.1%	0.0%
7	66.8%	25.2%	5.5%	1.0%	0.4%	1.0%	0.0%
8	63.6%	26.9%	6.3%	1.3%	0.7%	1.1%	0.0%
9	62.7%	27.3%	6.8%	1.3%	0.6%	1.3%	0.0%
10	61.8%	25.8%	6.9%	2.3%	1.2%	3.1%	0.0%

注) 1：思う 2：まあまあ思う 3：どちらともいえない 4：あまり思わない 5：思わない

③ 成果と課題（点検・評価）

「学生による授業評価アンケート」は、前期・後期末に専任教員の全科目と希望する非常勤教員の授業について実施した。実施にあたっては、学生がありのままを評価しやすい

Ⅲ 教育活動

ように、学生がアンケートを書く際、授業担当者は席をはずし、代表学生が回収、封緘して提出させている。

集計は教務課が行い、その結果は各教員に配布される。教員は担当科目の集計結果と学生の自由記述をもとに「授業評価アンケート結果に対するコメント」を提出することで、学生の授業評価を参考にしながら、今後の授業改善に活かしている。また「学生による授業評価アンケート」の集計結果と、教員による「授業評価アンケート結果に対するコメント」は、1冊のファイルにまとめ、図書館に置き、教員も学生も自由に閲覧できるようにしている。

ここに掲載されている集計結果は全体の平均であるため、細かい点検と評価はできないが、授業内容の評価において、昨年度より全般的に数字を上げている。数年に亘る「授業評価アンケート結果に対するコメント」を続ける中で、授業改善につながっていることがうかがえる。

資料：「授業評価アンケート実施要領」

学生による授業評価アンケート調査用紙

用紙 A (講義・演習)

履修年度	曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
年度(前・後)			月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも自分の選んだ数字をマークしてください。

〔I〕 授業への姿勢について該当する項目に○を付けてください。

質問1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

〔II〕 授業内容について該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問4 授業の内容がまとまっていて、よく理解できたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。
[1] [2] [3] [4] [5]

質問8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問9 教材(テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具(設備使用)などが適当であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

()

質問12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

()

〔III〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。(必須)

学生による授業評価アンケート調査用紙

用紙 B (実験・実習・実技)

履修年度	曜日・時限	科目名	実施日	担当教員
年度 (前・後)			月 日	

この授業アンケートは、授業担当者が皆さんとともに、授業を改善し、充実させることを目指して実施するものです。皆さんの記入内容が授業の成績評価に影響を与えることはありませんので、率直にお答えください。

※アンケートはこの用紙に記入後、マークシートにも自分の選んだ数字をマークしてください。

〔I〕 授業への姿勢について該当する項目に○を付けてください。

質問 1 何回欠席したか。 [1] 0回 [2] 1回 [3] 2回 [4] 3回 [5] 4回以上

質問 2 熱心に授業に取り組んだか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

質問 3 自主的に授業時以外で予習や復習、あるいは発展的な学習、関連した学習などをしたか。

[1] はい [2] まあまあ [3] どちらともいえない [4] あまり取り組まなかった [5] いいえ

〔II〕 授業内容について該当する項目を○で囲んでください。

[1] 思う [2] まあまあ思う [3] どちらともいえない [4] あまり思わない [5] 思わない

質問 4 実技・実習の指導が的確で理解しやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 5 授業の内容が興味深く、関心が持てたか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 6 教員の熱意が感じられ、充実したか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 7 教員の話し方や声の大きさが適当で聞き取りやすかったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 8 授業の進め方が適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 9 教材 (テキスト・視覚教材・板書・配布資料など)・教具 (設備使用) などが適切であったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 10 授業内容は満足するものであったか。 [1] [2] [3] [4] [5]

質問 11 この授業に出て具体的にどんなものが得られたかを書いてください。

質問 12 この授業をさらに良くするためにはどうしたら良いと思われるかを書いてください。

〔III〕 この授業について意見・感想・指摘などを書いてください。(必須)

IV 学生生活

1 学生の動向

(1) 入学・卒業・留年・退学・休学の状況

① 平成 24 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	115	-	106※	1	5	1	1
	こども学コース	5	-	4	0	0	0	1
合計		120	0	110	1	5	1	2

※乳幼児保育コース 留年者(平成 23 年度入学生)1 名卒業、1 名除籍除く

※平成 24 年度入学後休学し 1 年次に復学した学生 1 名除く

② 平成 25 年度入学生

(単位：人)

学科・専攻		入学者数	在学者数	卒業者数	留年者数	退学者数	除籍者数	休学者数
こども学科	乳幼児保育コース	156	155※	-	1	2	0	0
	こども学コース	4	4	-	0	0	0	0
合計		160	159	-	1	2	0	0

※平成 24 年度入学生 1 名含む

(2) 学生の動向

平成 25 年度の入学者数は、定員 120 名を上回り 160 名であった。この入学者数を受け、今年度の 1 学年は 1 クラス 40 名を基本とする 4 クラス編成とした。学生数が増えたにも関わらず、退学者、休学者人数は減少した。

2 学年は、1 学年から引き続き 4 クラス編成と、13 名程度を基本とするゼミを編成し、クラス担任はクラス全体指導を行い、ゼミの担当教員は、ゼミ生の日常の学習・生活面から実習・就職を含めて卒業まで指導・助言を行うものとした。このように細やかな指導・助言によって 2 年次になってからの退学者は出なかった。表にある退学者、除籍者、休学者は 1 年次での動向である。

全体的には、目的意識を持って積極的に、かつ前向きに所期の目的の達成に向けて頑張る学生が多く、皆一様に勉強熱心であるといえる。

(3) 成果と課題（点検・評価）

平成 21 年度以降、入学希望者が毎年前年比 20% 増となり、平成 25 年度の入学者は第 1

回指定校推薦入試終了後の段階で 160 名と、募集定員の 1.33 倍を越す状況となった。これは、女子のみの「こども学科」単科に絞ることで、学生全員が同じ目的を共有し、学生が互いに協力しながら、学びへの取り組みができるようになったことが、評価された結果であろう。さらに、本学が目的として掲げる「社会に求められる保育者・教育者を目指す」と一致した意識を持ち、教職員や学生が、ともに授業やボランティア活動などの充実した教育活動や社会活動などを通して地域社会に認められたことも、入学希望者の増加となった要因であろう。また、待機児童の増大に伴う保育士不足が叫ばれる社会的状況が追い風になったとも考えられよう。

これらのことから、幼児教育者として社会貢献をしたいと本学へ入学希望をする高校生の夢の実現のため、募集定員増を計画し、来年度に向けて入学定員 150 名という定員増申請を行った。またそれと同時に、ここ数年入学希望者が 10 名に届かない小学校課程の存続の是非を判断をしなければならない状況となった。

一方退学者や休学者が依然として出ていることが、今後の大きな課題である。学生に問題が生じた場合、教授会において学生の動向が報告され、全教員が共通理解のもとに適切な学生指導が行われるような体制は整っているものの、いまだ十分とはいえないと考えている。

近年、入学以前から問題を抱えている入学者が増えており、入学者の個別面談などを通して問題を発生前に把握し予防的な対応を行うとともに、問題が発生した場合にも出来る限り迅速に対応していくことを進めたい。昨今は学生が抱える問題も多様化し、経済的な問題や友人関係、精神面での問題に加え、家族の問題までもが学生の日常生活に影響を与えている。このため学生へのアプローチのみでは解決できない場合も多く、保護者を交えた適切な支援や対応のあり方について考えなければならない。

教育活動は人と人の真摯な態度や地道で継続した行動の積み重ねであると考えている。この意識と態度で「教育は人格と人格の触れ合いから生まれる活動である」と教職員全員で再認識し、今後の学生教育に取り組んでいかなければならない。

2 クラス担任制

(1) クラス担任制の現状

入学後の物理的環境や人的環境など様々な周辺の変化に不安を抱え、大学生活へのスムーズな移行に困難を伴う学生が年々増加する傾向にある。本学ではこれらの学生に対応するため、クラス担任制と入学前教育を取り入れている。クラス担任制では、1 年生を 40 名程度の学級に編成し各クラス 1 名の担任と学年に 1 名の副担任を置いている。担任業務は、生活面・学習面における学生の把握と指導である。出席に関しても担任が出席状況を確認し、本人への指導と家庭への連絡協力の依頼等を行っている。また、効果的な指導ができる

よう担任が担当する「入門ゼミ」を1年次に置いている。1週間に一度は必ずクラス単位で集まり、授業自体の目的はもとより、担任と担当学生の情報交換や意志の疎通を図る機会を持っている。定期的に会う機会を持つことは学生の状況の把握と、学生の不安を取り除くことに役立った。クラス成員間の人間関係とともに学級担任との人間関係も構築でき、個に応じた指導体制の礎となった。

2年次においてはゼミに当たる「教職実践演習」および「保育実践演習」の担当者が担任としての業務に当たった。

(2) 成果と課題（点検・評価）

初年次教育の重要性が叫ばれる中、本学でも「入門ゼミ」の導入や学生個々のファイル管理などを取り入れ、個に応じた学生対応に取り組んでいる。その中心にあり欠かせない制度がクラス担任制であり、その効果を発揮している。学生は何かしらの不安を抱えた時、誰に相談して良いのかがわからないと不安を更に大きくする。そこで担任制を置くことにより、大学内では常に担任が傍にいてサポートしてくれるという、安心感を持つことができた。また、1年生に対しては個を把握するために定期的な個人面談も取り入れており、きめ細やかな指導に役立っている。

学生に問題が生じた場合は、クラス担任やゼミ担当教員は学年主任や学生部長、教務部長、学生相談室相談員、そして学長と情報を共有し、早い段階での個に応じた対応を心がけている。また、学生の動向は教授会において毎月報告され、教職員間の共通理解が図られている。教職員が必要な場合は自由に閲覧可能な学生ファイルの活用は、情報共有に大きな力を発揮している。

近年、学生の抱える問題も多様化している。それに対する支援や対応のあり方をさらに組織的に行うための検討を、今後も継続する必要があると考える。

3 学外における研修

(1) 実施概要

平成25年度の学外での研修は、4月の学外オリエンテーションと、7月のディズニーマカデミーでのホスピタリティについての研修の2つが行われた。

まず学外オリエンテーションは、国立女性教育会館（埼玉県比企郡嵐山町）で1泊2日の日程で実施された。これから学生生活をスムーズに送るための様々な情報を得るとともに、学外で寝食を共にすることを通じて、新しい友人と交流し、また学生と教職員との親睦を深めることも目的とした。まず全体集会では授業の履修や単位取得、学生生活についての説明を受けた。その後、各クラスに分かれてのクラス集会では、実際に時間割作成をし

IV 学生生活

たり、アイスブレイクやレクリエーション活動を行った。更にスポーツ大会が4月末に実施されるので、各クラスに補助に入っている学生会の2年生の説明を受けながら、スポーツ大会委員を含むクラス委員の選出を行った。

平成25年度の学外オリエンテーションは、このような趣旨で以下のプログラムに従って実施され、1年生161名、2年生8名、教職員11名が参加した。

○ こども学科学外オリエンテーションプログラム

平成25年4月2日(火)		平成25年4月3日(水)	
時間	内容	時間	内容
10:20	集合 羽生駅西口	6:30	起床・洗面
10:30	出発 (貸し切りバス)	7:30	朝食(本館食堂)
	羽生IC～	8:30	部屋の清掃・片付け
11:30	国立女性教育会館 着	9:00	部屋の鍵の返却、体育館へ移動
12:00	昼食(本館食堂)	9:30	研修5 レクリエーション(体育館)
13:00	研修1 会館の職員の方からのお話	11:30	着替え、食堂へ移動
13:30	開会の集い	12:00	昼食(本館食堂)
14:10	研修2 履修等について 学生生活について 「自分」を知ろう	13:00	研修6 クラス集会 2年間の学びについて 研修の振り返り
18:00	夕食	15:00	閉会の集い
19:00	研修3,4 クラス集会 アイスブレイク 時間割作成 クラス委員決め	16:00	出発 (貸し切りバス)
21:00	入浴・自由時間・就寝	16:40	熊谷駅着(経由)
		17:30	羽生駅西口着 解散

次に、ディズニーアカデミーの研修は東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートと東京ディズニーリゾートで実施した。当日は以下のプログラムに従って実施され、学生161名と教職員6名が参加した。

東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾートでは、実際に東京ディズニーリゾートで働いているキャスト(スタッフ)がゲスト(来場者)に対して、どのようなことに配慮しながら接しているのかを、「ホスピタリティ」という視点から学んだ。午後のワークショップでは講義で学んだ「ホスピタリティ」に基づいてキャストがどのようにゲストと接しているかを実際にディズニーシーで体験しながら学んだ。

IV 学生生活

○ こども学科学外研修プログラム

平成 25 年 7 月 5 日 (金)	
時 間	内 容
9:45	集合 東京ベイ舞浜ホテルクラブリゾート
10:00	ホスピタリティ研修
12:00	昼食
13:00	ワークショップ
17:00	解散

(2) 成果と課題 (点検・評価)

本学は4クラスに分かれ、それぞれを担当する教員を置くクラス担任制を採用し授業や行事は基本的にクラス単位で行われる。そのためこのような学外オリエンテーションを行うことが、まだ入学したばかりの1年生がスムーズに大学生活を始めるための一助になっており、その意義は大きい。また学生会に所属する2年生が学外オリエンテーションに参加することで、研修がスムーズに行うことができたのに加え、1年生が研修中の2年生の取り組みの様子を見て、2年生と交流することで、自分がこれから学んで行く中でどのように成長して行くことができるのかを知る良いきっかけとなっている。

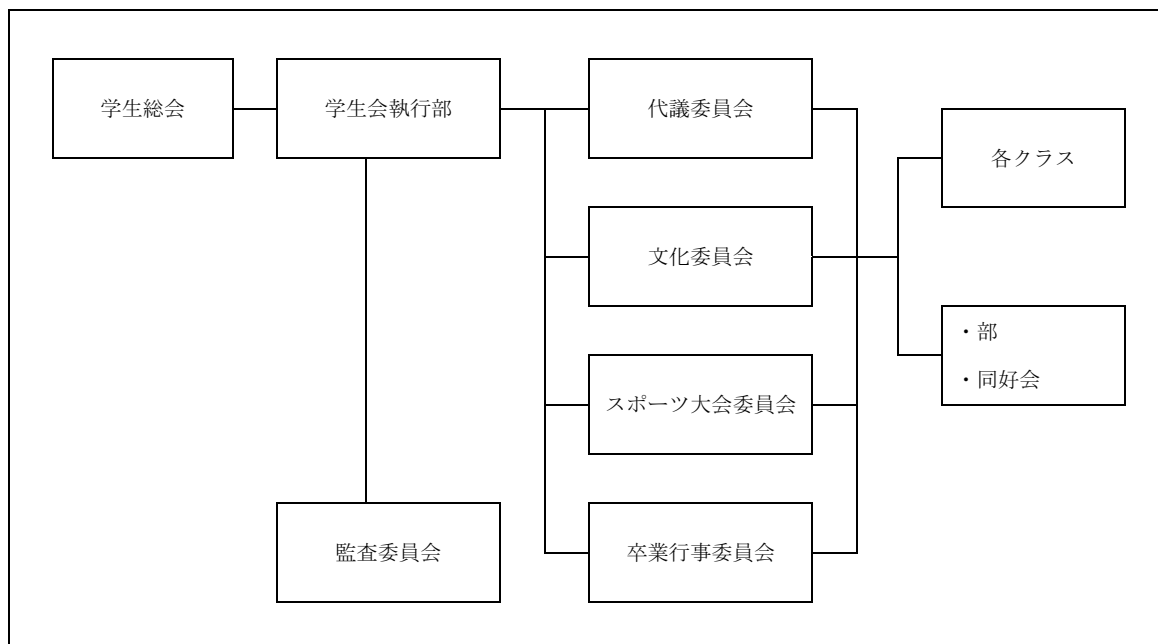
7月に行われたディズニー研修で「ホスピタリティ」を学ぶことは、これから子どもや保護者と接する仕事である保育職に就く本学の学生にとっては、本学の学園訓である「気品」「知性」「奉仕」の意義を改めて考えるきっかけにもなっており、学生にとって大変有意義な研修となっている。

4 課外活動

(1) 学生会

本学の学生会は、本学の教育精神を旨とし、学生生活の向上と充実をはかるために組織された自治組織であり、全学生が会員として加入する。また学生会執行部は、会長1名・副会長1名・書記2名・代議委員長1名・文化委員長1名・スポーツ大会委員長1名・卒業行事委員長1名を含む有志の学生によって構成されている。学生部長(学生委員会委員長の教員)・学生委員会委員(教員)・事務局の学生事務担当者等から指導・助言を受けながら、執行部を中心に主催行事等の企画・運営を行っている。

○ 学生会組織

**(2) 学生会主催行事****① 学生会オリエンテーション**

学生会では、年度当初に行われる学外研修期間内に、学生会執行部が中心となり新入生を対象にした学生会オリエンテーションを実施している。内容としては、学生会組織の説明、スポーツ大会や純真祭の説明、クラス役員の選出や研修の補助などを行った。また、競技内容の説明、エントリー方法などについて、スポーツ大会委員長を中心に説明を行った。

大学生活のイメージがまだ漠然としている新入生にとって、こうした新2年生が中心となって企画・実施されたオリエンテーションが行われることや補助をしている姿を見ることは、本学の学風に親しみを持ち、これからの学生生活に期待を抱かせるきっかけを得る機会になっている。また、新2年生にとっては最終年度における意識の高まりと責任感を促す機会でもあり、今後も継続して行きたいと考える。

② スポーツ大会

スポーツ大会は、新入生歓迎とスポーツを通してクラスの結束を強めるのみならず、学生と教職員の交流を深めることも目的として実施されている。企画・運営は学生会執行部が中心となり、各クラブの部長や代表者、各クラスから選出された特別委員（スポーツ大会委員）と協力して準備を進めた。学年が始まったばかりの4月に開催ということで、学生生活のペースがつかめないうち、短時間で準備を行わなければならない、学生の負担は大きかったと思われた。しかし、クラスごとに準備を進め、クラス旗のコンテストやクラブ紹介などを通して、競技に参加するだけでなく、クラスメイトや担当教員と協力しながら大

会を盛り上げることを体験するという、保育者・教育者を目指す本学の学生にとっての貴重な体験となっている。

③ 純真祭

純真祭は、学生会執行部、各クラスから選出された文化委員が中心となり企画・運営されている。特に地域に根ざした大学を掲げる本学にとっては、大学のみならず地域との協力を得ながら行われる、学生会主催行事の中でも最も規模の大きい行事である。学生委員会の教員が学生会執行部の活動をサポートしているが、あくまで学生主体で企画・運営が行われている。

教職員の助言やサポートを得ながら準備を進め、個々の学生がそれぞれに純真祭との関わりを持つことで、達成感を得られる行事となった。

○ 学生会主催行事及び学生会執行部が参加した行事一覧

月	行事名
4月	入学式・学外研修（新入生オリエンテーション）・健康診断、スポーツ大会
4月～9月	オープンキャンパス
8月	第1回学生総会
10月	純真祭
11月	ゆるキャラサミット補助
12月	第2回学生総会
1月	表現発表会
2月	リーダー研修会
3月	学位授与式、謝恩会

(3) クラブ活動

本学の部活動は学生主体の自主的な課外活動であり、一覧にあるようにスポーツ系、文化系とその活動は多彩である。各部の活動を円滑に行うため、各部の部長や代表者がクラブ委員会を組織し、学生会執行部と連携しながら、適宜、クラブ委員会の会議を開いている。クラブ委員会では、学生会予算の中から各部に配分される予算の作成や決算の報告を行っている。

また、スポーツ系の部の中には毎年8月に開催される全国私立短期大学体育大会に参加し、普段の練習の成果を発揮すると共に、他大学との交流を図っている。

平成23年度からは、バレーボール部・バスケットボール部が山村学園短期大学との交流試合を開催しており、県内大学との更なる交流を深めている。

○ 部・同好会一覧

IV 学生生活

分類	クラブ・同好会名
スポーツ系(9)	バレーボール・バスケットボール・フットサル・バドミントン・フィットネス・テニス・卓球・ソフトボール・なでrun
文化系(5)	Music Lovers・軽音楽・茶道・スマイルサークル・漫画・アニメ研究部

(4) ボランティア活動

本学は地域における各種活動を積極的に展開しており、学生の地域ボランティア活動も活発に行われている。ボランティア活動の対応は、専任の職員により一元管理され、外部からのボランティア派遣要請を受け、学生への周知のための掲示及び諸連絡を行っている。

また、授業科目の中に「ボランティア概論」「ボランティア実習」の2科目があり、多くの学生が履修している。ボランティアを行う学生には、「ボランティア参加願」及び「ボランティア活動の記録」の提出を義務付けており、これらの提出書類は「ボランティア実習」科目の評価に活用され、あわせてボランティア保険の適用にも使用されている。

平成25年度の実施された、学生による主なボランティア活動は、以下の通りである。

- | | |
|-------------------|--------------|
| ※ キヤッセこどもまつり | 羽生市キヤッセ羽生 |
| ※ むじなもん学寮 in かわまた | 羽生市川俣公民館 |
| ※ 特別支援学校夏祭り | 埼玉県立行田特別支援学校 |
| ※ 三田ヶ谷小学校夏休み合宿 | 羽生市立三田ヶ谷小学校 |
| ※ 災害訓練ウォーク | 羽生青年会議所 |
| ※ サマースクール | 羽生市立川俣小学校 |
| ※ あゆみ学園祭 | 児童養護施設あゆみ学園 |
| ※ ゆるキャラさみっと in 羽生 | 羽生市キャラクター推進室 |
| ※ 保育ボランティア | 各地の保育園、幼稚園 |

(5) 研修活動

① リーダー研修

2年生および1年生の学生会役員で研修会を開催した。概要および日程は以下のとおりである。

IV 学生生活

○ リーダー研修の概要

期日：平成 26 年 2 月 24 日～25 日（2 日間）
場所：学食
参加者：学生会 1, 2 年生メンバー
目的：平成 26 年度スポーツ大会および純真祭についての話し合い

○ リーダー研修日程

	2 月 24 日（月）		2 月 25 日（火）	
	テーマ	内容	テーマ	内容
10	集合 新年度体制 の発表	委員長等 テーマ設定 種目検討 時間配分 クラス委員の役割について 競技ルールについて 施行部の役割分担	集合 スポーツ大会 について	
11				
12	昼食休憩		昼食休憩	
13	スポーツ大会について (途中、休憩あり)		今後の予定について	学位授与式について
14				学外研修について
15				春の学校見学会 健康診断について OC について
16	本日のまとめ 明日の予定 解散		本日のまとめ 解散	

(6) 成果と課題（点検・評価）

平成 25 年度も、新入生歓迎の目的としてスポーツ大会を 4 月に開催した。1 月から 3 月にかけて施設実習が行われるなど、学生生活の困難な中ではあるが、短期間で準備を行い、新入生の親睦の場となるよう、新 2 年生の団結力が発揮できた。

全国私立短期大学体育大会については、バレーボール部・バスケットボール部が参加した。A ブロックに昇格したバレーボール部は 1 次リーグで敗退したが、バスケットボール部は、B ブロック 3 位の好成績を残すことができた。

平成 23 年度から参加している「ゆるキャラサミット in 羽生」では、今年度も 2 日間で 40 名の学生がボランティアとして参加し、パンフレットの販売やスタンプラリーの補助を行った。

10 月に開催した「第 31 回純真祭」においては、あいにくの雨模様の中、500 名近い来場者を迎えることができた。クラスごとの発表など様々な催しを行ったが、保護者等への発表時間の周知が遅れてしまい、多少の混乱をきたしている。今後の大きな課題である。また、不審者の対応など警備体制の見直しも必要となってきた。

「学位授与式」については、式典・謝恩会会場をさいたま市のホテル開催としてから 3 回目となり、卒業生一人ひとりにゼミ担当教員から学位記を手渡す形式も安定してきたように思われる。これまで課題であった、学位記授与の写真が撮影できるようにスペースを設けるなどの工夫については、事前の案内もあり比較的スムーズに行えた。しかし、スペースが狭いなどの問題点も残っているため、今後の課題と言えよう。

今年は、午後からの開催を実施したが、学生の流れや、謝恩会への誘導などスムーズに行えたと思われる。着替えの時間等調整は必要となっているが、概ね成功といえよう。

5 学生生活への配慮・支援

(1) 奨学金

本学では、学生の経済的支援として毎年 4 月に行われるオリエンテーションにおいて、日本学生支援機構の奨学金申込みと利用説明会を行っている。そのほか、希望者には「あしなが育英会奨学金」ならびに「交通遺児育英奨学金」を紹介している。また、平成 21 年度から「福田敏南記念育英学生」を新たに創設し、経済的な理由で修学困難な学生、児童養護施設からの進学生への支援制度を充実させた。なお、本学で利用できる奨学金等の概要は以下のとおりである。

IV 学生生活

○ 奨学金等一覧

名 称	概 要
福田敏南記念育英学生 (4名)	埼玉純真短期大学初代学長福田敏南氏を記念して、子女の教育活動を経済的側面から援助し本学がめざす有為な人材育成を図ることを目的として、入学金を除く納入金の減免を行う制度である。
日本学生支援機構奨学金 (1種：20名) (2種：88名)	経済的な理由により就学困難な学生に対し、奨学金の貸与を行っている。学生の多様なニーズに合わせ、奨学金制度の充実や申請手続きの改善、また、奨学金に関する情報提供が行われている奨学金である。
あしなが育英会奨学金 (0名)	1967年、あしなが育英会の「遺児と共に歩む」運動が始まり、保護者等が病気や災害により死亡した学生や、後遺症のために働けなくなってしまった家族を対象にした奨学金である。
交通遺児育英奨学金 (0名)	自動車等の交通機関による事故で死亡、または後遺症のため働くことができなくなってしまった保護者等に変更、経済的に援助する奨学金である。

(2) 健康管理

身体の健康は、充実した学生生活を可能にする基礎であり、また学習を行う土台である。本学では学生の健康管理ならびに健康維持のために次のような措置をとっている。

① 保健室

校内の保健衛生と救急措置を目的として保健室を設置しているが、急に身体の変調をきたしたときや負傷の場合には、事務室に申し出て同室を利用するなどの処置を受けさせるよう努めている。

② 定期健康診断

毎年1回4月に学生の定期健康診断を実施している。検査項目は、身体測定・内科検診・胸部レントゲン撮影である。そしてこの健康診断の結果、要注意または要治療の者については、できるだけ速やかにその旨を本人または保護者に通知している。

飲酒・喫煙については、本学の学生の多くは未成年であることから、法を遵守することを理解させるだけでなく、年度当初のガイダンスにおいて、健康に及ぼす影響を説き、学業に専念できる健全な生活の維持への理解を得るように努めている。特に学生の喫煙については、保育者・教育者として児童と係わることを念頭に、学生の健康と他への迷惑を考慮し、禁じている。

(3) 保険制度

本学では、学内外で行われる授業及び実習中、学内におけるクラブ活動や学生の自主的

活動中、登下校等において、学生が不慮の事故によって傷害を負った時に補償される「学生教育研究災害傷害保険」に、入学時に全員が加入し、学生事務担当者が管理している。

(4) 学生専用アパート

本学の学生の多くは埼玉県及び隣接県からの自宅通学生であるが、遠隔地からの入学生や家庭の事情により自宅外通学を希望する学生のために、民間委託の形態で学生用アパートを設けている。

また、これらのアパート等に居住する学生のために、年 2 回、教職員も参加する「自宅外通学生懇親会」を開催している。懇親会は、学生同士の親睦をはかることを第一の目的とし、1 人暮らしの悩みや苦労をお互いに話したり、先輩の体験談やアドバイスが聞けたりする機会となっており、1 人暮らしの不安を解消し今後の充実した学生生活の一助となっている。

昨年は、東京都三鷹市で高校生がストーカー被害で命を落とす悲しい事件があり、本学のアパート学生にも注意喚起を行ってきた。しかし、アパートに不審者が出没するなどの被害が発生したため、防犯灯やカメラの設置などの対応をとった。また羽生警察との連携を密にすることで、早期解決を目指している。

(5) 通学の状況

本学の学生の居住地・出身地は、埼玉県下を中心に、栃木県、群馬県、茨城県などの近隣諸県から東北・信越の諸県に及んでいる。近隣諸県の自宅などから通学している多くの学生は、羽生駅まで JR 高崎線・宇都宮線や東武伊勢崎線、秩父鉄道などを利用し、羽生駅からはスクールバスを利用している。バスの運行時間の関係で、徒歩や自転車で通学している学生も少なくない。またアパート等に居住している学生や羽生市内に居住する学生は、徒歩や自転車で通学している。

通学に際して自転車を利用する場合には、学内の所定の駐輪場を利用し、学生本人が責任をもって管理することになっている。原動機付自転車もこれに準ずるが、自動二輪車（オートバイ）については、人命に係わる事故の危険度が高いので、通学の手段としては禁止している。自動車通学に関しては、「学内自動車駐車場利用規程」を設けて学内駐車場の利用を認めている。

○ 駐輪場および駐車場の利用状況一覧

(単位:人)

自動車駐車場	67
--------	----

(6) 学生相談室

学生相談室及び学生カフェは、学生生活上の悩みに直面する学生に対し、カウンセリングを中心とした専門的支援を行うことを通して、学生の成長を支えるために設置されている。本学の学生相談室では、心理・性格、心身の健康を始めとするさまざまな相談に応じているが、学生のプライバシーを守りながら、一人ひとりを尊重し個性を伸ばし可能性を探す手伝いを心がけている。本年度の概況は以下のとおりである。

○ 学生相談室の概況

相談員：稲垣 馨（専任講師）

相談場所：学生相談室及び学生カフェ

相談日時：月曜日から金曜日までの間、相談員の在室時間帯に相談活動を行っている。学生カフェは昼休みのみ。

相談体制：個人面接およびグループ面接。必要に応じて、保護者・学内教職員・医療機関との連携を取っている。

主訴別来談者実数：本年度の来談者実数は 79 名で、学生相談の利用が 66 名、電話相談が 8 名、学生カフェの利用が 5 名であった。

主訴内容は次のとおりであった。（括弧内はのべ相談者数）

心理・性格（35）・心身の健康（17）・人間関係（家族・友人・教員・その他）（20）・履修・勉学・就職（7）

相談内容では、心理・性格についての相談（自分の適性、これからの生き方など）と人間関係についての相談（クラスやクラブでの友人関係や家族との関係）が全体の約 7 割を占めた。また昨年度と比較すると相談件数が約 3 割減となったが、これは昼休みに学生カフェを利用するケースが減ったことが主な理由である。お昼に一人でも気兼ねなく過ごせるスペースが増えたことで、学生カフェを居場所とする必要がなくなったことが理由ではないかと考えられる。相談員としては担当の授業時間も含めて、青年期の成長・発達に有用な心理教育を行うことで、学生のその時々々のニーズに応じた対応（発達支援）を心がけた。

(7) 成果と課題（点検・評価）

遠方から本学に入学した学生はもちろん、自宅から通う学生であっても友人関係や学習など様々な悩みや問題を抱えるケースが少なくない。そのため学生相談室でのカウンセリングを利用したり、担任やゼミ担当教員に相談する学生が増えている。特に学生専用アパートで暮らす学生に対しては月 1 回程度巡視を行うとともに、半期に一度、自宅外懇親会を開き、一人暮らしにおける不安の解消に努めている。

また、個々の学生ニーズに適切に応えられるよう、教員間の情報交換や情報共有を行うとともに、教職員が一体となって支援できる体制をより一層固めることが今後必要であろう。

V 就職と進学

1 進路支援

(1) 就職指導

① 進路支援委員会の基本方針

本学の進路支援は専任教員と職員が連携しながら、ゼミ担任とも連携しながら、大学全体で学生の就職・進路の支援を行っている。具体的には、金曜日の5限に「キャリアガイダンス」の時間を設け、原則として毎月1回の一斉指導をした。一斉指導が行われる以外の金曜日の5限の時間は、進路支援担当の教員が履歴書作成のアドバイスや面接試験の個別指導を行った。またオフィスアワー等を活用し、進路支援担当教員やゼミ担当の教員が進路相談や履歴書作成の指導、面接試験の指導、礼状の作成の指導などを、学生の個性や求人先の実情を考慮しながら行った。本学では、幼稚園実習・保育所実習での実習先に就職する学生も少なくないので、各実習指導と連携しながら、これまでの幼稚園・保育所との関係性を大切にしながら指導している。

② 平成25年度年間就職指導計画

○ 平成25年度就職指導年間計画一覧（平成25年度卒業生対象）

期 日	ガイダンス内容
平成25年4月19日	就活を始めるにあたり、部長より各担当紹介等、進路登録票、履歴書の返却指導
5月10日	卒業生を招いての講演会
6月14日	公務員についての連絡、実習前の連絡、声掛けがあった際の対応方法
6月21日	栃幼連、群馬県私立幼稚園および私立保育園（群私幼・群私保）、その他の分科会
7月19日	夏休みの過ごし方、群馬県受験のための書類提出等
9月20日	進路希望調査について、園見学について
10月11日	光の家療育センター講演会
11月15日	あいう園による保育説明会
12月13日	内定決定後の過ごし方
平成26年1月17日	卒業生を招いての講演会
2月7日	春休みの過ごし方／研修について
随 時	履歴書作成、就職活動（連絡・見学等）相談、模擬面接等

○ 平成26年度就職指導年間計画一覧（平成26年度卒業予定者対象）

期 日	ガイダンス内容
平成25年11月14日	履歴書作成について、今後の取り組みについて
平成26年1月17日	卒業生を招いての講演会

③ 就職指導内容

2年生に対しては、4月に行われた第1回キャリアガイダンスにおいて、進路希望調査表にその時点での希望を記入させた。進路支援希望調査票は進路支援担当事務職員がゼミ毎にファイリングして管理し、学生一人ひとりの個性や適性を考慮した指導ができるようにした。

なお、本年度より「キャリアサポートブック」を作成し2年生全員へ配布した。学生指導の際にそ

れを活用することで、就職活動の心構え・マナー、公務員等試験対策、履歴書作成、内定後の過ごし方等について、どの教員が指導しても学生に指導内容の保障されるようにした。また、進路支援委員の専門性に応じて、私立幼稚園・保育園、公立幼稚園・保育所、施設保育士、小学校教諭等、それぞれ担当する教員を決め、学生が個別に相談できるようにした。

④ 就職関連諸会合への参加

平成 25 年度も各地で行われる就職関係の情報交換会や連絡調整会等に、進路支援担当事務職員をはじめ、専任教員が参加した。こうした諸会合に参加することで、埼玉県をはじめ隣接県の幼稚園・保育所の採用時期や試験方式に関する情報の取得のみならず、求められる人間像や専門的な技術・知識を把握し、それを学生指導に活かすことで、現場の求める人間育成が可能となっている。

また群馬県や栃木県など、統一試験や就職説明会を設けている地域の就職活動については、実習中あるいはその前後にそうした就職活動に参加することもあるので、日程やその内容をできるだけ早く学生に知らせることで、学生が計画的に準備を行うことができている。

(2) 平成 25 年度就職状況

① 就職決定状況

○ 平成 25 年度卒業生進路一覧

(平成 26 年 3 月 31 日現在・単位：人)

進路決定者数 一覧	幼稚園教諭		42
	保育士		52
	施設（施設保育士は保育士へ）		9
	小学校教諭		1
	企業・自営業		2
	小計	A	106
	就職希望者	B	106
	就職決定率	A/B	100.0%
	進学・編入学・留学希望	b	2
	進学・編入学・留学決定者	a	2（4年制大学編入1、科目等履修生1）
	進路希望者	B+b	108
	進路決定者	A+a	108
	進路決定率	A+a/B+b	100.0%
就職・編入学等 以外	アルバイト	C	3
卒業生合計		A+a+C	111

② 就職先等内訳及び就職先一覧

	就職内定先			
小学校	南河原小学校			
幼稚園	ひかり第二幼稚園	幸手さくら幼稚園	愛育幼稚園	黒磯いずみ幼稚園
	まつざわ幼稚園	ひばり幼稚園	さかえ幼稚園	松原幼稚園
	上尾みずほ幼稚園	東別所幼稚園	大山幼稚園	三田幼稚園

V 就職と進学

	荒川幼稚園 犬伏幼稚園 ひのつめ幼稚園 久喜みなみ幼稚園 鷺宮幼稚園 佐野みのり幼稚園 中央区立幼稚園	第二幸手幼稚園 しろがね幼稚園 第二双葉幼稚園 八千代ひかり幼稚園 北本みなみ幼稚園 黒磯幼稚園	まこと幼稚園 足利いずみ幼稚園 まむろ幼稚園 森の詩幼稚園 松原幼稚園 川本若竹幼稚園	籠原若竹幼稚園 増子幼稚園 さくらが丘幼稚園 文化幼稚園 原市文化幼稚園 児玉桜井幼稚園
保育所	ぴっころ保育園 愛隣保育園 やしお花桃保育園 きららの杜保育園西台 木の実保育園 中結城保育園 ピノ保育園 八潮学園 深谷保育園 松沢保育園 志多見保育園 アミ・クレイシュ	草加にじいろ保育園 いちご保育園 そうか草花幼稚園 辰野町公立保育園 加須保育園 天王保育園 みなみ保育園 明星保育園 なでしこ保育園 てんじん保育園 戸田こども園 熊谷総合病院保育室	西遊馬保育園 こぼと保育所 あいう園 みつまた保育園 つるた保育園 花崎保育園 つばさ保育園 みちのこ保育園 塩浜保育園 きさき保育園 北泉保育園	つくし保育園 さつき保育園 ポピンズ保育園 あさひ保育園 まんま〜る保育園 小鹿野ひまわり保育園 新里第二保育園 ホザナ保育園 三愛保育園 あいう園浦和美園駅前 保育園 みたけ保育園
施設等	光の家療育センター さいたま市 社会福祉事業団	ケヤキホーム 児童養護施設あゆみ学園	まきば園	愛泉乳児院

(3) 成果と課題 (点検・評価)

平成 25 年度卒業の学生においては、キャリアガイダンスでの全体指導に加え、ゼミ担当の教員と連携を図りながら個別指導を行い、その結果、就職希望者全員が就職することができた。そうした成果の要因としては、定期的で開催しているキャリアガイダンスにおける指導や個別の進路指導状況の把握、キャリアサポーターブックの作成等、進路支援委員会のみならず各ゼミ担当の教員と情報を共有し協同で支援を行ったためであると考えられる。

多くの学生は、事前に十分な準備をして採用試験に臨んでいるため、第一希望の幼稚園・保育園等から内定をもらうことができたが、中には採用試験で十分に力を発揮できず、何度か就職試験を受けることになった学生が数名いた。そうした学生に対しては、ゼミ担当の教員と進路支援担当の教職員が協力しながら学生をフォローしつつ、学生の適性や性格に即した指導を行うことで、最終的には進路を決定することができた。

来年度は学生数が増えるため、これまで卒業生が就職してきた幼稚園・保育園等とのつながりを大切にすると共に、しばらく求人票をいただいていない幼稚園・保育園等に対しても積極的に働きかける必要があると思われる。またゼミ担当の教員と進路支援委員会との連携をより一層密にして、どの学生に対しても十分に行き渡った指導ができるようにしたい。

2 進学

(1) 編入学

平成 25 年度も本学を卒業後、4 年制大学に編入学を希望する学生がいた。4 年制大学への編入学を希望する学生に対しては、試験対策を個別で指導するのに加え、本学で取得した単位が編入先の大学でどの程度認定されるか、また希望する学科が自分の学びたいことに合致しているかを考えながら編入学先を選ぶように指導した。

(平成 26 年 3 月 31 日現在・単位：人)

編入学	東洋学園大学現代経営学部現代経営学科	1
-----	--------------------	---

(2) その他の進学

本学においてまずは卒業に必要な単位の取得を優先した学生においては、卒業後に科目等履修生として資格・免許に必要な授業を受講している。

(平成 25 年 3 月 31 日現在・単位：人)

進学	本学科目履修生	1
----	---------	---

(3) 成果と課題（点検・評価）

編入学や進学希望の学生は、毎年それほど多くはないが、学部・学科選びや試験対策については十分な準備が必要であるため、編入学や進学を考えている学生には早めの指導が必要となる。そのため出来るだけ早く学生の希望や動向を把握し、指導が計画的に行われるようにしていきたい。

3 卒業生への支援

本学では毎年、卒業生が本学を訪れ、同級生や教職員と交流する「ホームカミングデー」を開催している。平成 25 年度は 8 月 25 日（日）に開催し、70 余名の卒業生の参加があった。それまでは前年度卒業生を対象に行っていたが、今年度は同窓生名簿に掲載されている全卒業生に案内状を送った。また前年同様、リカレントの機会としてワークショップの時間を設けた。今年度は（株）チャイルド本社の方に講師を務めて頂き、「ジャンボシアター」製作のワークショップを行った。そしてワークショップ後に食堂で懇親会を行った。

「ジャンボシアター」は、実際に保育で活用できるということで、特に卒業後 2 年以上経つ卒業生からは好評だった。一方、就職したばかりの卒業生は、就職してから苦労していること、困ってしまったことなどの話を教職員に聞いてもらいたいという思いの方が強い参加者も少なくなかった。

参加した卒業生のこうした声を参考にし、来年度はより充実した行事となるようにしたい。

VI 教員の研究活動及び社会的活動

1 研究活動

(1) 研究活動の概要

本学教員は、日々の講義や実習指導等の教育活動やそれに伴うさまざまな校務に従事する一方で、それぞれの専門分野の領域の研究活動、講演、制作活動においても意欲的に取り組んでいる。「埼玉純真短期大学研究論文集」をはじめ、その他の雑誌、著作や講演、制作等の形で発表された本年度の教員の成果の一端は以下の通りである。

(2) 専任教員の研究業績

○ 研究業績一覧

専任教員名	研究業績
安倍 大輔	<p>【執筆】 「埼玉純真短期大学 キャリアサポートブック」, 2013, 第1章、第2章、第4章、第5章</p> <p>【研究発表】 「オリンピックとオリンピック研究～内海和雄『オリンピックと平和-課題と方法-』を手がかりに～」, 教育科学研究会 身体と教育部会 12月定例研究会（於：日本体育大学深沢キャンパス）, 2013-12.</p>
伊藤 道雄	<p>【執筆】 「共に育ち合う交流及び共同学習」特別支援教育研究 N0671 東洋館出版社 2013-7, P36-39</p> <p>「さらに通常の学級からの発信を」特別支援教育研究 N0670 東洋館出版社 2013-6, P28</p> <p>「てんかんと言える学校の実現を」特別支援教育研究 N0674 東洋館出版社 2013-10, P28</p> <p>「豊かな関わりの中で共に学び合う交流及び共同学習」特別支援教育研究 N0678 東洋館出版社 2014-2, P23</p>
稲垣 馨	<p>【執筆】 「生きる力を育てる臨床心理学」保育出版社 2013-4 pp.69-71, pp.144-149</p> <p>「子どもとかわる力を培う 実践・発達心理学ワークブック」みらい 2013-4, pp.70-75</p> <p>「困難を抱えた子どもの育ちに対する子どもカルテの導入と包括的支援システムの構築」成果報告書 文部科学省 科学研究費基盤研究(c)研究課題番号：24500915 2013-5</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>「校種間の文化の違いから見た,育ちに困難を抱える子どもへの支援の在り方：保育士,小・中学校教諭に対するインタビュー結果を手がかりに」埼玉純真短期大学研究論文集 2013 第 6 号 2013-12, pp.13-24</p> <p>【研究発表】</p> <p>「校種間の文化の違いから見た,育ちに困難を抱える子どもへの支援の在り方：保育士,小・中学校教諭に対するインタビュー結果を手がかりに」日本保育学会第 65 回大会 2013-5</p>
入江 良英	<p>【研究発表】</p> <p>保育士に反省的実践力を養成する 全国保育士養成協議会第 52 回研究大会 2013-9.</p>
牛込 彰彦	<p>【執筆】</p> <p>「第 3 期 子ども大学はにゅう」を開催して. 埼玉純真短期大学研究論文集第 7 号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会 2014, p.89-92.</p> <p>【研究発表】</p> <p>実習における自己評価と実習評価の関係 全国保育士養成協議会第 52 回研究大会 2013-9.</p>
小澤 和恵	<p>【研究発表】</p> <p>保育士養成校において「音楽療法の視点から音楽活動を考える」取り組み 日本音楽療法学会第 13 回学術大会 2013-9.</p> <p>【演奏活動】</p> <p>「カルメンメドレー：連弾用アレンジ」 第 4 回不動岡高校卒業生によるガラコンサート パストラルかぞ 2013-11.</p>
齋藤 史夫	<p>【執筆】</p> <p>みんなで 21 世紀の未来をひらく教育のつどい分科会報告 23 「文化活動・図書館」. みんなで 21 世紀の未来をひらく教育のつどい教育研究集会 2013 実行委員会編・日本の民主教育,大月書店, 2013-12.</p> <p>「子どもの生活圏文化」の再生・創造と児童館－「総合的な放課後対策」と「児童館ガイドライン」の検証を通して－『福祉文化研究』vol.23.日本福祉文化学会.2014-3.</p> <p>子どもの生活からの「学びの剥奪」と「学びの再生」－学童保育における算数教室を通して－. 埼玉純真短期大学研究論文集第 7 号. 埼玉純真短期大学図書館情報委員会,2014.</p> <p>【研究発表】</p> <p>学童保育の生活と学び,日本学童保育学会第 4 回研究大会,2013-6</p> <p>子どもの生活からの「学びの剥奪」とその再生,早稲田大学文学学術院教育学会夏季研究発表会,2013-7.</p> <p>子どもの福祉文化と児童館,第 24 回日本福祉文化学会全国大会、立教大学,2013-9.</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

細田 香織	【執筆】 「現代文 B 上巻 指導資料 ¹⁾ 」, 大修館書店, 2014, p.177-206.
藤田 利久	【執筆】 保育士・幼稚園教諭養成機関における社会人マナーの必要性(2) 本学での実践から. ヒューマンスキル研究(21) 2013-4, p.50-55.
持田 京子	【研究発表】 日本保育学会 [子どもの創造的音楽表現] - 幼児のリズム獲得 - 【執筆】 「保育学生のための音楽表現」(株)マザー・アース 2014, p.8-12

(3) 専任教員の所属学会

○ 所属学会一覧

氏名	所属学会
浅井 広	日本保育学会・関東教育学会・野外文化教育学会
安倍 大輔	日本体育学会・日本スポーツ社会学会・日本子ども社会学会 日本体育・スポーツ政策学会
阿部 峰雄	日本図書館研究会・日本図書館情報学会
伊藤 道雄	日本 LD 学会 特殊教育学会
稲垣 馨	日本心理臨床学会・日本精神分析学会・日本質的心理学会・日本保育学会
入江 良英	日本教育社会学会・日本社会学史学会・日本社会理論学会・日本発達障害学会
牛込 彰彦	日本神経科学学会・日本生理学会・日本薬学会・日本赤ちゃん学会
小澤 和恵	全国大学音楽教育学会・日本音楽療法学会・日本ダルクローズ音楽教育学会
齋藤 史夫	日本アトラー心理学会・日本社会教育学会・日本福祉文化学会・日本学童保育学会・ 早稲田大学文学学術院教育学会
高橋 努	日本社会福祉学会・日本高齢者虐待防止学会・立正社会福祉学会 (評議員)
藤田 利久	秘書サービス接遇教育学会
細田 香織	日本国語教育学会・人文科教育学会・筑波大学 日本語日文学会
持田 京子	日本保育学会 日本乳幼児教育学会 日本音楽教育学会
安村 由希子	日本 LD 学会・日本コミュニケーション障害学会・日本発達障害支援システム学会

2 社会的活動

短期大学教員の職務の第一は、学内における教育および研究であるが、その他にそれぞれの専門を活かして、学外の地域社会においてさまざまな形で貢献することもその職務のひとつである。本学においても、多くの教員がそれぞれの専門領域において、地域社会に

VI 教員の研究活動及び社会的活動

講師・助言者等として貢献している。本年度の実施状況および各種団体の所属の一端は以下の通りである。

(1) 講師・助言者等の実施状況

○ 講師等実施状況一覧

氏名	活動
浅井 広	子ども時代とおもちゃ・遊び 講師 埼玉純真短期大学公開講座 埼玉純真短期大学 2013-7. 相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立井泉小学校 2014-1. 相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立岩瀬小学校 2014-1. 幼稚園・保育園の基礎知識～保育者の卵になるために～ 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-3.
安倍 大輔	「キャリアデザイン研修会」レクリエーションプログラム担当 埼玉県短期大学協会 2013-9. 「スペシャリストに学ぶ」レクリエーションプログラム担当 誠和福祉高等学校 2013-10. 「子どもにとって遊びって何？」 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-1.
伊藤 道雄	「特別支援教育からみた授業のユニバーサルデザイン」行田市立行田中学校校内研修会、行田市立行田中学校 2013-5. 「特別支援教育に期待する」さいたま市特別支援教育振興会総会 浦和コミュニティーセンター2013-6. 「小学校における発達障害児支援のあり方」埼玉県小学校長等管理職研修（県福祉政策課主催）市民会館おおみや 2013-7. 「この子を大切にしたい～今求められるもの～」さいたま市立植竹小学校学習支援ボランティア講演会、植竹小学校 2013-7. 「教師が身につけたいコミュニケーションスキル・児童生徒に身につけさせたいコミュニケーションスキル」埼玉大学教職員キャリアアップサポートセミナー、埼玉大学大宮ソニックシティカレッジ 2013-7. 「保護者と共にすすめる特別支援教育」和光市教育研究会特別支援教育部研修会、和光市立大和中学校 2013-8. 埼玉県特別支援教育研究会研究協議会「日常生活の指導・遊びの指導」分科会指導助言者、聖学院大学（上尾市） 2013-8. 「困り感のある子の理解と支援」埼玉県立行田特別支援学校公開講座、行田特別支援学校 2013-8. 「発達障害のある児童生徒との関わり方」羽生市教育研究会教育心理相談研究部研修会、埼玉純真短期大学 2013-8.

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>「どの子ども学校の子・みんなが資源・みんなで支援」埼玉県小中学校学校事務職員研修会、春日部市商工振興センター2013-8.</p> <p>「個別の教育支援計画と個別の指導計画」埼玉県立総合教育センター特別支援学級担当者育成研修会、埼玉県立総合教育センター2013-8.</p> <p>「配慮の必要な子の指導～KJ法により事例研～」羽生市立岩瀬小学校校内研修会、羽生市立岩瀬小学校 2013-8.</p> <p>「通常の学級における障害のある子の支援」加須市立騎西小学校校内研修会、加須市立騎西小学校 2013-9.</p> <p>「働くことの喜びを育む」埼玉大学附属特別支援学校 PTA 進路相談部研修会、埼玉大学附属特別支援学校 2013-10.</p> <p>全日本特別支援研究連盟全国大会栃木大会「交流及び共同学習」分科会指導助言者、栃木県宇都宮市富屋小学校 2013-10.</p> <p>「全ての子どもにとって分かりやすい教室環境づくりを求めて～ユニバーサルデザインの視点から～」さいたま市教育研究会特別支援教育部シンポジウム指定討論者、さいたま市立与野西中学校 2013-11.</p> <p>「卒業後の就労生活・家庭生活について」埼玉県立春日部特別支援学校 PTA 進路相談部研修会、埼玉県立春日部特別支援学校 2013-11.</p> <p>「特別支援学校のセンター的機能について」全日本特別支援教育推進連盟特別支援教育コーディネーター養成講座、全国たばこセンタービル 2013-11.</p> <p>「特別支援教育から学ぶ授業の在り方」行田市教育委員会研究委嘱校行田市立行田中学校研究発表会、行田市立行田中学校 2013-11.</p> <p>「特別支援教育に根ざした学校経営と地域に貢献する大学のセンター的機能」SENSの会研修会、埼玉純真短期大学 2013-11.</p> <p>「子どもの困り感に気づく～発達障害のある子の理解～」羽生市巡回相談事業羽生南小学校校内研修会、羽生市立羽生南小学校 2013-12.</p> <p>「これからの特別支援教育と学校経営」さいたま市教育委員会指導主事研修会講演会、さいたま市立教育研究所 2013-12.</p> <p>「子どもの困り感に気づく～発達障害のある子の理解～」羽生市巡回相談事業村君小学校校内研修会、羽生市立村君小学校 2014-1.</p> <p>「働く喜びを感じながら～小学部から取り組むキャリア教育～」埼玉県立春日部特別支援学校校内研修会、埼玉県立春日部特別支援学校 2014-1.</p> <p>北埼玉特別支援教育研究協議会指導助言者、行田市地域文化センター 2014-1.</p> <p>「特別支援教育推進体制～学級体験入学・入学前相談の進め方～」埼玉県市町村教育委員会指導主事研修会・羽生市教育委員会就学支援委員会研修会、羽生市市民プラザ 2014-2.</p> <p>「特別支援学級を設置する学校の教育」さいたま市立日進小学校校内研修会、さいた</p>
--	--

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>ま市立日進小学校 2014-3.</p> <p>「障害のある子の子育てから学ぶ」 埼玉純真短期大学 公開講座 2013-6.</p> <p>「子育ての楽しさ～今だからわかること～」 埼玉純真短期大学オープンキャンパス 2013-7.</p> <p>「見えない世界だからこそ信じたい」 埼玉純真短期大学オープンキャンパス 2013-8.</p> <p>「子どもの困り感？とその理解」 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2013-12.</p> <p>「勇気～障がいのある人から学ぶ～」 子ども大学はにゅう授業 2013-10</p> <p>相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立熊谷高等学校定時制 2013-6.</p> <p>相談員、埼玉純真短期大学相談 行田市立騎西小学校 2013-9.</p> <p>相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立鴻巣女子高等学校 2013-9.</p> <p>相談員、埼玉県教育委員会巡回相談 埼玉県立伊奈学園高等学校 2013-9.</p> <p>相談員、羽生市教育委員会巡回相談 羽生市立東中学校 2014-1.</p>
稲垣 馨	<p>埼玉県教育委員会委託巡回相談員（西中・手小林小・熊谷高校・鴻巣女子高校） 須影保育園おしゃべりタイム（子育て支援）</p> <p>羽生市教育支援員夏期研修会講師 2013-8</p> <p>「自分らしいトピアリーを作ろう」講師 埼玉純真短期大学 公開講座 2013-6</p> <p>熊谷・深谷地区高等学校教員を対象とした「特別支援教育を要する生徒の特徴と指導」 講演講師 2014-1.</p> <p>「こころの不思議 心理学入門」 埼玉純真短期大学 プレカレッジ 2014-3.</p>
入江 良英	<p>「ドイツ語入門」, 埼玉純真短期大学市民公開講座 埼玉純真短期大学 2013-6.</p>
牛込 彰彦	<p>「漢方薬ってなあに？」, 埼玉純真短期大学市民公開講座 埼玉純真短期大学 2013-6.</p> <p>相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生立北小学校 2014-2.</p> <p>相談員 羽生市教育委員会巡回相談 羽生立新郷第二小学校 2014-2.</p> <p>保育・教育実習入門 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2013-1.</p> <p>保育・教育実習入門 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2013-2.</p>
小澤 和恵	<p>1 曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 2013-6.</p> <p>1 曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 2013-7.</p> <p>1 曲弾ければあなたもピアニスト 講師 埼玉純真短期大学公開講座 2013-9.</p> <p>1 曲弾ければあなたもピアニスト発表会 講師 埼玉純真短期大学公開講座 2012-10.</p> <p>弾き歌いとピアノレッスン 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-1.</p> <p>弾き歌いとピアノレッスン 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-2.</p>
齋藤 史夫	<p>ふみちゃんのびっくり算数教室:森の算数探検隊ー算数ビンゴ 講師 熊本県上天草 市みつる保育園・学童保育 2012-8.</p> <p>講座「うばわないで！子ども時代」講師・子どもの組織を育てる全国集会 2013-11</p> <p>ふみちゃんのびっくり算数教室:びゅんびゅんゴマをびゅんびゅん回そう講師 熊本 県上天草市みつる保育園・学童保育 2014-1</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	<p>オトナの算数教室 キ☆ン氷結折をおる 講師 羽生市学びあい夢プロジェクト埼玉県まなびいプロジェクト協賛事業・埼玉純真短期大学市民公開講座 2013-9.</p> <p>子ども若者フォーラム2014 「子どもとメディア」コーディネーター 2014-1</p> <p>フラクタルで飛び出す！春のカード 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-2</p>
高橋 努	<p>地域で暮らす～高齢者虐待の現状から～ 講師 埼玉純真短期大学 公開講座 2013-6.</p> <p>相談員 羽生市特別支援教育巡回支援 羽生市立南中学校 2013-12.</p> <p>相談員 羽生市特別支援教育巡回支援 羽生市立新郷第一小学校 2014-1.</p> <p>相談援助 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-3.</p>
藤田 利久	<p>建学の精神を理解する 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-1.</p> <p>建学の精神を理解する 講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-2.</p> <p>ヒューマンスキルの教育 コーディネーター 秘書サービス第18回研究大会 2013-8.</p>
持田京子	<p>東京都板橋区保育巡回指導員</p> <p>羽生市特別支援教育巡回支援員</p> <p>須影保育園おしゃべりタイム（子育て支援）</p>
安村 由希子	<p>須影保育園おしゃべりタイム（子育て支援）</p> <p>「発達障害の特徴と支援」, 羽生市巡回指導, 須影小学校, 2014-2.</p> <p>「こんなときどうする?～気になる子どもへの対応方法を考えよう～」, 埼玉純真短期大学公開講座 2013-8.</p> <p>「特別支援保育～こんな時どうする?～」講師 埼玉純真短期大学プレカレッジ 2014-3.</p>

(2) 専任教員の諸団体への所属状況

○ 諸団体への所属状況一覧

氏名	所属団体
安倍 大輔	日本子どもを守る会常任理事
阿部 峰雄	日本図書館協会 羽生市図書館協議会
伊藤 道雄	<p>埼玉県障害児就学支援委員会委員 (2013-6～)</p> <p>さいたま市就学支援委員会委員長 (2013-5～)</p> <p>羽生市立小中学校就学支援委員会委員 (2013-4～)</p> <p>第2次さいたま市特別支援教育推進計画協議会委員 (2013-4～)</p> <p>羽生市教育振興基本計画策定委員 (2013-4～)</p> <p>埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園学校評議員 (2013-4～)</p> <p>さいたま市立日進小学校 学校評議員 (2012-4～)</p>

VI 教員の研究活動及び社会的活動

	埼玉大学附属特別支援学校 学校評議員 (2012-4～) 埼玉県特別支援教育研究会 参与 日本生活中心教育研究会 会員 埼玉県立特別支援学校就労支援総合推進事業就職支援アドバイザー 全日本特別支援教育研究連盟編雑誌「特別支援教育研究」編集委員 授業のユニバーサルデザイン研究会 会員
稲垣 馨	日本精神分析協会研修生・九州臨床心理士ネットワーク (KCPN) 会員
牛込 彰彦	NPO 法人脳の世紀推進会議会員・社会福祉法人「共愛会」第三者評価委員
小澤 和恵	羽生市女性会議会長・羽生市人権教育推進協議会理事・羽生市人権推進協議会役員
齋藤 史夫	<ul style="list-style-type: none"> ・公益財団法人さわやか福祉財団助成・特定非営利活動法人さわやか青少年センター「幼児期の共助力の萌芽についての調査研究」研究者 ・学研究費研究「幼児の共助力を育てる居場所に関する研究ー子育て支援センターに注目して」研究協力者 ・特定非営利活動法人さわやか青少年センター「子どものボランティア活動活性化のための研究会」研究者 ・厚生労働省平成 26 年度セーフティネット支援対策等事業費補助金 (社会福祉推進事業分)「貧困などによる子ども・若者を対象にしたセーフティネットの現状とその課題に対する提言に向けた調査研究」 調査研究チーム ・『子ども白書』編集委員会事務局長 ・静岡少年少女センター副運営委員長 (研究部) ・子ども若者フォーラム実行委員
高橋 努	立正大学社会福祉学部同窓会 代議員、日本社会福祉士会、日本社会福祉士会埼玉県支部、埼玉県介護支援専門員協会、介護福祉・教育・実践研究会 (大妻女子大学)
藤田 利久	日本私立短期大学協会 理事 関東私立短期大学協会 理事 埼玉県私立短期大学協会 理事・副会長 羽生市学びあい夢プロジェクト協議会 副議長 実務検定協会 理事
持田 京子	羽生市社会教育委員 文京学院大学研究会(菖蒲)会員 埼玉音楽療法愛音会員

(3) 他大学等の非常勤講師等の兼務状況

○ 学外兼務状況一覧

氏名	学外兼務先
安倍 大輔	浦和大学総合福祉学部 非常勤講師, 立教女学院短期大学 非常勤講師
稲垣 馨	お茶の水女子大学 心理相談室相談員
齋藤 史夫	日本工学院八王子専門学校スポーツカレッジ、幼稚園教諭・保育士コース 非常勤講師・近畿大学豊岡短大通信教育部 非常勤講師
高橋 努	学校法人服部学園服部栄養専門学校 非常勤講師、大妻女子大学 非常勤講師

持田 京子

千葉敬愛短期大学 非常勤講師 東京福祉大学 非常勤講師

3 成果と課題（点検・評価）

短期大学の教員は、教育活動はもとより研究活動も並行して行わなければならない。このため本学では教員に1年ごと、著作・論文執筆・学会発表の中で、いずれか1本の著作・論文、または1回の発表を最低限の義務として課している。また、教員のこのような研究活動は、学生教育に還元できなければならないと考えている。この点から見ても本学教員の研究活動に関しては、それぞれの教員が専門分野で著作・論文執筆・講演活動等に意欲的に取り組んでおり、それを学生教育に還元している。

また、本学が目指す地域に根ざした短期大学における任務のひとつに地域社会への貢献が挙げられる。この点においても本学の教員は高等学校をはじめとする学校評議員や地域行政の役員として、ボランティア活動や地域社会活動にも積極的に参加している。一方、本学のような小規模の教職員数の少ない大学では、学外活動と学内学生教育とのバランスを常に考えていかなければならず、十分な地域貢献ができないことも確かである。

このように教員の研究環境を考えた場合、本学が決して十分な環境を教員に提供しているとは言えないため、今後、時間的な配慮や経済的支援において、外部からの研究費獲得を含めて研究費の充実や研究時間の確保を課題と捉え、研究に適した環境を整えていきたい。

VII 地域貢献活動

1 活動の概要

本学は地域連携を重視し、地域の短期大学（コミュニティーカレッジ）としての役割を標榜して、教育活動を行っている。

平成 22 年に、羽生市教育委員会との協力のもと、「羽生市学びあい夢プロジェクト」を立ち上げた。これは市内にある、本学をはじめ、県立学校 5 校（高等学校 4 校、特別支援学校 1 校）、中学校 3 校、小学校 11 校のほか、私立幼稚園、公私立保育園、児童養護施設などの教育機関が連携し、教職員、学生・生徒・児童や保護者などが、相互に交流し、教育の質を高めようと発足したものであり、本学の地域貢献活動推進の源となっている。

本年度、特筆されるのは、埼玉県知事の「とことん訪問」に本学が選定され、9月に上田知事が来学されたことである。地域に密着した特色のある活動をしている事業体を選んで、県知事が訪問してその取り組みを視察するもので、当日は、「子ども大学はにゅう」をはじめとした本学の地域貢献取組状況の説明ののち、学内の巡視や羽生市立三田ヶ谷小学校 1 年生の「1 日大学体験入学」の様子を視察され、本学学生と昼食を共にされながら懇談された。

大学としての地域貢献の主な取り組みのうち、従来から実施していた事業としては、以下のものがある。

- ① 「市民公開講座」 28 講座の開催（受講者 320 名）
- ② 「子ども支援センター」の幼児・児童・生徒相談事業
- ③ 「特別支援教育・発達障害研究セミナー」の開催（大雪のため今年度の開催は中止）
- ④ 羽生市内の全小中学校を対象とした特別支援教育巡回相談事業への教員の派遣
- ⑤ 羽生市特別支援教育担当教員及び支援員の研修への講師派遣
- ⑥ 羽生市立羽生南小学校 1 年生の「大学 1 日入学」の実施
- ⑦ 羽生市須影保育園の子育て支援「おしゃべりタイム」への教員派遣
- ⑧ 羽生市立川俣小学校、三田ヶ谷小学校の児童の宿泊合宿への学生の協力
- ⑨ 埼玉県教育局、羽生市教育委員会との共同事業である「子ども大学はにゅう」の実施
- ⑩ 「ゆるキャラさみっと in 羽生」への学生ボランティアなどの協力
- ⑪ 県立羽生水族館を会場として実施している「じゅんしん幼稚園」の開催など

「子ども支援センター」事業については、文部科学省の「平成 24 年度 私立大学教育研究活性化設備整備事業」に採択され、地域の発達障害を含む学習や生活上のつまづきを

抱える児童・生徒などの相談を行うもので、相談員には本学教員が当たっている。本年度相談件数は17件で、相談内容も相談年齢も多岐にわたっている。

「子ども大学はにゅう」の活動は3年目を迎え、小学校4年生から6年生が大学に通学し、大学教員の講座を受講することによって、その知的好奇心を刺激する学びの機会を提供することを目的としている。3年間で128名の児童が参加している。

また本年度からの新たな取組みとしては、以下のものがある。

- ① 埼玉県教育委員会より委嘱された埼玉県立高等学校への巡回相談事業への教員派遣
- ② 羽生市立羽生三田ヶ谷1年生の「大学1日入学」の実施
- ③ 羽生市立第7保育所幼児の大学訪問受け入れ

県立高等学校への巡回相談事業については、埼玉県教育委員会特別支援教育課からの要請で、本学教員が県立高等学校へ出向いて、特別に支援が必要な生徒の支援に協力している。本年度の支援対象校は、3校であった。

2 成果と課題（点検・評価）

このように、本学の地域に密着した地域貢献活動は、年々その活動内容が拡充し、教職員はもとより、学生も積極的に参加するなど、地域の教育機関はもとより、行政、産業などの各機関から高く評価されている。

しかし、これら地域貢献活動に参加する教職員、学生の割合は、まだ一部の者に限られている。教員については、その専門性を生かした地域活動をさらに拡大する必要性が求められている。また、学生については、「子ども学」を学ぶ本学の特色を軸にした地域貢献活動を、全員参加で展開できるよう、授業の場はもとより学生会活動やクラブ活動を通じて啓蒙して行く必要を感じている。

VIII 図書館

1 図書館の基本方針

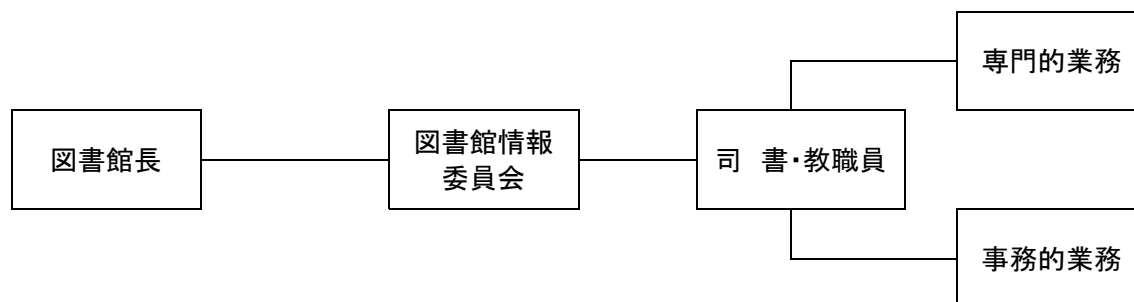
本学は、設立趣旨にあるように、埼玉の県北で地域の女子教育に貢献することを目的としている。それは、女性の自立と社会的貢献に向けた専門教育の場となることをめざしたものである。図書館はそのような本学の目的実現の追求に寄与する方向での充実を意図している。

図書館では、開学以来、学科構成に合わせた選書を行ってきた。現在は、こども学科に関連する保育・幼児教育・特別支援教育関連の資料や絵本、紙芝居などの児童書に重点を置いた収集を行い、学生・教職員からのリクエストにも積極的に応えて、蔵書の充実を図っている。

2 組織と運営

図書館長は、図書館の管理および運営を統括し、全学的な連絡調整を行っている。また、図書館の運営を円滑にかつ大学や学科の教育方針に即応したものにしていくため、館長をはじめ、専任・特任教員から選出された委員と図書館司書で構成される「図書館情報委員会」を組織し、図書館の運営、図書館資料の購入計画、購入文献の選定、図書館の利用に関する事項などについて協議している。

通常の業務は図書館司書および教職員があたっている。本学図書館の場合、図書館司書が、情報サービス、目録作成・管理などの図書館の専門的業務、ならびに教職員が一般的な事務的業務を行っている。



図書館の基幹業務は、コンピュータ化されるに至っていないので、予算管理、発注受入、図書整理、貸出返却、利用統計、蔵書点検に至るまでの業務を手作業で行わざるを得ない状況である。なお、蔵書検索については、コンピュータによる簡易目録とカード目録を併用して運用している。

3 施設・設備及び情報サービス

(1) 施設・設備

本学図書館は昭和 58 年 4 月に開館し、総面積は 266.2 平方メートルで、一階は 147.6 平方メートル、二階は 118.6 平方メートルである。一階は書架および司書室、二階は閲覧室および参考図書室として使用している。

蔵書数（図書・視聴覚資料）は 51,262 点（平成 26 年 3 月 31 日現在）である。なお、ほとんどの外国書は、104 サーバ室のスペースの一部を書庫として使用し、ここに別置している。この書庫は閉架式のため、自由に利用することはできない。

一階の書庫は、開架方式を採用しているため、利用者は自由に書庫へ入り利用できる。大型本、新聞のバックナンバーなどは集密書架に排架している。また、ブラウジングコーナーを設けている。

二階は閲覧室で、閲覧席 46 席（スツール 10 脚含む）を設置し、閲覧室の周囲には参考図書、学術・専門雑誌、視聴覚資料を排架して、利用に供している。

在籍学生数は、1 年 160 名、2 年 114 名、全学年 264 名（平成 25 年 10 月 1 日現在）である。学生一人あたりの蔵書数は約 186 冊、平成 25 年度の受入冊数は 3.7 冊である。

(2) 情報サービス

図書館の業務は、図書館利用者である学生および教職員に対する図書館資料の提供が中心的業務である。主なサービスは次のとおりである。

所蔵調査を求める学生や教職員に対しては、要求文献のおおよその NDC（Nippon Decimal Classification＝日本十進分類法）を判定し、当該排架場所を案内して探索させ、該当文献を探しあてたならば、二階の閲覧室またはブラウジングコーナーで閲覧してもらう。

所蔵の有無が不明瞭な場合には、蔵書検索システム（OPAC＝Online Public Access Catalog）、または書名目録・著者名目録等のカード目録での検索を案内する。そして該当文献が発見できたならば、閲覧室で利用してもらう。

① レファレンス・サービス

文献調査などの参考調査依頼を来館者から受けたときは、図書館司書室またはカウンターに排架している参考図書を使用するなどをして回答する。しかし、利用者が自分で調査を希望する場合には、調査ツールを提供して調べてもらう。例えば、簡単な事実調査、新規購入図書の価格、出版社等の情報である。

② 館外貸出とコピーサービス

学生への館外貸出の冊数・期間は、10 冊・2 週間以内として、実習などで必要な場合に

は返却期限を延長するなどの特別貸出を行っている。なお、教職員への館外貸出の冊数は 20 冊、期間は 1 ヶ月以内としている。コピーサービスについては、著作権法第 31 条に従い、予め文献複写申請をしてもらい、館内資料に限り許可している。本学図書館で所蔵していない資料については、図書館間相互利用による複写文献あるいは現物の取寄せで対応し、他の図書館を利用できるように照会サービスも行っている。

③ 視聴覚資料

図書館サービスにおける文献資料の情報源は、主に図書や雑誌であるが、DVD、CD、CD-ROM などの視聴覚資料の収集が必要不可欠でもある。保育・幼児教育や一般教養として必要な視聴覚資料を購入して利用に供している。

二階閲覧室には、DVD・CD/ビデオ一体型の再生装置と液晶 13 型ディスプレイを設置し、館内での CD、DVD、ビデオテープ等の視聴が可能である。

④ 情報検索システムの利用

コンピュータで蔵書を簡易に検索できるシステム (Simple-OPAC: OPAC 社) を活用し、正規の MARC (MACHine Readable Cataloging = 機械可読目録) を取り入れてはいないが、利用者サービスの向上を図っている。

今後は、国立情報学研究所が提供する目録所在情報サービス (NACSIS-CAT/ILL) を導入して、共同分担目録システムや図書館間相互利用システムを活用するため、本学図書館の基幹業務のコンピュータ化を実施することが必要である。また、共同分担目録システムを導入した場合、書誌レコードの流用が可能となり、作業を省力化できるメリットがある。

この学術情報システムは、国内の高等教育機関の図書館における導入の普及傾向をみると、近々の検討課題であると思われる。

4 所蔵点数と年間受入状況

(1) 所蔵点数

① 蔵書数

蔵書数は、平成 26 年 3 月 31 日現在で、図書 49,148 冊である。そのうち和書は 44,355 冊、外国書は 4,793 冊である。

② 学術雑誌所蔵数

購読している学術雑誌のタイトル数 (平成 25 年度) は次のとおりである。なお、一般雑誌は除く。

○ 学術雑誌タイトル数

和雑誌 : 43 点	外国雑誌 : 5 点
------------	------------

③ 視聴覚資料所蔵点数

視聴覚資料の受入点数（平成 26 年 3 月 31 日現在）は次のとおりである。

○ 視聴覚資料の受入点数

視聴覚資料：2,114 点	
内 訳	
DVD	490 点
ビデオテープ	988 点
カセットテープ	265 点
CD	262 点
CD-ROM	74 点
スライド	35 点

④ 除籍数

平成 25 年度は、蔵書の除籍を実施していない。

(2) 年間受入状況

平成 25 年度の資料別受入状況は、図書 837 冊、視聴覚資料 83 点で、合計 982 件である。これを学生 1 人あたりの受入件数で算出すると、約 4.3 件（受入件数／学生数）となる。

○ 受入状況の内訳（平成 25 年度）

受入種別	冊数・点数	
図 書	合計 837 冊	
	和 書	837 冊
	外国書	0 冊
視聴覚資料	合計 64 点	
	DVD	83 点
	ビデオテープ	0 点
	CD	0 点
	CD-ROM	0 点
	カセットテープ	0 点
図書＋視聴覚資料	合計 982 件	

5 利用状況

(1) 入館者数

Ⅷ 図書館

平成 25 年度の年間入館者数は 4,858 人（教職員 706 人、学生 4,152 人）、1 日平均入館者数は 24.8 人（年間入館者数／開館日数）である。学生 1 人あたりの年間入館回数は約 15.5 回（学生年間入館者数／学生数）である。学生所属別の入館者数と利用比率は次のとおりである。

○ 学生所属別入館者数および学生 1 人あたりの利用回数（科目履修生等を除く）

	こども学科	
1 年	2,626 人	16.4 回
2 年	1,526 人	10.6 回

（2） 館外貸出

館外貸出については、先述のとおり、学生、教職員によって貸出期間が異なる。通常の期間、学生は 1 人 10 冊までで 2 週間以内である。教職員は 1 人 20 冊までで 1 ヶ月以内となっている。ただし、夏休み等の長期休暇および保育・幼稚園実習、施設実習等の場合は特別長期貸出を認めている。

○ 学生貸出冊数（括弧内は一人あたりの平均貸出冊数）

	こども学科
1 年	2,305 冊 (0.9 冊)
2 年	2,403 冊 (1.6 冊)

平成 25 年度の教職員の館外貸出冊数は、706 冊である。

（3） その他の業務

① 参考業務

平成 25 年度のレファレンス受付数（クイックレファレンスを含む）は、3,486 件である。

② 文献複写

図書館内に設置しているコピー機の平成 25 年度の利用は、次のとおりである。

○ 学内文献複写の申請人数と枚数

	人 数	枚 数
学内文献複写	344 人	3,003 枚

なお、図書館に設置しているコピー機は、著作権法第 31 条による図書館資料の複製のため、館内資料の複製に限定して許可している。

③ 相互利用

平成 25 年度の図書館間の相互利用の内訳は、次のとおりである。

○ 相互利用の受付・依頼件数

	受 付	依 頼
文献複写	1 件	0 件
現物貸借	0 件	0 件

6 研究紀要**(1) 埼玉純真短期大学研究論文集****① 第7号**

平成 25 年 10 月に原稿募集を行い、平成 26 年 3 月 31 日に刊行した。

7 成果と課題（点検・評価）

平成 25 年度は、学生にとっての魅力ある図書館づくりを目標に、館内資料の配置等の工夫を行った。具体的には従来 2 階奥に排架されていた絵本を 1 階に移動したことである。もともとは新書が排架されていたが、利用機会も少なかったため、その場所を移動先として選定した。本学は子ども学科単科の大学で卒業生のほとんどは乳幼児・児童の保育教育に携わる。それゆえ、絵本の年間利用回数も多いことから、学生の利便性向上のためにこの措置を行った。移動の結果は学生からの評判も良く、学生が絵本を手にする機会が多くなったと感じている。同時に、「この 1 年で読みたい 2 4 冊」という資料を作成し学生に配布した。

また、学生の読書に対する興味関心を高めるために、読書感想文コンクールを実施した。応募は 7 点であった。選考結果は、最優秀賞は該当なしであったが、優秀賞 3 点、佳作 4 点となった。応募点数は少なかったものの、このようなイベントを通して、学生の関心を少しでも高められたのではないかと考えられる。

来年度への課題としては、図書館資料の除籍である。過去 5 年以上除籍を行っていない。図書館スペースの関係もあり、除籍を行い図書館資料の整理を行うべきと考えられる。

IX 校地・施設・設備

1 校地及び校舎面積

(1) 概要

本学は広大な関東平野の北部埼玉県羽生市にあり、利根川を境にして、すぐ北側は群馬県、北東側は栃木県、東側は茨城県の県境に位置し、関東地方全体から見れば、地理的にはほぼ中心をなす場所に存在する。政治・経済の中核である東京へも、1時間強の時間で出られることもあり、文化・観光都市の散在する関東北部地方に挟まれ、いたって恵まれた環境にある。

校地面積は短期大学設置基準(2,400 m²)の約14.57倍の広さを有する34,970 m²、そこに校舎は7,064 m²、運動場8,059 m²、その他の土地19,847 m²がある。校地内には屋外体育施設としてグラウンド(一周300m)が設けられており、学生、および来客者用駐車場(111台)、自転車置場が設置されている。研修棟の1階部分にある食堂の南側はテラスとなっており、ベンチ、テーブルが備えられている。

学内東側には、体育用具入れ、テント収納入れなどのために利用されている倉庫がある。

校地総面積(大学専用校地)	34,970 m ²
校舎	7,064 m ²
運動場	8,059 m ²
その他	19,847 m ²

(2) 成果と課題(点検・評価)

本学の校地、及び校舎の現況面積は設置基準を満たしているが、設置基準と対比すると校舎は必要面積に対して6.33倍、校地は14.57倍の面積を有している。校舎との比較では校地がより多く基準面積を上回っており、かなり余裕のある校地を有している点特徴的である。

大学周辺は、徐々に開発の動き(国道沿いに大型量販電機店、ベビー用品店等の開店)が見られてきた。ただ、開発にはある程度の時間を要する。そのために、大学の周りはまだいたるところ昔と変わることなく農地が広がり、都会よりこの地を訪れる人々は、時間が止まったような安らぎを得ることが出来る。そういった意味では、本学の立地条件は恵まれており、都会の喧騒から離れて、じっくりと教育・研究に取り組むことの出来る、優れた教育環境を備えていると言えよう。また、緑地部分が校地の20%を占める現状からも、情操環境としては貴重かつ最適であると自負できる。

2 施設及び設備

(1) 概要

本学校舎は管理棟・研究棟・学習棟・研修棟・体育館から構成されている。管理棟は、本年7月の事務室集約化移設に伴い、旧事務室スペースを大部屋として、または個別(3区分け)にも使用可能な多目的室として改装を行った。合わせて同棟を無線LAN化し、プロジェクター利用などでペーパーレス会議が可能なインフラを整えた。管理棟にはそのほか学長室・応接室・会議室・保健室等が設けられている。管理等に接続する形で研究棟があり、1階・2階部分は図書館、3階・4階・5階は教員研究室となっている。低層階の多い本学の校舎にあって唯一5階建てのこの建物は本学のモニュメント的存在である。

2階建ての学習棟は、普通教室、演習室、大講義室、小児栄養実習室、リズム音楽室、ピアノレッスン室(20室)、事務室、パソコン教室、学生会室等から構成され、学習棟正面入口から各教室へ通じる廊下に、連絡事項伝達のための掲示板が設置されている。

ICT活用による教育環境整備について、講義環境の大幅改善を行った。文科省の補助金も活用し、各教室にプロジェクター・スクリーンの設置を行い、黒板との使用比較においてもよりビジュアル性を向上させ、講義時間の有効活用と内容の理解度の向上に寄与できるようにした。更に、パソコン教室全機を含めて学内全パソコンのソフト更新(Windows XPから7)を行い、快適性と安全性を向上させた。

喫食インフラの改善としては、よりバラエティに富んだ美味しい食事提供を目指して、学生食堂厨房の改造・改装及び食堂内へのパーゴラ設置、椅子・テーブルの新規追加を含めた再レイアウトを実施した。また本年度末の春休みには、学生増への対応と憩いの場の増設、及び学生のマナー教育のための実践ルームとして、旧理科教室を教養実践教室としてレストラン風にリニューアルを行った。さらに食堂とカフェテリアのインターロッキング部に風雨よけ等を整備し、環境・居心地改善を行った。

県条例への対応も含めて、文科省補助金も活用して学内連絡通路のバリアフリー化工事を行った。以下の通り、下記3か所を実施した。

- ① 学習棟(事務室)と研究棟(図書館)連絡通路
- ② 管理棟(旧事務室)と研究棟(図書館)連絡通路
- ③ 研修棟(木工教室)と学習棟(チューターズルーム)連絡通路

学習棟の東側に位置する3階建ての研修棟は、1階部分が学生食堂・絵画工作室・教養実践教室(兼食堂)・陶芸室、2階部分が普通教室・中講義室、3階部分が普通教室・和室がそれぞれ設置されている。

棟名称	階数	延床面積 (㎡)
学習棟	2	2,459 ㎡
研修棟	3	1,773 ㎡
研究棟	5	766 ㎡
管理棟	1	641 ㎡
体育館	1	934 ㎡
その他	—	491 ㎡
校舎延床面積合計		7,064 ㎡

(2) 保守・管理体制

平成 25 年度に実施した主な保守点検は、以下の通りである。

浄化槽、電気設備、ガス器具、消火器、自働火災報知機、非常用設備、冷暖房設備、危険物（地下タンク）、電話交換機、ピアノ調律

(3) 成果と課題（点検・評価）

本学の施設設備は、開学以来約 30 年を経過していることから、様々な部分で老朽化が目立つ状態になっている。こうしたなか、学生の安全を最優先に考え、各種法律・条例等に基づき、基準に合った業者により、滞りなく点検を実施し、問題点があれば即刻対応をしている。

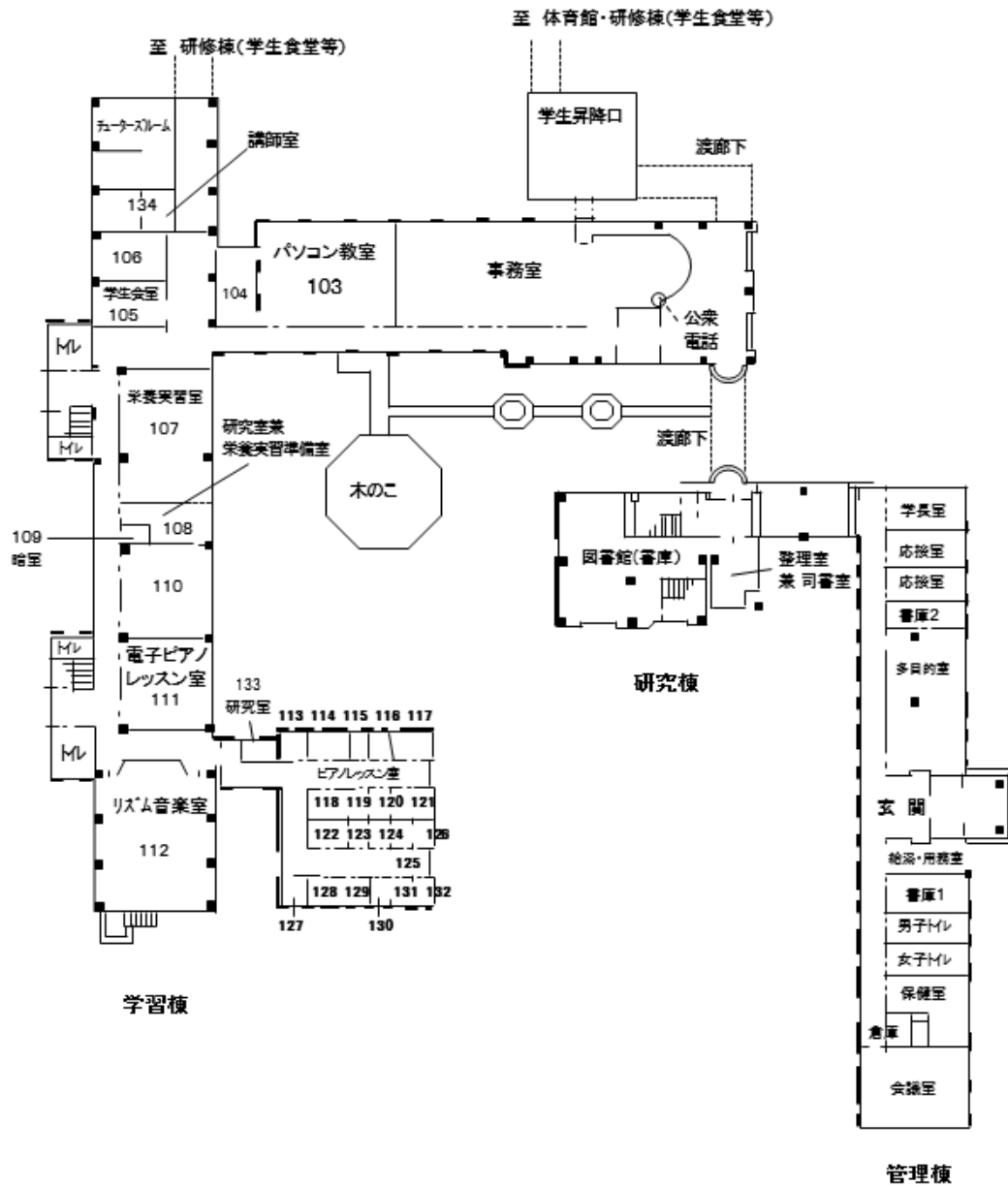
今年度も引き続き、施設のより効率の良い使用を目指して、教室の集約化を図っている。これにより、学生の移動距離の短縮と、各種エネルギー消費の軽減等に効果があったものと考えている。

また、本年度も快適に学ぶための環境改善施策も継続実行中で、特に 25 年度始めに中庭自然野草園の環境見直し策として、「木のこ」（八角ウッド・コテージ）を製作し、学生の憩いの場、及び読み聞かせ等の授業に活用している。

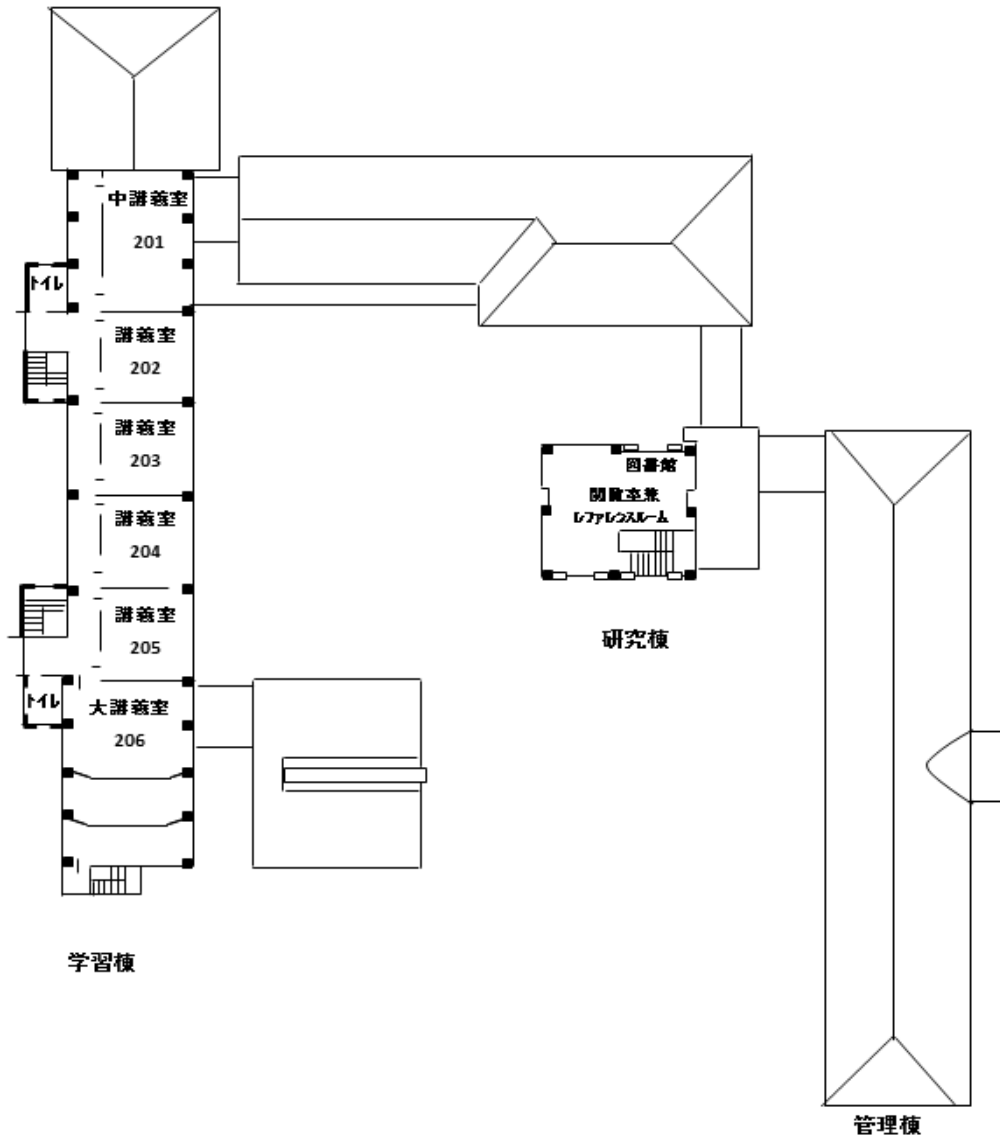
さらに、平成 25 年 3 月末に動物の自然観察をしながら授業を行う自然観察小屋も製作した。動物の観察や触れ合い等の学生教育に役立てていくことにしている。

3 学内見取図

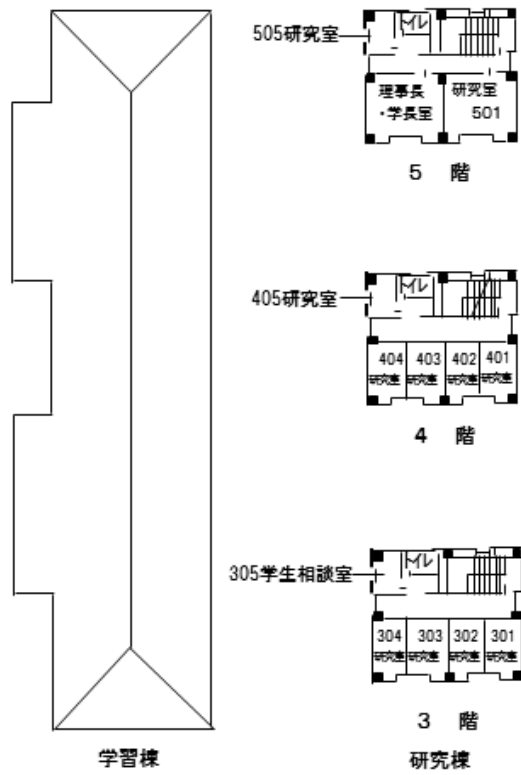
1階 平面図



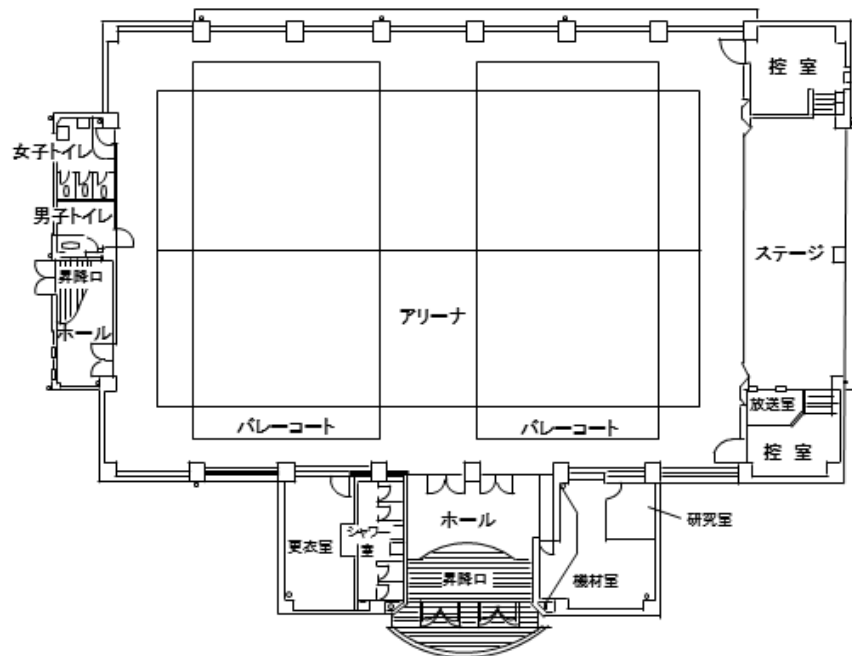
2階 平面図



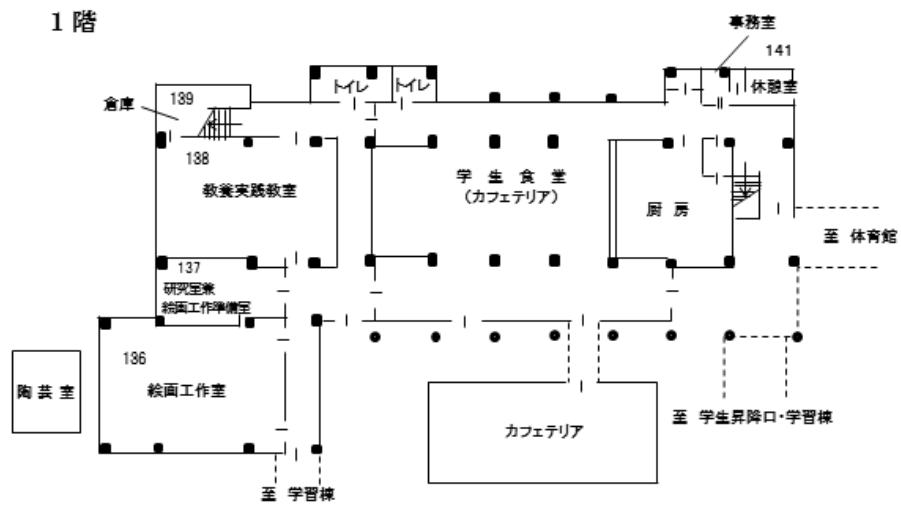
3・4・5階 平面図



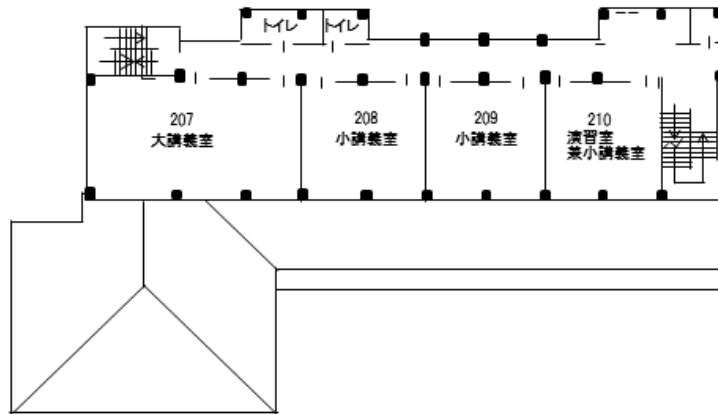
体育館 平面図



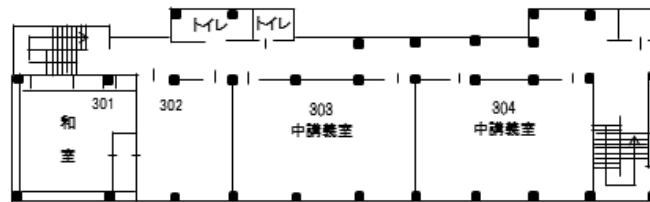
研修棟 平面図



2 階



3 階



X 教授会・学科会・委員会等

1 教授会

(1) 教授会

① 開催日程及び主な審議事項

○ 教授会内容一覧

開催日	審議事項	報告事項
第1回定例教授会 平成25年4月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度後期成績追加認定 ・学籍異動 ・実習期間の授業実施について ・学校行事の授業コマ数読み替えについて ・福田敏南記念育英学生について ・埼玉純真短期大学学外駐輪場利用規程の廃止について ・学生保険について ・部活動について ・自宅外通学生について ・学生総会の開催について ・幼稚園後期/応用実習に対する実習予備審査(乳幼児保育コース2年生/こども学コース2年生) ・保育所実習に対する実習予備審査(乳幼児保育コース2年生) ・介護等体験実習予備審査(こども学コース2年生) ・指定推薦校(案) ・高校訪問(案) ・平成25年度第1回オープンキャンパス実施要領(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
第2回定例教授会 5月22日	<ul style="list-style-type: none"> ・7月12日(金)ディズニー研修(1年生)について ・平成25年度前期試験実施計画(案) ・福田敏南記念育英学生について ・純真クリーンナップ作戦(仮称)について ・純真際について ・部活動について ・学生総会の開催について ・学生指導について ・就職先園訪問について ・平成25年度第2回オープンキャンパス実施要領(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
第3回定例教授会 6月19日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度前期試験時間割表(案) ・平成25年度後期時間割表(案) ・アパート巡回について ・ピアノ希望学生 ・純真クリーンナップ作戦(仮称)について ・インターネット等活用について ・保育所実習の実習審査において審査保留となっている者への対応について ・ホームカミングデーについて ・平成25年度第4回オープンキャンパス実施要領(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
第4回定例教授会 7月31日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度後期時間割(案) ・平成25年度後期履修登録の流れについて ・10月5日(土)保護者会について 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告

X 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・学生総会について ・アパート巡回について ・純真クリーンナップ作戦について ・幼稚園前期／基本実習に関する実習審査 ・ホームカミングデーについて ・平成 25 年度第 6 回オープンキャンパス実施要領(案) ・AO 面談 (8 月 5 日) 担当表 (案) 	
<p>第 5 回定例教授会</p> <p>9 月 25 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 25 年度純真祭の読み替え科目について ・平成 26 年度年間行事予定表 (案) について ・五霞町ふれあい祭りについて ・ゆるきゃらサミットについて ・読書感想文コンクールについて ・キャリアガイダンスについて ・履歴書等の指導の仕方について ・平成 26 年度 AO 入学試験合否判定 ・平成 25 年度第 8 回オープンキャンパス実施要領(案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>臨時教授会</p> <p>10 月 5 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2014 年度 AO 入学試験合格者「梅田紗瑛」について 	
<p>第 6 回定例教授会</p> <p>10 月 30 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度前期成績認定 ・平成 25 年度前期科目等履修生成績認定 ・平成 25 年度後期試験実施計画 (案) ・卒業記念について ・インフルエンザ予防接種 ・平成 26 年度実習日程について (こども学コース) ・実習が未実施または中止になった学生に関する実習審査 ・平成 26 年度 AO 入学試験の合否結果 ・平成 26 年度指定校推薦／公募制推薦 (I 期) / 同窓生推薦 (I 期) 入学試験実施要領 (案) ・ブレカレッジ時間割 (案) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告
<p>臨時教授会</p> <p>11 月 2 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2014 年度指定校推薦／公募制推薦 (I 期) / 同窓生推薦 (I 期) 入学試験合否判定 	
<p>臨時教授会</p> <p>11 月 6 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2014 年度公募制推薦 (I 期) / 同窓生推薦 (I 期) 入学試験合否再判定 ・2014 年度 AO 入学試験合否判定 ・2014 年度 AO / 公募制推薦 (II 期) / 専門高校総合学科等推薦 (II 期) / 同窓生推薦 (II 期) 入学試験の中止について 	
<p>第 1 回正教授会</p> <p>11 月 11 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学教育職員の昇格について ・埼玉純真短期大学教育職員の任用について 	
<p>第 7 回定例教授会</p> <p>11 月 20 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動について ・平成 25 年度前期成績追加認定 ・インフルエンザ予防接種について ・学割証交付願修正について ・学内施設使用願修正について ・学生会選挙及び学生総会について ・規程の見直しについて ・平成 26 年度学生部予算について ・卒業行事委員会について ・施設実習に対する実習審査 ・規程類の見直し (実習資格審査基準) ・キャリアサポートブックの販売について ・履歴書の販売について ・平成 26 年度入学試験日程 (案) ・AO 面談 (11 月 23 日) 実施予定表 (案) ・埼玉純真短期大学入学金免除規程 (改正案) ・外部評価委員の委嘱について 	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員会からの報告

X 教授会・学科会・委員会等

<p>第 8 回定例教授会 12 月 18 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度後期試験時間割 (案) ・平成 26 年度担当科目一覧 (案) ・平成 26 年度前期時間割 (案) ・表現発表会 DVD 申込について ・保育所実習に関する実習審査について ・埼玉純真短期大学入学金免除規程 (改正案) ・AO 入学試験合否判定 ・平成 26 年度事業計画 (案) 及び平成 26 年度予算について 	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>第 9 回定例教授会 平成 26 年 1 月 22 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習 (幼/小) 発表会について ・平成 25 年度第 30 回学位授与式次第 ・平成 26 年度前期時間割表 (案) ・平成 26 年度担当科目一覧 ・平成 26 年度年間予定表 (案) ・新年度の連絡について ・平成 25 年度全国保育士養成協議会及び平成 25 年度全埼玉私立幼稚園連合会より卒業生に対する会長表彰者の推薦について ・卒業関連について ・リーダー研修について ・2014 年度一般 (I 期) 入学試験合否判定 ・2014 年度入学試験日程及び内容について (案) ・春のキャンパス見学会 	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>第 10 回定例教授会 2 月 19 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 26 年度前期時間割表 (案) ・平成 26 年度年間行事予定表 ・平成 26 年度オリエンテーション ・学外研修について ・入学式 ・学位授与式について ・学生便覧について ・健康診断について ・オリエンテーション関係 ・スポーツ大会 ・キャリアガイダンスについて ・履歴書の販売について ・キャリアサポートブックの販売について ・平成 26 年度入学式宣誓候補者 (案) 	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>臨時教授会 2 月 26 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度後期成績認定 (卒業年次生) ・平成 25 年度卒業判定 ・平成 25 年度免許状及び資格取得判定 ・平成 25 年度学位授与式授与代表者選定 ・2014 年度一般 (II 期) 入学試験合否判定 ・2014 年度オープンキャンパス実施内容担当者 (案) 	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>第 2 回正教授会 3 月 7 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学教育職員の任用について 	
<p>臨時教授会 3 月 7 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学則 (改正案) ・平成 25 年度後期成績追加認定 (卒業年次生) ・平成 25 年度免許状取得追加判定 (幼稚園教諭第 2 種免許状) 	<p>・各委員会からの報告</p>
<p>第 3 回正教授会 3 月 26 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・埼玉純真短期大学教育職員の任用について 	
<p>第 11 回定例教授会 3 月 26 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 25 年度後期成績認定, GPA 一覧 (在学生) ・平成 26 年度入学式 ・平成 26 年度幼稚園教育実習 (前期) 事前授業における「観察学習」の提案 ・平成 26 年度科目等履修生について ・学生弔慰見舞金規程について ・体育館利用内規について ・春の学校見学会学生出席表について 	<p>・各委員会からの報告</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・入学式学生役割分担について ・健康診断について 	
--	---	--

② 成果と課題（点検・評価）

教授会は学則第 43 条および教授会規程第 2 条の規定により、教授・専任講師・助教で構成した。これは、本学の教育職員（特任含む）が 14 名と少人数であることが理由である。ただし、教育職員の任用および承認などの重要事項については、正教授で組織する教授会を開催してこれらにあたっている。

さらに、教授会にはオブザーバーとして事務局長・各セクション事務職員も同席することとしている。これは、教員と事務職員が時間的・空間的に場を共有することにより意思疎通を図り、情報を正確に、時間差なく把握・共有することを意図してのことである。これにより、全教職員の共通理解が進み、認識の違いによる業務遅滞や誤りを防ぐことができ、スムーズな大学運営ができています。

教授会への議案は、それぞれの委員会で案件を十分に検討した後、各委員会から提出されている。これに基づいて教授会では審議と報告がなされている。このことにより、一方的な報告会に終始することなく、教職員全員が参画意識と当事者意識を持って教授会に臨む姿勢ができています。

その結果、全員が本学の現状をつぶさに把握でき、意思疎通と協力・協調の姿勢が養われているものと思われる。これらのことから、教授会運営は、概ね順調に行われたと言えよう。

今後の課題としては、委員会での検討議題がともすれば現状に対する対処・対応策になりがちであり、教授会での議題も新鮮さが感じられないことである。今後は、委員会からの提案事項を求めるとともに、次年度以降も、教育の質の向上、学生のより良い育成、地域大学としての使命など、本学の将来を見据えての創造的・建設的な課題を検討していきたい。

（2） 人事

① 異動

氏名	職位	異動日
中村 周	図書館 → 入試広報係	平成 25 年 4 月 1 日
田中 淳一	入試広報係 → 学生係	平成 25 年 4 月 1 日

② 採用

氏名	職位	採用日
持田 京子	こども学科講師	平成 25 年 4 月 1 日
西山 理恵	入試広報係	平成 25 年 4 月 27 日

X 教授会・学科会・委員会等

大木 美晴	図書館	平成 25 年 4 月 23 日
-------	-----	------------------

③ 退職

氏 名	職 位	退職日
内田 和泉	入試広報係	平成 25 年 5 月 31 日
宮本 明子	図書館	平成 25 年 7 月 31 日

2 委員会

(1) 教務委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
小澤 和恵	安倍 大輔・安村 由希子・齋藤 史夫・※片山 美冴・※矢内 美優

② 概要

開催日	内 容
第 1 回 平成 25 年 4 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度後期 成績追加認定 ・学籍異動 ・平成 25 年度 年間予定表の修正 ・実習期間の授業実施について ・平成 25 年度前期 補講予定 ・学校行事の授業コマ数読み替えについて ・5 月 11 日(土) 保護者会 ・1 年生 教職実践演習カルテの配布時期 ・出欠管理方法について ・その他：学生動向、30 周年記念行事について、科目等履修生について
臨時 4 月 24 日	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・学校行事の授業コマ数読み替えについて ・7 月 1 日(月)～7 月 16 日(火) 保育所前半実習期間の保育内容(環境)指導法の実施について ・5 月 11 日(土) 春の保護者会のランチについて ・その他：地球と環境について
第 2 回 5 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・7 月 12 日 (金) ディズニー研修(1 年生)について ・平成 25 年度前期 試験実施計画(案) ・試験監督上の留意点(教員向け)、試験での留意点(学生向け) ・その他：学生動向、複数資格取得者の徴収について、5 月 21 日(火)の「幼児教育者論」(伊

X 教授会・学科会・委員会等

	<p>藤先生、持田先生担当) 羽生市第七保育所園児来学について、「地球と環境」福岡の純真短期大学との合同キャンプについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度前期 各教科の履修者数について ・平成 25 年度前期 補講予定について ・その他：持ち運び用スクリーンの購入について
<p>第 3 回 6 月 12 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度前期 試験時間割表(案) ・平成 25 年度前期 授業評価アンケート ・平成 25 年度後期 時間割表(案) ・その他：学生動向 ・平成 25 年度前期 補講予定 ・平成 24 年度分指定保育士養成施設業務報告書の提出について ・7 月 12 日(金) ディズニー研修について ・その他：平成 24 年度自己点検・評価報告書の作成について
<p>第 4 回 7 月 24 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度後期 時間割(案) ・平成 25 年度後期 履修登録の流れについて ・10 月 5 日(土)保護者会について ・平成 25 年度前期 定期試験受験資格無資格者について ・平成 25 年度前期 補講予定について ・保育内容応用指導法、教職実践演習(幼・小)履修選択について ・平成 25 年度後期 教科書注文票について ・学生動向 ・その他：追・再試験申し込み手続き期間に実習に行っている学生について、実習による公欠を含め欠席が 6 回以上になる学生について、前期試験期間中に出身高校に派遣される学生の追試験について
<p>第 5 回 9 月 18 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・10月5日(土)保護者会について(次第) ・平成25年度 純真祭の読み替え科目について ・平成25年度 表現発表会について ・平成26年度 年間行事予定表(案)について ・その他：平成25年度 集中講義について、安倍先生担当保育実践演習の補講について ・10月5日(土)保護者会について(案内状) ・平成25年度前期 定期試験受験資格無資格者について ・平成25年度後期 補講予定について
<p>持ち回り審議 9 月 20 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動
<p>第 6 回 10 月 9 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 24 年度後期 成績追加認定 ・平成 26 年度 年間行事予定表(案)

X 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・表現発表会アンケート ・平成 25 年度後期 試験実施計画(案) ・教職実践演習(幼・小)発表会と 1 年生保育実践演習選択について ・成績および授業の読み替えについて ・平成 25 年度後期 時間割 ・平成 25 年度後期 補講予定 ・学生動向 ・平成 25 年度後期 集中講義 ・教員免許状および保育士資格取得要注意学生 ・その他：科目等履修生の成績について、実習伝え合いの授業について、学生動向、子どもの保健 I 担当教員について
<p style="text-align: center;">臨時 10 月 30 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度前期 成績認定 ・121071 田名網史織の改姓について ・学籍異動 ・その他：学生による履修登録のミスについて、表現発表会参加科目について
<p style="text-align: center;">第 7 回 11 月 13 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動について ・平成 25 年度前期 成績追加認定 ・平成 26 年度 年間行事予定表(案) ・表現発表会について ・教職実践演習(幼・小)の発表と 1 年生の次年度保育実践演習選択方法について ・入学のしおりについて ・平成 26 年度 科目等履修生募集要項について ・学生動向 ・平成 25 年度後期 受講者なしの科目について ・平成 25 年度後期 補講予定について ・全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について ・平成 26 年度出校予定アンケートについて ・その他：平成 26 年度予算案申請について
<p style="text-align: center;">第 8 回 12 月 11 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度後期 試験時間割(案) ・試験監督上の留意点(教員向け)、試験での留意点(学生向け) ・授業および試験期間に施設実習に参加する学生の欠席の取り扱いについて ・表現発表会の授業読み替えコマ数について ・平成 25 年度後期 授業評価アンケートの実施について ・学位記準備 ・新年度のオリエンテーションについて ・平成 26 年度 担当科目一覧(案) ・平成 26 年度前期 時間割(案)

X 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度前期 補講予定 ・平成 25 年度後期 集中講義日程 ・その他：音楽Ⅲおよび音楽Ⅳ担当教員の産休による代替について
<p>第 9 回 平成 26 年 1 月 15 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職実践演習(幼・小)発表会について ・平成 25 年度 第 30 回学位授与式次第 ・平成 26 年度 前期時間割表(案) ・平成 26 年度 担当科目一覧 ・新年度の連絡について ・平成 25 年度 全国保育士養成協議会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について ・平成 25 年度 全埼玉私立幼稚園連合会 卒業生に対する会長表彰者の推薦について ・その他：表現発表会進行表(案)およびリハーサル進行表(案)について
<p>第 10 回 2 月 12 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動 ・平成 25 年度 第 30 回学位授与式次第 ・平成 26 年度 前期時間割表(案) ・平成 26 年度 年間行事予定表 ・平成 26 年度 オリエンテーション ・平成 26 年度 入学式 ・その他：学外研修について、学生動向 ・新 1 年生クラス分け、2 年生ゼミ振り分け ・「表現発表会を終えて」アンケート集計結果
<p>臨時 2 月 26 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年度後期 成績認定(卒業年次生) ・平成 25 年度 卒業判定 ・平成 25 年度 免許状および資格取得判定 (1) 幼稚園教諭 2 種免許状(2) 小学校教諭 2 種免許状(3) 保育士資格(4) 司書教諭課程修了 ・平成 25 年度 学位授与式授与代表者選定 ・その他：科目等履修生審査日程について、学生動向、学外研修について ・平成 26 年度前期 時間割表(案)
<p>臨時 3 月 7 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学則(改正案) ・平成 25 年度後期 成績追加認定(卒業年次生) ・平成 25 年度 免許状取得追加判定(幼稚園教諭 2 種免許状)
<p>第 11 回 3 月 10 日</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度オリエンテーション ・平成 26 年度入学式 ・平成 26 年度幼稚園教育実習(前期)事前授業における「観察学習」の提案 ・その他：地球と環境における純真短期大学との合同授業について ・平成 26 年度科目等履修生審査について ・その他：平成 26 年度保育実践演習編成について
<p>臨時</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学籍異動

X 教授会・学科会・委員会等

3月26日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度後期 成績認定、GPA 一覧(在学生) ・平成26年度 科目等履修生について ・平成26年度 年間予定表(教職員用) ・平成26年度 補講予定表(3月31日～4月19日) ・平成26年度 純真短大と埼玉純真短大の合同授業について ・平成26年度 学外研修について
-------	---

③ 成果と課題 (点検・評価)

平成25年度も、月1回の定例会議と必要に応じて臨時会議を開催し、学生の動向や履修に関すること、成績認定や教務管轄の学校行事などの審議が適切になされた。その内容は議事録に残され、教授会に審議事項、報告事項として提出している。

(2) 学生委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
高橋 努	安倍 大輔 ・ 稲垣 馨 ・ 持田 京子 ・ 浅井 広 ・ 齋藤 史夫 ※田中 淳一 ・ ※相馬 萌

② 概要

開催日	内容
平成25年4月17日	・ 福田敏南記念育英学生について ・ 埼玉純真短期大学学外駐輪場利用規程の廃止について ・ 学生保険について ・ 部活動について ・ 自宅外通学生について ・ 学生総会の開催について ・ 奨学金について ・ スポーツ大会について ・ 学生証について
5月15日	・ 福田敏南記念育英学生について ・ 純真クリーンナップ作戦 (仮称) について ・ 純真祭について ・ 部活動について ・ 学生総会の開催について ・ 学生指導について ・ 奨学金について ・ 自宅外学生 (本学契約アパート) のピアノ充足状況について
6月12日	・ 自己点検・報告書 ・ 学生総会 ・ アパート巡回について ・ ピアノ希望学生 ・ 純真クリーンナップ作戦 (仮称) について ・ インターネット等活用について ・ 福田敏南育英学生について ・ 第48回全国私立短期大学体育大会について ・ クラブ活動等について
7月17日	・ 学生総会について ・ アパート巡回について ・ 純真クリーンナップ作戦について ・ 純真祭について ・ クラブ活動等について ・ ピアノ搬入について ・ 卒業アルバムについて ・ 福田敏南記念育英学生3名について
9月18日	・ 純真祭について ・ 五霞町ふれあい祭りについて ・ ゆるきゃらサミットについて ・ 卒業行事関連 ・ 着付け ・ 純真祭について ・ 突風の災害について ・ 体育大会 ・ 卒業アルバム (平成25年3月卒業生) ・ 赤い羽根 ・ 奨学金臨時採用
10月9日	・ 学位授与式について ・ インフルエンザ予防接種 ・ 純真祭について ・ ゆるキャラサミ

X 教授会・学科会・委員会等

	ットについて ・五霞町ふれあい祭り ・アパート巡回
11月8日	・自宅外懇親会について ・平成25年 学生会納会について ・インフルエンザ予防接種
11月13日	・インフルエンザ予防接種について ・学割証交付願修正について ・学内施設使用願修正について ・学生会選挙及び学生総会について ・規程集の見直しについて ・平成26年度学生部予算について ・入学のしおりについて ・卒業行事委員会について ・自宅外学生懇親会について ・平成25年 学生会納会について ・学位授与式について ・平成26年度健康診断 ・五霞町ふれあい祭りについて ・ゆるキャラサミットについて ・純真祭 ・アパート巡回
12月11日	・学生部予算について ・卒業行事委員会の開催について ・規程集の見直しについて ・自宅外学生懇親会について ・平成25年 学生会納会について ・卒業関連事項について ・平成26年度健康診断 ・学生会長選挙について ・アパート巡回
平成26年1月15日	・卒業関連について ・青年会議所について ・秋桜会 ・クラブ費精算 ・オリエンテーション関係準備 ・卒業関連事項について ・アパート巡回 ・新入生ジャージ試着 ・12/18 自宅外学生懇親会 ・学生会納会について
2月12日	・学位授与式について ・学生便覧について ・健康診断について ・オリエンテーション関係 ・スポーツ大会 ・リーダー研修について ・キャリアガイダンスについて ・DVDについて ・アパート巡回 ・部費・ロッカー鍵
3月19日	・学生弔慰見舞金規程について ・体育館利用内規について ・春の学校見学会学生出席表について ・入学式学生役割分担について ・学位授与式・謝恩会について ・DVDについて ・次年度アパート巡回 ・学生会執行部について

③ 成果と課題（点検・評価）

平成25年度も、学生部長が前年度からの留任のためスムーズに新年度に臨むことができた。月1回を原則として学生委員会を開き、学生の動向について教職員間で情報共有を図り学生がより充実した学生生活を送れるように支援を行った。また学校行事等について、必要に応じて臨時の委員会を開き、円滑な運営・実施ができるように臨機応変に対応した。

学校行事の計画・運営の中心として活動する学生会執行部に対しては、学生委員会が助言・指導をすることにより、学生にとっては学校行事もまた貴重な学びの機会になったと言える。

本学はキャンパスの立地条件を考慮し自動車通学を許可しているが、学内の駐車場の利用や保険、運転マナー等について説明と指導を行い、適宜、適切な対応と学生に対する指導を行っており大きな問題は起きなかった。

電車通学者に対しては、今年度より、羽生駅と本学との間にスクールバスの運行を開始した。授業時間に合わせて運行しているが、1回の乗車人数には制限があるため、未だ自転車通学の学生がいる。今後、学生の乗降状況を把握しながら、運行本数を調整していく必要がある。

また、通学路に不審者が出没したという情報が学生から寄せられたため、学生に注意喚起を促すとともに、羽生警察署生活安全課と連絡を取り合いながら、教職員による巡回体

制を強化し、学生が安心して通学できるような対応をした。親元を離れ学生アパートに住んでいる学生はもちろんであるが、全ての学生が安全且つ安心して学生生活を送れるよう、地域との連携をより一層深めていくことが必要であろう。

(3) 図書館情報委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
牛込 彰彦	・阿部 峰雄・浅井 広・入江 良英・細田 香織・宮本 明子(司書)・大木 美晴

② 概要

開催日	内 容
平成 25 年 4 月 24 日	・平成 25 年度の委員会運営等について ・選書の方法について・館内レイアウトについて
5 月 8 日	・選書について・研究論文集について・感想文コンクールについて・雑誌の廃棄について
6 月 12 日	・選書について・本学発行の資料収集について
7 月 17 日	・選書について・廃棄雑誌の学生への提供について・本学発行資料の収集について・雑誌等の紛失について
9 月 18 日	・選書について・読書感想文コンクールについて・図書館の貸し出し等業務分担について ・研究論文集の進捗状況について
10 月 2 日	・選書について・読書感想文コンクールについて
11 月 13 日	・選書について・延滞図書の扱いについて・予算について・読書感想文コンクールについて
12 月 11 日	・選書について・平成 26 年度予算について・感想文コンクールについて
1 月 15 日	・選書について・学生便覧・規程等の見直しについて・平成 25 年度自己点検評価報告書作成について・購読和雑誌の新規希望について
2 月 12 日	・学生便覧・規程等の見直しについて

③ 成果と課題 (点検・評価)

平成 25 年度は、学生への利便性の向上を一つの課題として、館内レイアウトの変更などを行った。具体的には、利用頻度の高い絵本資料を 2 階から 1 階に移動し、学生が手に取りやすい環境を整えたことである。また、図書への関心を高めるべく「感想文コンクール」を実施した。応募点数は多くないものの、関心を高める効果はあったと捉えている。情報関係では、学内情報機器を最新のものにすべく補助金申請を行っている。

(4) 実習指導委員会

① 構成

X 教授会・学科会・委員会等

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
牛込 彰彦	・浅井 広 ・伊藤 道雄 ・高橋 努 ・細田 香織 ※奥貫 慶一郎 ※林 真麻 ※松原 みゆき

② 概要

開催日	内容
平成 25 年 4 月 17 日	・幼稚園（後期/応用）実習 実習審査 ・保育所実習 実習予備審査 ・介護等体験実習予備審査 ・平成 24 年度 施設実習報告 ・各実習から
5 月 15 日	・幼稚園後期実習に関して懸念される学生に対する審査 ・実習生調書の添削について ・介護等、小学校、幼稚園の巡視について ・各実習から
6 月 12 日	・平成 25 年度 保育所実習に関する実習審査 ・平成 26 年度 小学校教育実習（子ども学コース）の実施時期について ・平成 26 年度 幼稚園後期実習（子ども学コース）の実施時期について ・平成 25 年度 幼稚園後期実習の実施時期について ・平成 25 年度 幼稚園後期実習報告（概略） ・学納金の納入について ・暑中見舞いについて ・実習指導室の移転について
7 月 15 日	・幼稚園前期/基本実習に関する実習予備審査 ・保育所前半実習に関する経過報告 ・平成 24 年度自己点検・評価報告書作成について ・幼稚園前期/基本実習、幼稚園後期/応用実習にかかわる補講について ・保育所後半実習にかかわる補講について ・暑中見舞いの送付について
9 月 18 日	・平成 26 年度 実習日程について ・幼稚園後半実習が未実施、中止の学生について ・保育所後半実習を実施していない学生について ・保育所実習を中止になった学生について ・保育所実習経過報告 ・小学校実習の実習準備に関する進捗状況について ・平成 25 年度 施設実習実習先一覧について ・実習指導マニュアルの作成について
10 月 2 日	・平成 26 年度 実習日程について ・保育所実習で不可の評価を受けた学生について ・幼稚園前期実習に課題のある学生について ・今後の実習について ・平成 25 年度 施設実習実習先一覧について
11 月 13 日	・平成 25 年度 施設実習に対する実習予備審査 ・平成 25 年度 実習が未実施等の学生について ・学生便覧の見直し・実習の手引きの見直し・実習資格審査規定類の見直し
12 月 11 日	・平成 25 年度 再実習等に係る学生の動向について ・平成 25 年度 施設実習に対する実習予備審査 ・平成 25 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について ・幼稚園前半実習園から断られた学生について ・平成 26 年度入学者の幼稚園実習希望園調査について ・平成 26 年度予算について
1 月 15 日	・平成 25 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について ・平成 25 年度全埼玉私立幼稚園連合会会長表彰者の選考について ・平成 25 年度各実習からの表彰者の選考について ・施設実習実施状況と懸案となっている学生に対する対応について ・平成 26 年度保育所実習依頼状況について ・幼稚園前半と後半で実習先が異なる学生について ・平成 26 年度幼稚園実習、実習依頼先調査について ・平成 26 年度小学校実習について

X 教授会・学科会・委員会等

	・学生便覧の改訂について ・平成 25 年度自己点検評価報告書作成について
2 月 12 日	・入院していた学生の施設実習開始について ・平成 26 年度小学校教育実習に係る実習予備審査（こども学コース 4 名） ・各実習における指導案、日誌について ・平成 25 年度全国保育士養成協議会会長表彰者の選考について ・平成 25 年度各実習からの表彰者の選考について ・再実習等経過報告 ・各実習から
3 月 19 日	・各実習における指導案、日誌について ・施設実習報告 ・幼稚園前期実習実習先希望調査票の収集について ・実習巡視の際の手土産について ・各実習より

③ 成果と課題（点検・評価）

平成 25 年度は、小学校教育実習の時期が従来の 9 月から 5 月に変更になった。また 1 年次入学者の増加など、実習を取り巻く環境に大きな変化があった。しかしながら委員会を中心とした情報の共有や検討が効率的に実施されたことにより、大きな混乱もなく対応することが出来た。今後は、実習に対して更に委員会として貢献できることを積極的に模索し具現化することを必要と考える。

（５） 進路支援委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍 大輔	伊藤 道雄・入江 良英・持田 京子・安村 由希子 ※奥貫 慶一郎

② 概要

期 日	内 容
平成 25 年 4 月 17 日	キャリアガイダンス、キャリアサポートブック、卒業生による講演会、就職報告（各出身高校宛）、チューターズルームの分担、就職園訪問、就職問題集の選定、県別統一試験
5 月 8 日	就職園訪問、キャリアガイダンス
6 月 7 日	ホームカミングデー、幼稚園関係出張、就職園訪問、キャリアガイダンス、キャリアサポートブック
7 月 24 日	ホームカミングデー、キャリアガイダンス、試験対策授業
9 月 20 日	キャリアガイダンス、1 年次のキャリアガイダンス、就職活動状況、履歴書等指導方法、 埼玉協就職問題研究会、就職園訪問、求人票一覧、本学からのお礼状
10 月 9 日	キャリアガイダンス、就職決定状況、次年度ホームカミングデー、進路支援担当、後記チューターズルーム担当、園見学、かがみ（添え状）作成、キャリアサポートブック

X 教授会・学科会・委員会等

11月13日	キャリアガイダンス、1年生対象キャリアガイダンス、就職活動および内定後の過ごし方、外部講師の講演会、卒業生を招いての講演会について、ゼミ担任推薦書について、学生個別カードについて、規程の見直し
12月11日	キャリアガイダンス、就職内定状況、卒業生を招いての講演会、年賀状、予算
平成26年1月15日	キャリアガイダンス、進路決定状況
2月12日	キャリアガイダンス、次年度履歴書およびキャリアサポートブックの販売、祝卒園入園メッセージ、学生便覧、次年度計画、次年度履歴書
3月19日	次年度キャリアガイダンス日程・内容、履歴書添削、次年度卒業生を招いた講演会、新企画)園との情報交換会、次年度ホームカミング、次年度履歴書等販売、次年度就職園訪問、次年度チューターズルーム分担、進路決定状況

③ 成果と課題（点検・評価）

定期的開催される委員会では、学生が計画的に自分の進路を決定できるように、学生の動向や求人等の情報共有するように努めた。また翌年度から学生数が増えることを見据え、ゼミ担当教員との連携を密にし、進路支援委員会とゼミ担当教員が協同で学生指導を行えるような体制の基盤を作ることができた。また本学の就職は実習との関連も強いため、各実習指導担当と連携し、学生が希望や適性に沿った進路を選択することを支援する体制をとることができた。

また委員会が中心となり進路支援の手引きである「キャリアサポートブック」を作成することで、学生がそれを参考にしながら主体的に就職活動に取り組むことができ、またどの教職員が対応しても学生に対する指導・支援の質が保障されるようになった。

来年度は学生数の増加に伴い指導や相談の機会が増えることが予想されるので、今年度、取り組んできた進路支援委員会とゼミ担当教員が連携した指導体制を確立していきたい。

(6) 入試広報委員会

① 構成

委員長名	委員名 (※印は事務担当者)
小澤 和恵	藤田 利久 (学長) ・ 小澤 和恵 ・ 持田 京子 ・ 細田 香織 ・ 浅井 広 ・ ※中村 周 ・ ※西山 理恵

※事務担当職員

② 概要

開催日	主な内容
平成25年4月17日	・ 指定推薦校 (案) について ・ 高校訪問 (案) について ・ 平成25年度第1回オープンキャンパス実施要領 (案)

X 教授会・学科会・委員会等

	<ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスリーフレットについて（報告） ・ポスターについて、高校／会場ガイダンスの状況（報告）、春の大学見学会参加者（報告） ・公開講座について（報告）
5月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度第2回オープンキャンパス実施要領（案）・個票の管理について ・第1回オープンキャンパスアンケート結果（報告）。高校・会場ガイダンスの状況（報告） ・2013年度 公開講座リーフレット、2014年度 募集要項（報告）
6月5日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度第3回オープンキャンパス実施要領（案） ・第2回オープンキャンパスの反省点からの検討、指定推薦校一覧 ・第2回オープンキャンパスアンケート結果（報告）、高校／会場ガイダンスの状況（報告） ・栃木県立足利南高校のキャンパス見学会（報告）、2013年度 公開講座担当について（報告） ・暑中見舞いの葉書きデザインについて（報告）、2014年度 パンフレットモデル決定について（報告）
7月24日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度第6回オープンキャンパス実施要領（案）、 AO入試（8月5日）実施要領（案） ・平成25年度オープンキャンパス参加者状況（報告） ・第5回オープンキャンパスを終えて（報告）、 AO（8月5日）エントリー受付状況（報告）
9月18日	<ul style="list-style-type: none"> ・AO入学試験合否判定・AO面談（9月21日）実施要領 ・第8回オープンキャンパス実施要領（案） ・平成25年度オープンキャンパス参加者状況（報告） ・公開講座実施結果と終了パーティー（10月12日）、招待状について（報告） ・パンフレット進捗状況（報告）
10月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・AO面談（10月12日）実施要領 ・2014年度 指定校推薦・公募制推薦専門高校・総合学科等推薦・同窓生推薦（Ⅰ期）入学試験実施要領（案） ・平成25年度オープンキャンパス参加者数（報告） ・（株）マイナビ石澤氏（本学担当）のオープンキャンパス見学報告について（報告） ・公開講座終了パーティー（10月12日）について（報告） ・AO合格者の対応について（報告）
11月2日	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度 指定校推薦／公募制推薦（Ⅰ期）／同窓生推薦（Ⅰ期）入学試験合否判定
11月6日	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年度 公募制推薦（Ⅰ期）／同窓生推薦（Ⅰ期）入学試験合否再判定 ・AO入学試験合否判定、2014年度 AO／各推薦（Ⅱ期）入学試験の中止について ・プレカレッジシラバス（報告）、純真ニュースレター秋号の編集（報告）
11月13日	<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年度入学試験日程（案）、平成26年度予算について ・AO面談（11月23日）実施要領（案）、埼玉純真短期大学入学金免除規程（改正案） ・2014年度入試結果による入学金免除対象者一覧（11月13日現在）（報告）

X 教授会・学科会・委員会等

	・純真ニューズレター秋号の校正（報告）
12月11日	・平成26年度申請予算、2015年度 学生募集要項について ・埼玉純真短期大学入学金免除規程の改正について、 プレカレッジ（12月14日）実施要領 ・2015年度 大学案内の校正刷りの確認（報告）
12月18日	・AO入学試験合否判定 ・平成26年度入学予定者（AO入試合格）の入学辞退希望について（報告）
平成26年1月15日	・一般（Ⅰ期）入学試験実施要領（案）、春のキャンパス見学会、2015年度学生募集要項 ・平成26年度指定推薦校について（案）、入学予定者（AO合格）の入学辞退について ・入学時思い出シアンケート集計結果（報告）、大学案内（2015年）の校正（報告） ・純真カレンダー（報告）、春のキャンパス見学会リーフレットの送付（報告）
1月18日	・2014年度 一般（Ⅰ期）入学試験合否判定 ・2014年度 入学試験日程（案）および内容について
2月12日	・入学式宣誓候補について、一般・社会人（Ⅱ期）入学試験実施要領（案） ・2014 オープンキャンパス実施担当アンケート（報告）
2月26日	・2014年度 一般（Ⅱ期）入学試験合否判定 ・2014年オープンキャンパス実施内容担当者（案）
3月5日	・春のキャンパス見学会実施要領（案）、2014 オープンキャンパス実施内容（案）

③ 成果と課題（点検・評価）

この数年の順調な学生数確保がモチベーションとなり、今年度も入試業務と広報業務において、建設的な委員会活動が実施できた。委員会にとどまらず、教職員一丸となって高校訪問やオープンキャンパスが実施され、高校生一人ひとりへの親身な対応が、昨年度を上回る入学者を迎える結果につながった。

現代の日本の大学の中でも、特に短期大学の場合は、受験生が「この大学に入りたい」と思える特色を持ち、差別化をいかに図れるかが入学者確保の第一条件と考える。

今後も、昨年と同じでない何かを常に考え、その情報をホームページ等の様々なメディアで発信することを心がけていきたい。

(7) FD・SD 推進委員会

① 構成

委員長名	委員名（※印は事務担当者）
安倍大輔	稲垣馨・小澤和恵・持田京子 ※片山美冴

② 概要

開催日	内容
平成 25 年 4 月 18 日	第 1 回 FD・SD 推進委員会（役割分担について、自己点検・評価報告書について、相互授業参観について、教育実践・研究発表会について）
6 月 12 日	第 2 回 FD・SD 推進委員会（自己点検・評価報告書について、学生リーダーズ読本について、相互授業参観について）
9 月 6 日	埼玉県私立短期大学協会研修会への参加
9 月 20 日	第 3 回 FD・SD 推進委員会（自己点検・評価報告書について、学生リーダーズ読本について、相互授業参観について、FD・SD 研修会について、外部評価委員会について）
9 月 27 日	第 1 回 FD・SD 研修会 藤田利久学長による履歴書指導についての講義
11 月 23 日	第 4 回 FD・SD 推進委員会（外部評価委員の委嘱について、自己点検・評価報告書について）
12 月 13 日	第 5 回 FD・SD 推進委員会（平成 26 年度予算について、平成 26 年度事業計画（案）について、学生リーダーズ読本について、相互授業参観について、外部評価委員会について）
平成 26 年 1 月 22 日	第 2 回 FD・SD 研修会 小野安昭氏（元チュニジア大使）による講演会
2 月 19 日	第 6 回 FD・SD 推進委員会（学生リーダーズ読本について、相互授業参観について）
随 時	授業相互参観
毎回の教授会后	「学生リーダーズ読本」の発表

③ 成果と課題（点検・評価）

FD・SD 推進委員会については、平成 24 年度の「自己点検・評価報告書」の中で「小委員会を定期的に開催すること」を課題としたが、本年度は活動内容のボリュームを勘案し、2ヶ月に1回の割合で FD・SD 推進委員会を定期的に開催することができた。

また教職員のスキルアップならびに業務改善を目的として、FD・SD 研修会を昨年度同様に行ったが、今年度は毎回の教授会の後に各教員で分担して『学生リーダーズ読本』の内容についての報告を行った。毎回、報告者を決めることで内容を皆で共有することが出来たのに加え、質疑応答の時間も設けることで、より深く内容について意見交換をすることが出来た。

9月に開催された埼玉県私立短期大学協会の研修会には今年度も教職員が参加し、それぞれ自分の担当しているセクションの分科会で情報交換や意見交換を行った。

また教員が他の教員の授業を参観する「授業相互参観」を今年度も行っている。ほとんどの教員がこの「授業相互参観」により他の教員の授業を見学した。このように、他の教員の授業を参観する事は、日々の自分の授業の進め方を振り返り、改善のヒントを得る良い機会となっており、来年度以降も是非継続して行っていきたい。

(8) 特別支援教育委員会（子ども支援センター）**① 構成**

委員長名	委員名
伊藤 道雄	伊藤 道雄 ・ 稲垣 馨 ・ 安村 由希子

② 概要

開催日	主 な 内 容
平成 25 年 4 月 17 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 記録用紙の作成について ・ 電話の対応の流れについて ・ 相談室の確保について（家庭科準備室の利用）
5 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先月までのケースについて ・ 研究の事業計画について ・ 荷物の移動について
6 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県巡回相談事業について ・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況
7 月 31 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県巡回相談事業について ・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況
11 月 13 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況 ・ 羽生市巡回相談の担当校の割り振りについて
12 月 11 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況 ・ 羽生市の巡回相談について ・ 来年度の予算について ・ センターの事業の有料化について
平成 26 年 1 月 15 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相談ケースについて ・ 羽生市の巡回相談について ・ 高校の巡回相談について
2 月 12 日	<ul style="list-style-type: none"> ・ 直近 1 ヶ月の子ども支援センター利用状況 ・ 羽生市の巡回相談について ・ 研究セミナーについて

③ 成果と課題（点検・評価）

今年度より、特別支援教育委員会（子ども支援センター）の活動が本格的に始まった。活動の初年度ということもあり、今年度の目標は子ども支援センターの活動について、地元をはじめとして地域に発信していくことであった。本学独自の予算に加え、文部科学省の私立大学教育研究活性化設備整備事業に採択され、実際に相談を受ける子ども支援センターの部屋など必要な環境を整備することができた。また情報発信のためのリーフレット

X 教授会・学科会・委員会等

を作成し、近隣の教育委員会や学校、幼稚園、保育園、関係諸機関等 2,000 箇所に配布した。

業務の内容としては、個別に申し込みを受けつける相談と、従来埼玉県及び羽生市教育委員会の委嘱を受けて行っていた特別支援教育巡回相談などの学校コンサルテーションが柱となっている。今年度の課題を踏まえて来年度はさらなる地域支援の充実を目指したい。

X I 事務組織

1 業務分掌

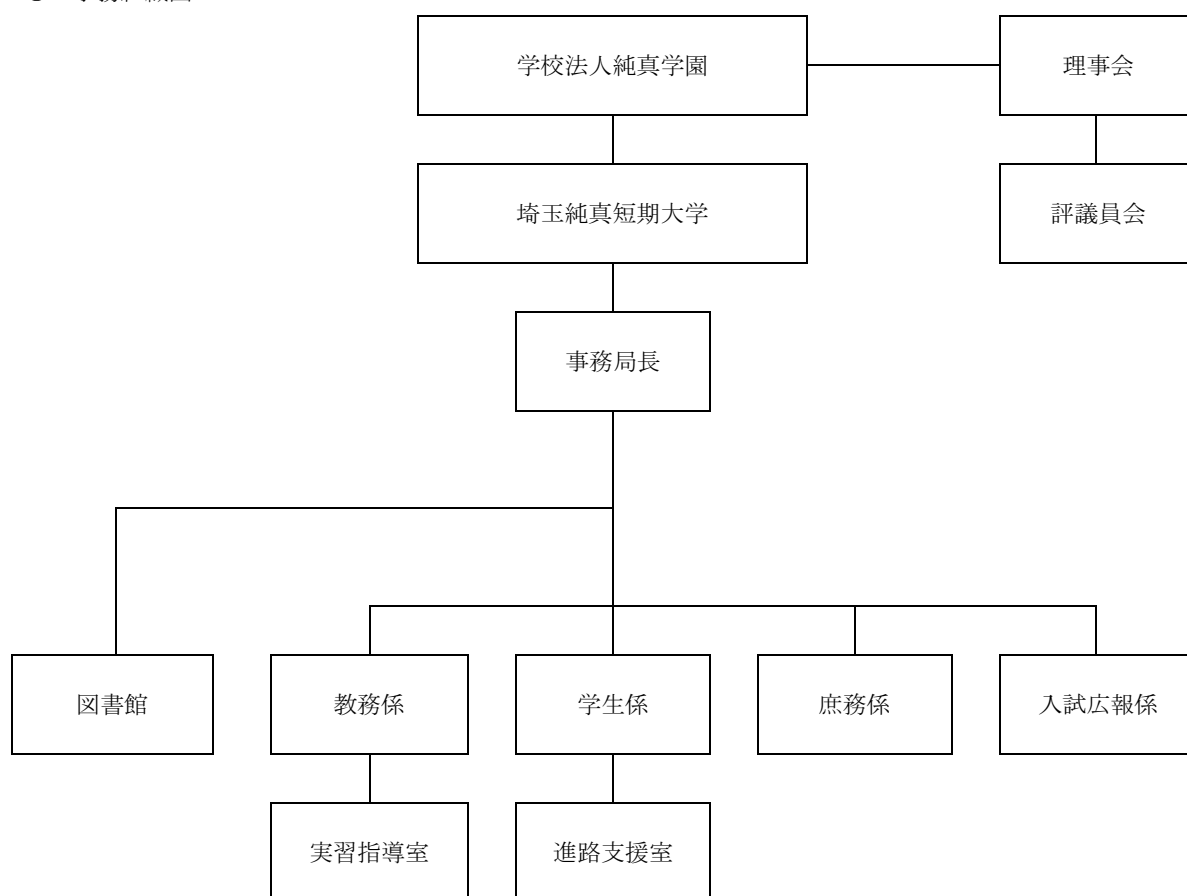
(1) 事務組織の業務分掌

本学は、法人本部所在地（福岡県）から遠く離れており、法人本部の運営方針が本学の地域性に合致しない場合も多いため、開学から独自の学校運営により、自らのスクールアイデンティティを創造すべく、法人分離独立の型のスタイルで運営している。

法人本部組織は、法人事務局の下に、総務課（総務係・人事係・厚生係）及び財務課（経理係・管材係）を置き、法人組織の充実を図っている。本学の事務組織は、教務係・学生係・庶務係・入試広報係で構成されている。また、図書館司書は事務組織に含まれ、さらに、教務係には、学生の実習を支援する実習指導員を配置している。

なお、人事労務、管財関係の業務は事務局長直轄として、庶務係が担当している。

○ 事務組織図



(2) 事務分掌

本学事務職員の構成は、専任職員 12 名で、主要業務は以下のとおりである。

○ 主要業務一覧

部署名	業務内容
教務係	<ul style="list-style-type: none"> ・学務関連 学籍原簿の保守管理・入学・退学・復学・卒業等の学籍関係・学科課程の編成 免許状・資格申請全般 等 ・教務関連 時間割作成及び教室配当・科目履修登録及び試験実施に伴う成績管理 各種証明書作成と発行 等 ・実習関連 実習事前指導・学生相談窓口・実習先手配・実習関係書類管理 等
学生係	<ul style="list-style-type: none"> ・学生関係 生活指導・課外活動の助言・指導及び課外活動に関する諸手続き 証明書類（学生証・学割・健康診断書）の受付および発行・学生調書の保管・管理 等 ・厚生関係 ロッカー・シューズボックスの保守管理・学生専用アパートの案内 奨学金、および傷害保険関係の申請手続き・健康管理・健康診断・健康相談 保健室の管理（救急医薬品の管理）・通学路の安全確保 学内駐車場・学外駐輪場管理維持運営 等 ・就職関係 求人紹介・求職申し込み受付・就職指導・推薦書・人物調書等の発行 等
庶務係	<ul style="list-style-type: none"> ・経理関係 納付金（授業料等）及び追再試験料の収納・学内出納業務全般・伝票管理 等 ・管財関係 校舎・施設・設備管理維持・備品・消耗品購入等 ・庶務関係 郵便物の授受・来客・電話対応・在学証明書発行・拾得物・紛失物預かり 等 ・人事・労務関係 勤怠管理 等
入試広報係	<ul style="list-style-type: none"> ・広報関係 学生募集に関する広報・広告媒体の策定・高校訪問、進学ガイダンス活動 資料請求者・入学希望者へ対応・オープンキャンパス実施・運営 等 ・入試関係 入学試験の実施・運営・入試問題の保管 等

2 成果と課題（点検・評価）

本学の事務組織は、上記の業務（図書館を含む）を事務局長以下 12 名の職員で担当している。年度中の体制に大きな変化は無いが、一部入替えを機に各部署業務の効率見直しを進めていく必要がある。その方策の一環として、本年度 7 月に 3 か所に分散していた事務室を 1 か所に集約し、全員の業務状況の見える化を行い、相互に業務の助け合い、研鑽ができるように、環境づくりを行った。

但し、業務や人員の効率化を追求するあまり、学生へのサービス低下があっては本末転倒であり、学生の満足度を向上させるための職員の意識改革も合わせて進めたい。

X II 財政

1 財政の状況

(1) 消費収支決算の状況

平成 25 年度の帰属収入は、3 億 8,061 万円と前年に比べ 3,324 万円（前年度比 109.6%）の増加となった。

入学定員超過による私立大学等経常費補助金の減額があったものの、学生数の増加と退職給与引当金戻入額が大きく寄与した。

一方消費支出は、3 億 3,569 万円（前年度比 111.6%）で 3,487 万円の増加となり、差引 6,370 万円の支出超過となった。

① 消費収入

(a) 学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は、学生数の伸長により 4,633 万円増加の 3 億 1,848 万円となった。

(b) 手数料

手数料の大部分は入学検定料だが、昨年度の 5,415,000 円とほぼ同じ額となった。

平成 26 年度入試において、平成 22 年度以来 4 年ぶりに入学定員数を 120 名から 150 名に戻したが、昨年度においても志願者数は多かったため、入学検定料に及ぼす影響は小さかった。

○ 現員数の推移一覧

(単位:人)

期 日	現員数
平成 25 年 5 月 1 日現在	276
平成 24 年 5 月 1 日現在	243
平成 23 年 5 月 1 日現在	219

(c) 補助金

補助金は日本私立学校振興・共済事業団から交付される私学助成金が主なものである。平成 25 年度については、前年度比 63.1%となっている。これは、入学定員超過に伴う減額率 50%の上乗せが大きな要因である。また帰属収入に占める割合は 8.7%であり、昨年度に比べると 7.1%下がっている。

(d) 資産運用収入

X II 財政

資産運用収入は、学生から徴収する学内の駐車場利用料が主なものである。

(e) 事業収入・雑収入

雑収入に約 1,553 万円計上しているが、退職給与引当金戻入額が 1,389 万円、自動販売機の手数料収入、コピー代等が 164 万円となっている。

○ 平成 25 年度資金収支計算書（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）（単位：円）

収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	318,403,000	318,478,000	△ 75,000
授業料収入	182,990,000	182,990,000	0
入学金収入	48,015,000	48,015,000	0
実験実習科収入	15,870,000	15,945,000	△ 75,000
施設費収入	65,520,000	65,520,000	0
図書費収入	5,460,000	5,460,000	0
保健衛生費	548,000	548,000	0
手数料収入	5,822,000	6,086,800	△ 264,800
入学検定料収入	5,370,000	5,475,000	△ 105,000
試験料収入	132,000	276,000	△ 144,000
証明手数料収入	320,000	335,800	△ 15,800
補助金収入	67,886,000	33,303,000	34,583,000
国庫補助金収入	67,886,000	33,303,000	34,583,000
資産運用収入	574,000	583,405	△ 9,405
受取利息・配当金収入	2,000	1,405	595
施設設備利用料収入	572,000	582,000	△ 10,000
事業収入	6,430,000	6,571,113	△ 141,113
補助活動収入	6,430,000	6,571,113	△ 141,113
雑収入	1,300,000	1,638,074	△ 338,074
その他の雑収入	1,300,000	1,638,074	△ 338,074
前受金収入	140,520,000	133,992,000	6,528,000
授業料前受金収入	58,625,000	58,960,000	△ 335,000
入学金前受金収入	52,500,000	47,400,000	5,100,000
実験実習料前受金収入	4,375,000	4,400,000	△ 25,000
施設費前受金収入	21,000,000	21,120,000	△ 120,000
保健衛生費前受金収入	670,000	352,000	318,000
図書費前受金収入	3,350,000	1,760,000	1,590,000

X II 財政

その他の収入	79,714,000	60,054,508	19,659,492
前期末短期未収入金収入	2,468,000	2,468,195	△ 195
預り金受入収入	28,525,000	28,519,880	5,120
仮払金収入	32,478,000	13,394,585	19,083,415
仮受金受入収入	10,130,000	9,528,000	602,000
代理会計預り金受入収入	6,113,000	6,143,848	△ 30,848
資金収入調整勘定	△ 137,662,000	△ 120,224,849	△ 17,437,151
期末未収入金	△ 17,460,000	△ 22,849	△ 17,437,151
前期末前受金	△ 120,202,000	△ 120,202,000	0
前年度繰越支払資金	552,701,000	552,701,742	△ 742
収入の部合計	1,035,688,000	993,183,793	42,504,207

支 出 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	175,554,000	168,069,440	7,484,560
教員人件費支出	120,245,000	111,694,402	8,550,598
職員人件費支出	55,309,000	56,375,038	△ 1,066,038
教育研究経費支出	79,855,000	77,366,878	2,488,122
消耗品費支出	8,796,000	16,605,949	△ 7,809,949
光熱水費支出	6,424,000	5,608,759	815,241
旅費交通費支出	3,297,000	2,393,212	903,788
奨学費支出	9,127,000	9,127,000	0
渉外費支出	1,533,000	1,283,329	249,671
通信費支出	1,726,000	1,682,735	43,265
購読料支出	1,993,000	1,424,044	568,956
印刷製本費支出	3,292,000	3,413,270	△ 121,270
修繕費支出	10,610,000	11,189,656	△ 579,656
保険料支出	1,009,000	1,009,447	△ 447
賃借料支出	460,000	638,497	△ 178,497
公租公課支出	76,000	71,000	5,000
負担金支出	1,542,000	1,303,052	238,948
支払手数料支出	24,505,000	17,757,263	6,747,737
学校行事費支出	3,278,000	2,472,361	805,639
厚生補導費支出	1,020,000	795,345	224,655
図書研究費	1,167,000	591,959	575,041
管理経費支出	48,363,000	53,263,599	△ 4,900,599

X II 財政

消耗品費支出	1,410,000	3,242,510	△ 1,832,510
光熱水費支出	2,298,000	2,146,696	151,304
旅費交通費支出	2,254,000	1,795,125	458,875
渉外費支出	340,000	340,410	△ 410
通信費支出	553,000	468,936	84,064
印刷製本費支出	460,000	562,800	△ 102,800
修繕費支出	0	3,977,730	△ 3,977,730
保険料支出	200,000	158,349	41,651
賃借料支出	1,371,000	1,380,817	△ 9,817
公租公課支出	41,000	35,700	5,300
負担金支出	668,000	626,953	41,047
支払手数料支出	7,163,000	7,075,279	87,721
学校行事費支出	2,357,000	2,356,530	470
福利費支出	1,067,000	1,289,406	△ 222,406
広報費支出	22,237,000	22,961,573	△ 724,573
私立大学等経常費補助金返還金	644,000	644,000	0
補助活動仕入支出	5,000,000	4,200,785	799,215
雑支出	300,000	0	300,000
施設関係支出	87,631,000	93,485,647	△ 5,854,647
建物支出	77,460,000	77,597,322	△ 137,322
構築物支出	10,171,000	15,888,325	△ 5,717,325
設備関係支出	48,211,000	27,639,267	20,571,733
教育研究用機器備品支出	41,146,000	18,219,493	22,926,507
その他の機器備品支出	4,065,000	6,449,170	△ 2,384,170
図書支出	3,000,000	2,970,604	29,396
その他の支出	105,605,000	85,512,500	20,092,500
前期末未払金支払支出	28,434,000	28,434,105	△ 105
預り金支払支出	29,002,000	29,043,614	△ 41,614
前払金支払支出	979,000	576,202	402,798
仮払金支払支出	32,478,000	13,291,097	19,186,903
仮受金支払支出	10,130,000	9,528,000	602,000
代理会計預り金支払支出	4,582,000	4,639,482	△ 57,482
資金支出調整勘定	△ 101,852,000	△ 53,181,472	△ 48,670,528
期末未払金	△ 100,458,000	△ 51,787,300	△ 48,670,700
前期末前払金	△ 1,394,000	△ 1,394,172	172
次年度繰越支払資金	592,321,000	523,751,401	68,569,599

X II 財政

支 出 の 部 合 計	1,033,832,000	975,907,260	57,924,740
-------------	---------------	-------------	------------

※学園全体の資金管理上、繰越支払資金は年度末の差異により、収入の部と支出の部の合計は一致していない。

② 消費支出

(a) 人件費

人件費は、前年度比 106.6%の 1 億 6,807 万円と増加した。これは昨年度から学生食堂を直営方式に変更したことによる雇用職員の増加や学生数増加による兼務教員人件費の増加が主な要因である。帰属収入に占める割合は 44.2%となり、昨年度に比べると 1.2%減少しているが、学生生徒等納付金収入、退職給与引当金戻入額を主とした帰属収入の増加が大きな要因である。

(b) 教育研究経費

教育研究経費比率（帰属収入に占める割合）は 28.2%で前年度と比べ 0.5%増加したが、これは平成 26 年度 4 月からの消費税増税に伴う消耗品購入等の先行支出も要因の一つである。教育研究活動の維持・発展のため、今後も消費収支の均衡内での増加を目指していく。

(c) 管理経費

管理経費比率（帰属収入に占める割合）は 15.8%で前年度と比べ 2.6%増加した。光熱水費等の事務室経費の按分基準見直しによる教管区分変更、理科室のカフェ化改修に伴う修繕費の増加、創立 30 周年式典に係る経費の発生が大きな要因である。ただし、一過性のものも多く、今後は教育研究経費との支出状況も踏まえながら減少を目指していく。

○ 平成 25 年度消費収支計算書（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日） (単位：円)

消 費 収 入 の 部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	318,403,000	318,478,000	△ 75,000
授業料	182,990,000	182,990,000	0
入学金	48,015,000	48,015,000	0
実験実習料	15,870,000	15,945,000	△ 75,000
施設費	65,520,000	65,520,000	0
図書費	5,460,000	5,460,000	0
保健衛生費	548,000	548,000	0
手数料	5,822,000	6,086,800	△ 264,800
入学検定料	5,370,000	5,475,000	△ 105,000
試験料	132,000	276,000	△ 144,000
証明手数料	320,000	335,800	△ 15,800

X II 財政

寄付金	0	52,000	△ 52,000
現物寄付金	0	52,000	△ 52,000
補助金	67,886,000	33,303,000	34,583,000
国庫補助金	67,886,000	33,303,000	34,583,000
資産運用収入	574,000	583,405	△ 9,405
受取利息・配当金	2,000	1,405	595
施設設備利用料	572,000	582,000	△ 10,000
事業収入	6,430,000	6,571,113	△ 141,113
補助活動収入	6,430,000	6,571,113	△ 141,113
雑収入	14,932,000	15,532,059	△ 600,059
退職給与引当金戻入額	13,632,000	13,893,976	△ 261,976
その他の雑収入	1,300,000	1,638,083	△ 338,083
帰属収入合計	414,047,000	380,606,377	33,440,623
基本金組入額合計	△ 54,510,000	△ 108,620,199	54,110,199
消費収入の部合計	359,537,000	271,986,178	87,550,822

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	175,554,000	168,069,440	7,484,560
教員人件費	120,245,000	111,694,402	8,550,598
職員人件費	55,309,000	56,375,038	△ 1,066,038
教育研究経費	112,860,000	107,362,204	5,497,796
消耗品費	8,796,000	16,657,949	△ 7,861,949
光熱水費	6,424,000	5,608,759	815,241
旅費交通費	3,297,000	2,393,212	903,788
奨学費	9,127,000	9,127,000	0
渉外費	1,533,000	1,283,329	249,671
通信費	1,726,000	1,682,735	43,265
購読料	1,993,000	1,424,044	568,956
印刷製本費	3,292,000	3,413,270	△ 121,270
修繕費	10,610,000	11,189,656	△ 579,656
保険料	1,009,000	1,009,447	△ 447
賃借料	460,000	638,497	△ 178,497
公租公課	76,000	71,000	5,000
負担金	1,542,000	1,303,052	238,948
支払手数料	24,505,000	17,757,263	6,747,737

X II 財政

学校行事費	3,278,000	2,472,361	805,639
厚生補導費	1,020,000	795,345	224,655
図書研究費	1,167,000	591,959	575,041
減価償却額	33,005,000	29,943,326	3,061,674
管理経費	55,832,000	60,260,318	△ 4,428,318
消耗品費	1,410,000	3,242,510	△ 1,832,510
光熱水費	2,298,000	2,146,696	151,304
旅費交通費	2,254,000	1,795,125	458,875
渉外費	340,000	340,410	△ 410
通信費	553,000	468,936	84,064
印刷製本費	460,000	562,800	△ 102,800
修繕費	0	3,977,730	△ 3,977,730
保険料	200,000	158,349	41,651
賃借料	1,371,000	1,380,817	△ 9,817
公租公課	41,000	35,700	5,300
負担金	668,000	626,953	41,047
支払手数料	7,163,000	7,075,279	87,721
学校行事費	2,357,000	2,356,530	470
福利費	1,067,000	1,289,406	△ 222,406
広報費	22,237,000	22,961,573	△ 724,573
私立大学等経常費補助金返還金	644,000	644,000	0
補助活動収入原価	5,000,000	4,200,785	799,215
雑費	300,000	0	300,000
減価償却額	7,469,000	6,996,719	472,281
消費支出の部合計	344,246,000	335,691,962	8,554,038
当年度消費収入超過額	15,291,000	△63,705,784	
前年度繰越消費収入超過額	1,244,338,247	1,244,338,247	
翌年度繰越消費収入超過額	1,259,629,247	1,180,632,463	

(2) 貸借対照表の現状

平成 25 年度末の資産総額は 16 億 2,563 万円で、うち固定資産が 11 億 30 万円、流動資産が 5 億 2,532 万円。負債総額は 2 億 9,218 万円で、うち固定負債が 8,640 万円、流動負債が 2 億 578 万円となっている。また、基本金は前年度比 1 億 862 万円増の 18 億 9,323 万円となった。基本金については、前年度から今年度にかけて行った工事により増加して

X II 財政

いる。

○ 平成 25 年度貸借対照表（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

（単位：円）

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	1,100,304,933	1,016,104,745	84,200,188
有形固定資産	1,099,464,684	1,015,279,806	84,184,878
土地	423,208,000	423,208,000	0
建物	586,105,703	533,907,490	52,198,213
構築物	28,148,577	14,384,468	13,764,109
教育研究用機器備品	26,397,979	10,315,927	16,082,052
その他の機器備品	9,791,880	4,282,618	5,509,262
図書	13,590,415	12,991,125	599,290
車輛	12,222,130	16,190,178	△ 3,968,048
その他の固定資産	840,249	824,939	15,310
電話加入権	641,927	641,927	0
施設利用権	2	2	0
差入保証金	198,320	183,010	15,310
流動資産	525,324,489	557,641,634	△ 32,317,145
現金預金	523,751,401	552,701,742	△ 28,950,341
未収入金	22,849	2,468,195	△ 2,445,346
貯蔵品	42,932	146,420	△ 103,488
前払金	1,507,307	2,325,277	△ 817,970
資 産 の 部 合 計	1,625,629,422	1,573,746,379	51,883,043

負 債 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	86,398,650	100,292,626	△ 13,893,976
退職給与引当金	86,398,650	100,292,626	△ 13,893,976
流動負債	205,783,360	167,659,533	38,123,827
未払金	62,654,800	39,301,605	23,353,195
前受金	133,992,000	120,202,000	13,790,000
預り金	2,521,877	3,045,611	△ 523,734
代理会計預り金	6,614,683	5,110,317	1,504,366
負 債 の 部 合 計	292,182,010	267,952,159	24,229,851

X II 財政

基 本 金 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
第1号基本金	1,853,231,761	1,744,611,562	108,620,199
第4号基本金	40,000,000	40,000,000	0
基 本 金 の 部 合 計	1,893,231,761	1,784,611,562	108,620,199
翌年度繰越 消費支出超過額	559,784,349	478,817,342	80,967,007
消費収支差額の部合計	△559,784,349	△ 478,817,342	△ 80,967,007
負債の部、基本金の部 および消費収支差額の部合計	1,625,629,422	1,573,746,379	51,883,043

(3) 財務比率

ここには本学の貸借対照表と消費収支計算書関係の主要財務比率を示す。

○ 財務比率（平成21年度～平成25年度）

財 務 比 率		平 成 21 年度	平 成 22 年度	平 成 23 年度	平 成 24 年度	平 成 25 年度
貸 借 対 照 表	固 定 比 率▼	33.9%	34.1%	33.5%	33.5%	53.4%
	固 定 長 期 適 合 率▼	32.5%	32.8%	32.3%	32.4%	51.3%
	流 動 比 率△	542.8%	407.0%	436.4%	332.6%	255.3%
消 費 収 支 計 算 書	人 件 費 比 率▼	69.9%	62.0%	47.9%	45.4%	44.2%
	消 費 支 出 比 率▼	123.6%	107.4%	88.4%	86.6%	88.2%
	消 費 収 支 比 率▼	123.6%	120.6%	89.6%	93.1%	123.4%

※ △（高い値が良い）、▼（低い値が良い）

※ 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額 1,893,231,761+1,625,629,422=2,058,861,183

① 固定比率（固定資産／自己資金×100）

総資産のうち固定資産の比率が目立って高いのが学校法人の特徴である。この比率は固定資産がどの程度自己資金(純資産)で賄われているかをみる指標であるが、本学では平成21年度から平成25年度にかけての5年間、100%以下で推移しており、学校の施設設備は借入金によることなく自己資金で賄われていて健全であると言える。

② 固定長期適合率<固定資産／(自己資金+固定負債)×100>

固定長期適合率の5年間の推移をみると100%以下を維持しており、固定資産を取得するためには短期の他人資金すなわち流動負債に依存することなく、自己資金のほかに短期的に返済を迫られない固定負債で賄うべきであるという原則には適合した財政状態であると

言える。

③ 流動比率（流動資産／流動負債×100）

流動比率は1年以内に償還又は支払わなければならない流動負債に対して、現預金又は1年以内に現金化が可能な流動資産がどの程度用意されているかという、短期的な支払能力を判断する重要な指標であるが、本学は平成21年度以降平成25年度まで、優良で信用度が高いとされる流動比率200%以上を維持しており、また流動負債の中には弁済の対照となる外部負債とは性質を異にしている授業料などの前受金が約65.1%含まれていることから、問題はないと言える。

④ 人件費比率（人件費／帰属収入×100）

人件費問題は学校財務の中で最も大きな比重を占めている。他の消費支出科目をまとめても、その金額は人件費には及ばず、しかも、消費支出の膨張の原因になっている。私立学校振興・共済事業団の実数分析では、同規模の短大法人が約63.6%となっており、同規模短大の平均値からすると、本学は44.2%と低くなっている。人件費の伸びに比べ帰属収入の伸びが大きかったことから前年度をさらに下回る結果となったが、適正な人件費を考慮しながら今後の人事政策を進めていくことが重要である。

⑤ 消費支出比率（消費支出／帰属収入×100）

消費支出比率は、過去5年間に100%を境に上下しており、この数値を超えると過去の蓄積である純財産を食いつぶしている状態を示すことになる。このことから100%が名目的な水準維持の尺度となるが、貨幣価値の下落と物価の上昇などを予想して、比率はある程度のゆとりを持たせて、物価の上昇などに対応できる財務体質を養っていくことが必要とされている。

⑥ 消費収支比率（消費支出／消費収入×100）

平成25年度は123.4%となり、一昨年、昨年と続いた収入超過から支出超過に転じた。これは消費税増税前に翌年度分実施予定の工事を前倒しで行ったこと、施設設備の予想以上の劣化や破損箇所が発見され出費が重なったことが大きな要因である。

2 成果と課題（点検・評価）

本学の平成25年度コンセプトである「創立30周年を迎え、安定と発展のステップとする事業展開」のもと、施設設備面において着実に進展させることができた。

まず、新入生については定員120名に対し予想以上の志願者となり160名の入学者となった。これを受け、平成26年度より入学者定員を30名増やすこととなった。定員の増加

により更なる財政基盤の安定に繋げていきたい。

また、施設設備関係については、事務室機能の移転、情報実習室の PC 入れ替え、全教室へのプロジェクター及びスクリーンの設置、学生貸出用ノート型 PC などの整備を行い、学生サービスの充実を図ると同時に広報面でも多いにアピールできる環境づくりを実現することができた。

しかしながら、今年度は入学定員超過による私立大学等経常費補助金の減額や施設設備の改修の影響で、単年度収支がマイナスへと転じてしまった。消費税増税による物品の前倒購入など一過性の支出増があったものの、今後はより一層計画的な収支計画を立てていくことが必要であるとする。

また、学生数の増加は同時に適正な人員数の配置についても考えていく必要があることから、慎重に見極めていくことも今後の課題になると考える。

XⅢ 同窓会（秋桜会）

1 活動状況

（1） 役員組織

本学では、卒業生、教職員及び元教職員を会員とし、会員相互の親睦及び修養を図り、兼ねて母校の隆昌を図ることを目的として、「秋桜会」という同窓会を組織している。

役員組織は以下のとおりである。

○ 同窓会役員一覧

役職名	役員名（回生・卒業学科）
名誉会長	藤田 利久（学長）
会 長	小林 ひかり（8回生・児童教育学科）
副会長	秋山 知世（2回生・英語学科） 戸張 歩美（26回生・こども学科乳幼児保育コース）
会 計	矢島 愛子（7回生・幼児教育学科第二部） 金谷 佳代（13回生・英語学科）
書 記	野中 美希（26回生・こども学科乳幼児保育コース） 岩崎 香織（27回生・こども学科乳幼児保育コース）
会計監査	岡本 千里（7回生・英語学科） 新井 幸子（12回生・英語学科）
幹 事	各卒業学年より1名以上が担当する。
相談役	高橋 努（学生部長）

（2） 活動状況

本学の同窓会は、1回生が卒業した後、昭和60年11月10日に設立し、今日に至る。

主な活動として、年1回の総会、年4回程度の役員会、会報「秋桜だより」の発行、在学生への支援活動を行っている。活動費は、卒業生から徴収した同窓会費より支出されている。

○ 同窓会の活動状況（平成25年度）

日 程	内 容
平成25年5月26日 第1回役員会	・自己紹介 ・秋桜会について ・秋桜だより
9月8日 第2回役員会	・総会について ・秋桜会30年について ・次回役員会

XIII 同窓会（秋桜会）

10月20日 総会	・開会の辞 ・会長挨拶 ・定数確認 ・議案審議（平成25年度会務報告、決算報告、監査報告、平成26年度会務計画案、予算案） ・新役員挨拶 ・閉会の辞
11月17日 第3回役員会	・総会反省 ・秋桜だより ・終身会費
平成26年1月19日 第4回役員会	・卒業記念品 ・終身会費 ・新役員 ・来年度総会について

2 成果と課題（点検・評価）

同窓会の活動は、多くの卒業生の中でも、会長をはじめとした役員を中心としておこなわれている。卒業生のために設立された同窓会ではあるが、そのあり方が十分認知されておらず、なかなか発展していかない現状である。近年は、同窓会長が、入学式や卒業式に参列し、学生にも同窓会の存在をアピールしている。

昨年度は純真祭とともに開催している総会にて、役員主催で親子向けのレクリエーションを行い、同窓会会員、又、地元の親子の方々に多数参加いただき、楽しい時間を過ごした。今後も卒業生、在学生、地域の方々に参加していただける企画、講演会等を検討していきたい。

執筆者一覧 (50音順)

専任教員

浅井 広 ・ 安倍 大輔 ・ 阿部 峰雄 ・ 伊藤 道雄 ・ 稲垣 馨
入江 良英 ・ 牛込 彰彦 ・ 小澤 和恵 ・ 高橋 努 ・ 藤田 利久
細田 香織 ・ 持田 京子 ・ 安村 由希子

事務職員

大澤 尚子 ・ 大山 富一 ・ 奥貫 慶一郎 ・ 片山 美冴 ・ 佐藤 猛
相馬 萌 ・ 田中 淳一 ・ 中村 周 ・ 林 真麻 ・ 松原 みゆき
矢内 美優

法人事務局

池田 博文

平成 25 年度 自己点検・評価委員会

藤田 利久	教授（自己点検・評価委員長，学長）
安倍 大輔	講師（自己点検・評価副委員長，進路支援部長，FD・SD 推進委員長）
大山 富一	事務局長
牛込 彰彦	教授（図書館長，実習指導部長）
小澤 和恵	教授（教務部長，入試広報部長）
高橋 努	講師（学生部長）
稲垣 馨	准教授（FD・SD 推進委員）
持田 京子	講師（FD・SD 推進委員）
佐藤 猛	シニアアドバイザー
中村 周	図書館・情報係長

平成 25 年度 自己点検・評価報告書

発行日 平成 26 年 11 月 30 日

編集 埼玉純真短期大学 自己点検・評価委員会

印刷 SP 関根印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬 430 番地

TEL.048-562-0711（代）・FAX.048-562-0715



埼玉純真短期大学